長野県松本市

AGATAMACHI

県　町　遺　跡

－第 22 次発掘調査報告書－

2023.3

松本市教育委員会

例　言

1　本書は、令和２年６月１日～令和３年６月18日に実施した、長野県松本市県一丁目 1535-6 他に所在する県町遺跡の第 22 次発掘調査報告書である。

2　本調査は、片倉工業株式会社による土地利用に伴う緊急発掘調査であり、松本市教育委員会が発掘調査、整理・報告書作成を実施した。

3　本書の執筆分担は次のとおりである。

第Ⅰ章を澤柳秀利、第Ⅱ章第１節を白鳥文彦、第Ⅱ章第２節を栗津原準也、第Ⅲ章第４節１・３・第Ⅴ章第１節１を伊藤蔵之介、第Ⅳ章を池谷信之（明治大学黒耀石研究センター）、その他を原田健司が行った。

4　本書作成にあたっての作業分担は以下のとおりである。

遺物洗浄・注記・保存処理・接合復元　市川二三夫・内城悦子・内田和子・中澤温子・洞沢文江・三澤栄子

遺物実測・拓本・トレース（土器・土製品）小林秀行・辻 章江・直井雅尚

（石製品）直井知導

（金属製品）古幡大治朗・直井知導

遺物実測図版組　直井知導・前沢里江

遺構図整理・トレース・版組・一覧表作成　荒井留美子

第Ⅴ章第２節の図・表作成　栗津原準也、白鳥文彦、壬生量子

写真撮影（遺構）澤柳秀利・原田健司・栗津原準也・白鳥文彦・伊藤蔵之介

（空撮）株式会社アンドー　　（遺物）宮嶋洋一

DTP・編集　原田健司

5　本書で用いた略記は次のとおりである。

第○検出面→○検、第○号竪穴住居址址→○住、第○号溝状遺構→溝○、第○号土坑→土○、第○号土器集中部→土器集中○、焼土範囲→焼土○

6　図中で使用した方位は真北を示す。なお、図表中には調査時に設定した任意の座標系の数字を用いた箇所がある。国家座標との対応関係は第Ⅲ章第１節を参照されたい。

7　本書では以下のものを遺構図にスクリーントーンで表した。

焼土　炭化物　流路　撹乱　推定ライン

8　土層色名は、農林水産省農林水産技術会議事務局 監修・財団法人日本色彩研究所 色票監修『新版 標準土色帖』に準拠している。

9　土器・陶磁器実測図の掲載番号はすべて通番となっている。軟質須恵器・緑釉陶器・白磁は掲載番号末尾にそれぞれ「軟」、「緑」、「白」の文字を付して区別した。断面表現は次のとおり。

白抜き：弥生土器・土師器・黒色土器、黒塗り：須恵器・軟質須恵器・白磁、灰色：灰釉陶器・緑釉陶器

10　本書で使用した古代土器編年の時期区分は文献 35 に準じた。

11　発掘調査実施と本書作成にあたり次の方々からご指導、ご助言をいただいた。記して感謝申しあげる。

竹原 学、谷 和隆、馬場伸一郎、原 明芳、平林大樹、廣田早和子、百瀬長秀、明治大学黒耀石研究センター

12　本書の作成・執筆にあたって引用や参考した文献は次頁にまとめて掲載した。

13　本調査の出土遺物および写真・実測図等の記録類は、松本市教育委員会が管理し、松本市立考古博物館（〒 390-0823 長野県松本市中山 3738-1　TEL 0263-86-4710　FAX 0263-86-9189）に収蔵・保管されている。

引用・参考文献一覧

松本市教育委員会刊行物

1　1979『新村安塚古墳群発掘調査報告書』
2　1981『松本市文化財調査報告 No.19　あがた遺跡ー発掘調査報告書ー』
3　1984『松本市文化財調査報告 No.29　下神・町神遺跡ー緊急発掘調査報告書ー』
4　1985『松本市文化財調査報告 No.35　島立南梨・北梨・高綱中学校遺跡、朱里的遺構ー緊急発掘調査報告書ー』
5　1986『松本市文化財調査報告 No.38　島立南梨遺跡ー緊急発掘調査報告書ー』
6　1990『松本市文化財調査報告 No.82　県町遺跡ー緊急発掘調査報告書ー』
7　1990『松本市文化財調査報告 No.85　北梨遺跡Ⅳ・Ⅴー緊急発掘調査報告書ー』
8　1990『松本市文化財調査報告 No.86　小原遺跡ー緊急発掘調査報告書ー』
9　1991『小池遺跡-平安時代集落址の発掘調査-』
10　1993『松本市文化財調査報告 No.99　二反田・岡田町遺跡緊急発掘調査報告書』
11　1993『松本市文化財調査報告 No.107　小原遺跡Ⅱー緊急発掘調査報告書ー』
12　1995『松本市文化財調査報告 No.117　和田遺跡・桜田遺跡・堂田遺跡・種渡し遺跡ー緊急発掘調査報告書ー』
13　1997『松本市文化財調査報告 No.126　小池遺跡Ⅱ・一ツ家遺跡ー緊急発掘調査報告書ー』
14　1997『松本市文化財調査報告 No.128　県町遺跡Ⅺー緊急発掘調査報告書ー』
15　1998『松本市文化財調査報告 No.130　境窪遺跡・川西開田遺跡Ⅰ・Ⅱー緊急発掘調査報告書ー』
16　1998『松本市文化財調査報告 No.133　向原遺跡ー緊急発掘調査報告書ー』
17　2000『松本市文化財調査報告 No.146　大輔原遺跡ー緊急発掘調査報告書ー』
18　2001『松本市文化財調査報告 No.150　川西開田遺跡Ⅴ・三間沢川左岸遺跡Ⅲー緊急発掘調査報告書ー』
19　2002『松本市文化財調査報告 No.162　川西開田遺跡Ⅲ・Ⅳー緊急発掘調査報告書ー』
20　2003『松本市文化財調査報告 No.165　県町遺跡Ⅻー緊急発掘調査報告書ー』
21　2009『松本市文化財調査報告 No.200　県町遺跡第 14 次ー発掘調査報告書ー』
22　2014『松本市文化財調査報告 No.213　県町遺跡第 15 次ー発掘調査報告書ー』
23　2017『松本市文化財調査報告 No.226　三間沢川左岸遺跡ー発掘調査報告書ー』
24　2017『県町遺跡第 16・17 次ー発掘調査概要報告書ー』
25　2018『松本市文化財調査報告 No.230　高堀遺跡 第 6 次ー発掘調査報告書ー』
26　2022『松本市文化財調査報告 No.245　県町遺跡第 21 次ー発掘調査報告書ー』

その他刊行物

27　東筑摩郡松本市郷土資料編纂会 1957『東筑摩郡松本市誌　第一巻　自然』
28　下諏訪町誌編纂委員会 1963『下諏訪町誌　上巻』
29　岩重俊雄 他 1985「Ⅱ 塩尻市広丘吉田若宮出土の偏薙鎌」『平出遺跡考古博物館歴史民俗資料館紀要』2
30　三好博喜 1984「第二編 歴史　第一章 考古」『明科町史 上巻』明科町史刊行会
31　京都市埋蔵文化財研究所 1982『平安京左京八条三坊』京都市埋蔵文化財研究所調査報告第 6 冊
32　神奈川県立埋蔵文化財センター 1986『三ツ俣遺跡（第 1 分冊）』13
33　御代田町教育委員会 1988『鋳物師屋遺跡群 根岸遺跡』
34　長野県教育委員会　長野県埋蔵文化財センター 1989『中央自動車道長野線埋蔵文化財発掘調査報告書 3 - 塩尻市内 その 2- 吉田川西遺跡』
35　長野県教育委員会　長野県埋蔵文化財センター 1989『中央自動車道長野線埋蔵文化財発掘調査報告書 4 - 松本市内 その 1- 総論編』
36　長野県教育委員会　長野県埋蔵文化財センター 1989『中央自動車道長野線埋蔵文化財発掘調査報告書 5 - 松本市内 その 2- 神戸遺跡・上二子遺跡・中二子遺跡 5』
37　長野県教育委員会　長野県埋蔵文化財センター 1990『中央自動車道長野線埋蔵文化財発掘調査報告書 6 - 松本市内 その 3- 下神遺跡』
38　長野県教育委員会　長野県埋蔵文化財センター 1990『中央自動車道長野線埋蔵文化財発掘調査報告書 7 - 松本市内 その 4- 南梨遺跡』
39　長野県教育委員会　長野県埋蔵文化財センター 1990『中央自動車道長野線埋蔵文化財発掘調査報告書 8- 松本市内 その 5- 北梨遺跡』
40　長野県教育委員会　長野県埋蔵文化財センター 1990『中央自動車道長野線埋蔵文化財発掘調査報告書 9 - 松本市内 その 6- 三の宮遺跡』
41　九州歴史資料館 1990『太宰府史跡ー平成元年度発掘調査概報』
42　群馬県埋蔵文化財調査事業団 1991『瀧通寺遺跡』 第 118 集
43　永井久美男 編　1994『中世の出土銭 - 出土銭の調査と分類 -』
44　仙台市教育委員会 1994『仙台市中田南遺跡』 第 182 集
45　熊本市教育委員会 1995『熊本市埋蔵文化財調査年報第 1 号』
46　長野県教育委員会、長野県埋蔵文化財センター 1996『上信越自動車道埋蔵文化財発掘調査報告書 23 - 更埴市内 その 2- 長野県屋代遺跡群出土木簡』
47　原明芳 1996「古代社会の変質と中世の始まり」『松本市史　第二巻歴史編Ⅰ原始・古代・中世』松本市
48　小林康男 1997「塩尻市宗賀小沼田出土の埋蔵銭」『平出博物館 紀要』14, 塩尻市立平出博物館
49　小松学 1997「松本平出土の皇朝十二銭」『平出博物館 紀要』14, 塩尻市立平出博物館
50　長野県教育委員会　長野県埋蔵文化財センター 1999『上信越自動車道埋蔵文化財発掘調査報告書 12 - 長野市内 その 10- 榎田遺跡』
51　三重県埋蔵文化財センター 1997　「替田遺跡」一般国道 23 号中勢道路埋蔵文化財発掘調査概報X
52　塩尻市教育委員会 1998『下境沢遺跡』
53　長野県教育委員会　長野県埋蔵文化財センター 2000『上信越自動車道埋蔵文化財発掘調査報告書 6 - 長野市内 その 4- 松原遺跡』
54　京都市埋蔵文化財研究所 2001『研究紀要』第 7 号
55　奈良文化財研究所 2002『鈴帯をめぐる諸問題』
56　佐久市教育委員会 2002-2005『聖原遺跡 第 1 分冊 - 第 5 分冊』
57　佐久市教育委員会 2002『深堀遺跡 Ⅳ』
58　長野県教育委員会　長野県埋蔵文化財センター 2005『安曇野農業水利事業あづみ野排水路 埋蔵文化財発掘調査報告書 - 三郷村内 - 三角原遺跡』
59　西山克己 2011「信濃出土の古代銭貨の用いられ方とそれが意味すること」『長野県立歴史館研究紀要』17, 長野県立歴史館
60　隠岐の島町教育委員会 2017『久見高丸遺跡』隠岐の島町埋蔵文化財調査報告 2
61　西山克己 2020「シナノから科野　そして信濃へ - 考古資料からみた信濃国誕生 -」

目　次

例言
引用・参考文献一覧
目次
第Ⅰ章　調査の経過 …… 6
第Ⅱ章　遺跡の位置と歴史
　第１節　地理的環境 …… 8
　第２節　歴史的環境 …… 10
第Ⅲ章　調査の方法と成果
　第１節　調査の方法 …… 13
　第２節　調査成果の概要 …… 16
　第３節　遺構
　　１　竪穴住居址 …… 17
　　２　竪穴状遺構 …… 19
　　３　溝状遺構 …… 19
　　４　土坑 …… 20
　　５　その他遺構 …… 21
　第４節　遺物
　　１　土器・陶磁器 …… 43
　　２　土製品・瓦 …… 47
　　３　石器・石製品 …… 74
　　４　金属製品 …… 78
第Ⅳ章　化学分析 …… 81
第Ⅴ章　調査のまとめ
　第１節　県町遺跡出土の特殊遺物について
　　１　皇朝十二銭 …… 83
　　２　帯飾り …… 87
　第２節　県町遺跡における集落の変遷について …… 93
写真図版
報告書抄録

写真図版目次

写真図版 1	空撮写真	写真図版 9	D区遺構
写真図版 2 ～ 5	A区遺構	写真図版 10～13	土器・土製品
写真図版 5 ～ 6	B区遺構	写真図版 14	石器・石製品
写真図版 6 ～ 9	C区遺構	写真図版 15	金属製品

第Ⅰ章　調査の経過

第１節　調査の経緯

片倉工業株式会社（以下「片倉工業」という）により、松本市県一丁目で土地利用の変更が計画された。事業予定地の大半が周知の埋蔵文化財包蔵地である県町遺跡に該当していたため、松本市教育委員会（以下「市教委」という）と片倉工業は当該文化財の保護について協議を行った結果、土地利用に伴い遺構の破壊が止むを得ないと判断されたことから、該当する範囲について発掘調査を実施して記録保存を図ることとなった。発掘調査は市教委が行うこととし、片倉工業と松本市の間に令和２年５月26日付で発掘調査業務委託契約が締結された。また市教委が発掘調査を実施するにあたり技術支援をうけるため、（一財）長野県埋蔵文化財センターと業務委託契約を締結し、職員の派遣をうけることになった。

現地での発掘調査は、令和２年６月１日に開始し、令和３年６月18日に終了した。この間、調査中に判明した土壌汚染に係る土壌対策が片倉工業によって講じられたため、令和２年６月11日から令和３年１月31日まで発掘調査は中断されている。

発掘調査終了後、令和３年６月18日付で松本警察署に文化財発見通知、長野県教育委員会に発掘調査終了報告書を提出した。整理作業は令和３～４年度に行い、令和５年３月31日に発掘調査報告書（本書）を刊行した。

本発掘調査に係る文書等の記録は以下のとおりである。

＜令和２年度＞

５月26日　片倉工業と松本市が埋蔵文化財発掘調査業務に関する委託契約（令和２年度分）を締結
３月30日　片倉工業と松本市が埋蔵文化財発掘調査業務に関する委託契約（令和３年度分）を締結
３月31日　「埋蔵文化財発掘調査完了報告書（令和２年度分）」を片倉工業に提出

＜令和３年度＞

４月15日　片倉工業と松本市が埋蔵文化財発掘調査業務委託契約の変更契約（令和２年度分）を締結
６月18日　「文化財発見通知」を松本警察署に提出
６月18日　「発掘調査終了報告書」を長野県教育委員会に提出
３月22日　「埋蔵文化財発掘調査完了報告書（令和３年度分）」を片倉工業に提出
３月30日　片倉工業と松本市が埋蔵文化財発掘調査業務に関する委託契約（令和４年度分）を締結

第２節　調査体制

＜令和２年度＞

調査団長　赤羽郁夫（松本市教育長）
調査担当　三村竜一（課長補佐・埋蔵文化財担当係長）、澤柳秀利（主査）、原田健司（主事）、
　　粟津原準也（事務員）、伊藤蔵之介（会計年度任用職員）、白鳥文彦（同）、壬生量子（同）
技術支援　若林　卓（長野県埋蔵文化財センター調査研究員）、田中一穂（同）
調 査 員　山本紀之
事 務 局　文化財課　竹原　学（課長）、百瀬耕司（主査）、吉見寿美恵（会計年度任用職員）

＜令和３年度＞

調査団長　伊佐治裕子（松本市教育長）

調査・整理担当　澤柳秀利（主査）、原田健司（主任）、粟津原準也（主事）、伊藤蔵之介（会計年度任用職員）、白鳥文彦（同）、直井雅尚（同）、壬生量子（同）

技術支援　若林　卓（長野県埋蔵文化財センター調査研究員）

事 務 局　文化財課　竹原　学（課長）、百瀬耕司（埋蔵文化財担当係長）、草間厚伸（主任）、吉見寿美恵（会計年度任用職員）

＜令和４年度＞

調査団長　伊佐治裕子（松本市教育長）

整理担当　澤柳秀利（主査）、原田健司（主任）、粟津原順也（主事）、白鳥文彦（会計年度任用職員）、伊藤蔵之介（同）、直井雅尚（同）

事 務 局　文化財課　竹原　学（課長）、百瀬耕司（埋蔵文化財担当係長）、草間厚伸（主任）、吉見寿美恵（会計年度任用職員）

協 力 者

青木義和、赤羽幸子、上松寛由、朝倉秀明、浅田宜弘、芦澤雅量、荒井留美子、荒木　博、市川二三夫、内城悦子、大滝清次、鹿住　浩、加藤　旻、加藤朝夫、金井秀雄、川崎勝英、黒崎　奨、小林伸一、小林秀行、坂口ふみ代、佐々木正子、猿楽あい子、清水陽子、鈴木　高、関口　滋、関谷昌也、曽根原　裕、竹平悦子、田中重正、茅野信彦、辻　章江、富岡亨子、鳥井和幸、直井知導、中村　明、西原達雄、林　秋好、平野宗彦、平林藍子、古屋美江、古幡大治朗、洞澤文江、前沢里江、待井正和、丸山　恵、三澤栄子、三谷久美子、宮澤昭敬、村山牧枝、百瀬二三子、柳澤千代美

第Ⅱ章　遺跡の位置と歴史

第１節　地理的環境

1　県町遺跡の立地

県町遺跡は松本市県 1･2･3 丁目、埋橋２丁目、里山辺西小松に所在し、松本市街地の南東部に位置する。現在遺跡の周辺にはあがたの森公園・蚕糸記念公園などの公園や、幼稚園・保育園、複数の小・中・高等学校、大規模商業施設などがあり住宅地、商業地域として賑わいを見せている。また旧埋橋村三社筆頭の縣宮社（大正８年現地点に遷座）や近世松本城主であった戸田家の廟園も本遺跡内に現存する。遺跡の立地は東部の山地から流れる薄川によって形成された扇状地扇端寄りに位置し、北西に緩く傾斜しており、周辺の標高は 595 ～ 608m の間にある。薄川へは南に 400m、女鳥羽川へは北西に約 700m、東方２～ 3km に美ヶ原から続く筑摩山地があり、西方は奈良井川、梓川を越えて 15km ほどで飛騨山脈に至る。

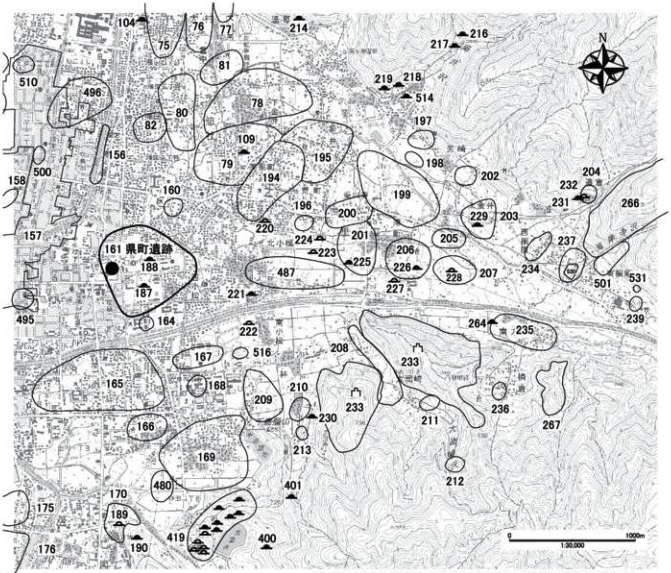
2　松本盆地の形成

県町遺跡を含む松本盆地は、糸魚川～静岡構造線とほぼ平行な東部・西部の山麓線沿いの大断層と、それを横切る東西方向の断層によって更新世中期に誕生した。特に本遺跡が存在する盆地の南半部は、飛騨山脈を開析し南西方向から流入する鎖川・奈良井川・田川などによる複合扇状地で形成された。このように誕生した松本盆地では、さらに更新世後期に市街地付近で局部的な構造性盆地の形成が始まった。同時に市街地西部に傾動的な隆起が起こり、それまで北西方向の大口沢方面に流れていた女鳥羽川は城山方面へ流れを変えた。この女鳥羽川の砂礫の堆積と継続する隆起によって城山ができ、流路は更に東へ押しやられ現在の流路へと至った。このように市街地付近にできた局部的盆地には、北からの女鳥羽川と東からの薄川の河川堆積物が流入・堆積し両河川の複合扇状地を形成した。そして弥生時代中期以降に県町遺跡の集落が、東から流入する薄川の扇状地上に作られた。

3　県町遺跡における薄川の影響

県町遺跡が存在する薄川の扇状地は、度重なる薄川の氾濫によって砂礫が急速に堆積して出来上がった。薄川の本流は現在では県町遺跡の南側を東西方向に流下するが、過去の発掘調査で検出した旧流路や洪水の痕跡から、度々その位置や方向を変えていたことが確認されている。今回の調査でも弥生時代以前の薄川の旧流路と思われる砂礫層を検出したが、現在の本流と異なり北東から南西方向へ流れていたと推測される。

薄川の河床勾配は平均 1/42 と急勾配で、出水率、河況係数共に大きく、有史以後もしばしば洪水を起こしており、過去の調査でも弥生・平安時代の集落を一部破壊する洪水の痕跡を確認している。洪水の際には沿岸部が浸食され大量の土砂が流出し、周辺地域に堆積する。これらの河川堆積物によって河床が高まり短年月のうちに天井川化するので、より低い方へと流路が移り変わり、結果的に流路が首を振ることで広範囲に扇状地が発達した。このように、頻繁に洪水が起こり流路を変化させる薄川は、本遺跡における集落の成立・発展・断絶に影響を与えた。洪水に対して安定的な時期には、薄川の水を生活用水・農業用水として利用できたので集落が成立し、大規模に発展する要因となった。一方で、頻繁に起こる流路の変化や洪水の発生が集落断絶の要因にもなった。また、薄川は流路が大量の堆積物で覆われ一部では伏流水となるため、扇頂・扇央部の入山辺、里山辺付近では水利に乏しいが、本遺跡に近接する源池や埋橋付近は扇状地の末端になるため湧水が多い。この湧水を豊富に利用できた点も本遺跡の集落形成に影響したと思われる。



●：今回の調査地点、数字は松本市遺跡台帳記載の遺跡番号

遺跡

75 大輔原遺跡
76 大村立石遺跡
77 大村前田遺跡
78 惣社遺跡
79 宮北遺跡
80 横田遺跡
81 大村塚田遺跡
82 横田古屋敷遺跡
156 女鳥羽川遺跡
157 松本城下町跡
158 丸の内遺跡
160 四ツ谷遺跡
●161 県町遺跡
164 埋橋遺跡
165 筑摩遺跡
166 三才遺跡
167 筑摩北川原遺跡
168 筑摩南川原遺跡
169 神田遺跡
170 平畑遺跡
175 出川遺跡
176 出川西遺跡
194 里山辺下原遺跡
195 新井遺跡
196 荒町遺跡
197 藤井山田遺跡
198 藤井遺跡
199 堀の内遺跡
200 兎川寺遺跡
201 針塚遺跡
202 上金井矢崎遺跡
203 上金井遺跡
204 追倉遺跡
205 里山辺鎌田遺跡
206 薄町遺跡
207 石上遺跡
208 林山腰遺跡
209 千鹿頭北遺跡
210 御符遺跡
211 大嵩崎遺跡
212 わび沢遺跡
213 林遺跡
233 林城址（大城・小城）
234 西桐原遺跡
235 入山辺南方遺跡
236 橋倉遺跡
237 東桐原遺跡
239 天神海道遺跡
266 桐原城址
267 水番城址
480 神田西遺跡
487 北小松遺跡
495 天神西遺跡
496 岡の宮遺跡
500 片端遺跡
501 海岸寺遺跡
510 堂町遺跡
516 小松下遺跡
530 桐原氏館址
531 天神上遺跡

古墳

104 国司塚古墳
109 惣社車塚古墳
187 県塚 1 号古墳
188 県塚 2 号古墳
189 平畑 1 号古墳
190 弘法山古墳
214 御母家 1 号古墳
216 山田入古墳
217 里山辺丸山古墳
218 藤井 1 号古墳
219 藤井 2 号古墳
220 荒町古墳
221 北河原屋敷古墳
222 巾上古墳
223 大塚 1 号古墳
224 大塚 2 号古墳
225 針塚古墳
226 古宮古墳
227 里山辺猫塚古墳
228 石上古墳
229 上金井古墳
230 御符古墳
231 人穴 1 号古墳
232 人穴 2 号古墳
264 南方古墳
400 生妻 1 号古墳
401 生妻 2 号古墳
419 中山古墳群
514 藤井 3 号古墳

：現存古墳　：湮滅古墳

図 1　調査地と周辺調査地点

第２節　歴史的環境

県町遺跡は薄川により形成された山辺谷から続く扇状地の扇端部に位置する。本遺跡形成に関わる薄川の段丘及び扇状地上には、縄文時代から中世の遺跡が数多く分布しており、近年の発掘調査により次第にその様相が明らかになりつつある。ここでは発掘調査の実施された遺跡を中心に時期別に県町遺跡周辺遺跡の様相を概観する。

旧石器時代：薄川扇状地周辺では、**弘法山古墳**東麓で尖頭器が採集されているのみである。

縄文時代：薄川の扇頂～扇央部にかけて集落跡が確認されているが、扇端部は遺物の出土のみに留まっている。左岸扇頂に位置する**南方遺跡**（早期～後期）、山麓の**林山腰遺跡**（前期～後期）、扇央の**千鹿頭北遺跡**（中期）、右岸扇央部では**石上遺跡**・**里山辺鎌田遺跡**（前期末葉～中期初頭）、**堀の内遺跡**（中期初頭）などで集落跡が確認されている。遺物が確認されている遺跡として、左岸扇端に**神田遺跡**（晩期）、右岸扇央の**針塚遺跡**（前期～後期）、**上金井遺跡**、扇端の**女鳥羽川遺跡**（後期～晩期）、**丸の内遺跡**（後期～晩期）などがある。

弥生時代：中期から扇端部に集落形成が始まり、後期になると扇央部に広がっていく様子が確認されている。左岸扇端には**筑摩遺跡**（中期）、**神田遺跡**（中期～後期）、方形周溝墓と住居址を確認した**平畑遺跡**（後期）、扇央の**千鹿頭北遺跡**（中期～後期）、**筑摩北川原遺跡**（中期～後期）、右岸扇端には大集落である**本遺跡**のほか、礫床木棺墓が確認された**横田古屋敷遺跡**（中期～後期）、扇央に**堀の内遺跡**（後期）、**宮北遺跡**（後期）、**里山辺鎌田遺跡**（後期後葉）などの集落跡が確認されている。右岸扇央に位置する**針塚遺跡**では、昭和57年の調査で前期末の再葬墓群が発見されている。

古墳時代：左岸では扇央に**千鹿頭北遺跡**（前期～後期）で集落跡が確認されているほか、**小松下遺跡**（後期）、**筑摩北川原遺跡**（中期～後期）がある。右岸扇央では、弥生時代後期から継続する**堀の内遺跡**（前期～後期）で住居址と前期の方形周溝墓を検出し、**里山辺鎌田遺跡**（中期）、**薄町遺跡**（後期）、**里山辺下原遺跡**（後期～末期）、**惣社遺跡**（前期～中期）、**宮北遺跡**（末期）、**新井遺跡**（前期～後期）、扇端の**天神西遺跡**（前期）などで集落跡や遺物を確認している。

古墳は河岸段丘上と扇状地両端の山麓部に分布している。前者では右岸の薄町から荒町にかけて積石塚古墳が知られ、**針塚古墳**（中期）、**古宮古墳**（後期頃と推定）などを確認している。**針塚古墳**では竪穴式石室から舶載鏡の内行八花文鏡、鉄斧・鉄鏃等が出土している。**石上古墳**（後期）では土師器と須恵器を伴う周溝が検出されている。山麓部では、里山辺地区の藤井沢沿い上流右岸に積石塚古墳の**里山辺丸山古墳**、中流域に**藤井１～３号古墳**、入山辺地区の追倉沢沿いに**入穴１・２号古墳**などの後期古墳がある。このほか実態が明らかではないが、藤井沢沿い上流に**山田入古墳**がある。左岸には扇頂に**南方古墳**、扇央に**中上古墳**などの後期古墳があり、**南方古墳**では横穴式石室から金銅装の圭頭太刀、銅鋺・承盤、鉄製壺鐙などの多量の遺物が出土した。山麓部には直刀、剣が出土した**御符古墳**（中期後半～後期初頭）、さらに南西の山腹または尾根の基部に生妻、棺護山の**中山古墳群**（中～後期）、その西側の中山丘陵北端には**弘法山古墳**（前期）がある。

奈良・平安時代：扇状地上に広範囲に遺跡が分布している。左岸には、**林山腰遺跡**、**小松下遺跡**、**千鹿頭北遺跡**、**神田遺跡**、**平畑遺跡**があり、集落跡を確認している。**平畑遺跡**では平成２年の調査で複数の住居址と墓址を検出している。右岸では、**石上遺跡**、**薄町遺跡**、**堀の内遺跡**、**兎川寺遺跡**、**針塚遺跡**、**新井遺跡**、**里山辺下原遺跡**の調査で集落跡が発見されている。下流域の**本遺跡**や**宮北遺跡**でも集落跡を確認している。

中世以降：右岸に**海岸寺遺跡**、**里山辺下原遺跡**、**本遺跡**があり、左岸では**林山腰遺跡**、**三才遺跡**がある。**林山腰遺跡**では平成14年の２次調査で礎石建物が発見されており、林城に関連する遺構と考えられてい

る。これ以外では、**堀の内遺跡**、**石上遺跡**、**薄町遺跡**で火葬墓や土坑が確認され、青磁や中世陶器などの遺物も得られている。**南方遺跡**では平安末から中世にかけての住居址が発見され、**宮北遺跡**では平成21・22年の6次・7次調査において中世と思われる竪穴状遺構が検出された。薄川流域には**林城址**、**桐原城址**などの山城があり、周辺に平時の居館も存在したと思われるが、発掘事例が少なく様相は明らかになっていない。

県町遺跡に限ってみると、1980（昭和55）年にあがたの森公園造成に伴う緊急発掘調査が実施され、以降開発事業に伴う松本市教育委員会による調査は、今回調査で22回を数える。これらについては、図2に各調査地点の位置を、表1に各調査の概要を示した。以上の調査成果によって当地域の各時代の様相は解明されつつある。

表1　過去の調査成果一覧

調査次	調査年度	調査原因	調査面積	検出遺構	主な出土遺物	特記事項
1次	1980（昭55）	あがたの森公園造成	583㎡	竪穴住居3軒（弥生2、平安1）、礫敷遺構1基	弥生土器、土師器、石器（磨製石鏃、磨製石斧、石皇丁など）、金属製品（釘、鈴子）、布目瓦	弥生時代の焼失住居内から、石器が一括出土 『松本市文化財調査報告No.19』
2次	1984（昭59）	あがたの森公園駐車場造成	1338㎡	竪穴住居17軒（弥生14、古墳3）、土坑11基、溝3条	弥生土器、石器（打製石鏃、磨製石鏃、石皇丁など）、管玉、石製紡錘車、骨製鏃	弥生時代の焼失住居が4軒検出され、良好な一括遺物が出土 『松本市文化財調査報告No.82』
3次	1985（昭60）	あがたの森公園造成	1372㎡	竪穴住居24軒（弥生19、古墳2、平安1）、土坑44基、溝6条	弥生土器、土師器、石器（打製石鏃、磨製石鏃、石皇丁など）、研磨鞭	弥生時代の遺構・遺物を多数確認 『松本市文化財調査報告No.82』
4次	1986（昭61）	松本県ヶ丘高校内特別教室建設	853㎡	竪穴住居13軒（平安）、土坑4基、溝4条、集石3基	土師器、須恵器、灰釉陶器、緑釉陶器、青磁・白磁、石器（砥石、凹石）、温力（石英閃緑岩）、金属製品（釘、刀子など）、羽口、土錘	緑釉陶器、青磁・白磁、温力などが出土、平安時代の遺構・遺物が主体 『松本市文化財調査報告No.82』
5次	1987（昭62）	松本県ヶ丘高校内本館建設	696㎡	竪穴住居27軒（弥生2、古墳4、平安21）、土坑4基、溝2条、集石4基、ピット群1基	弥生土器、土師器、須恵器、灰釉陶器、緑釉陶器、石器（打製石鏃、磨製石鏃、凹石など）、金属製品（釘、刀子など）、羽口	弥生一平安時代の遺構・遺物を確認、内面に朱墨の残った須恵器皿が出土 『松本市文化財調査報告No.82』
6次	1988（昭63）	松本県ヶ丘高校内部室棟建設	84㎡	竪穴住居2軒（平安）、土坑2基	土師器	平安時代の遺構・遺物を確認 『松本市文化財調査報告No.82』
7次	1986（昭61）	松本県ヶ丘高校内U字溝敷設	6㎡	竪穴住居2軒（平安）	土師器、須恵器	立会調査で平安時代の遺構・遺物を確認 『松本市文化財調査報告No.82』
8次	1989（平1）	松本県ヶ丘高校内倉庫建設	48㎡	竪穴住居2軒（平安か）、土坑1基、自然流路3条	土師器、須恵器、灰釉陶器、凹石	平安時代前期の遺構・遺物を確認 『松本市文化財調査報告No.82』
9次	1991（平3）	旧制松本高等学校記念館建設	330㎡	掘立柱建物址1軒（平安）、溝2条、集石2基、自然流路2条	土師器、須恵器	大型の掘立柱建物址（5×4間）検出
10次	1995（平7）	あがたの森公園内貯水槽設置	40㎡	土坑5基、ピット7基、溝2条、自然流路1条	弥生土器、須恵器	主に弥生時代の遺構・遺物を確認
11次	1996（平8）	大蔵省関東財務局公務員宿舎建設	662.4㎡	竪穴住居4軒（奈良・平安3、不明1）、建物址1軒（近代）、土坑4基	土師器、須恵器、灰釉陶器、緑釉陶器、金属製品（鉄鏃、鞍、海老錠、降平永宝など）、土製品（羽口）、石器（円石）	海老錠、風字硯、朱墨硯、皇朝十二銭（降平永宝）、大量の鉄滓が出土 『松本市文化財調査報告No.128』
12次	2001（平13）	松本県ヶ丘高校体育館建替え	1200㎡	竪穴住居37軒（弥生1、平安26、中世1、不明8）、土坑49基、ピット69基、竪穴状遺構2基、溝5条、流路4条、集石3基	弥生土器、土師器、須恵器、灰釉陶器、緑釉陶器、青磁・白磁、常滑焼、陶硯、石器（磨製石鏃、紡石など）、水晶製温力、金属製品（鉄鏃、紡錘車など）、銭貨（宋銭）	平安時代住居址から緑彩文鬲、緑釉三足硯、水晶製温力などが出土 『松本市文化財調査報告No.165』
13次	2004（平16）	共同住宅建設	170.1㎡	土坑6基、ピット89基	土師器、須恵器、陶磁器、金属製品（釘）、石器（臼）	全体的に近世～近代の痕見をうけているが、古代の遺構・遺物を検出
14次	2007（平19）	マンション建設工事	594.6㎡	竪穴住居21軒（奈良・平安20、不明1）、竪穴状遺構6基、土坑112基（うち井戸2基）、ピット153基、溝状遺構25条、自然流路2条	弥生土器、土師器、須恵器、灰釉陶器、緑釉陶器、青磁・白磁、土師質土器、中世陶器、丸鞆（石製）、つき臼、曲物底板、金属製品、銭貨（皇平元寶）	多量の緑釉陶器、緑彩文陶、墨書土器、朱墨硯、丸鞆などが出土 『松本市文化財調査報告No.200』
15次	2010（平22）	松本県ヶ丘高等学校小体育館建設	702.7㎡	竪穴住居2軒（平安）、土坑60基（近世～現代、時期不明あり）	土師器、須恵器、灰釉陶器、瓦、金属製品（釘、紡錘車など）、銭貨（元祐通宝）、陶磁器（近世～現代）	全域洪水の堆積層に覆われていたが、平安前期の住居址から古代の土器類が多数出土 『松本市文化財調査報告No.213』
16次	2010・11（平22・23）	幸町・東部統合保育園建設	4420㎡	竪穴住居55軒（弥生5、平安49、不明1）、掘立柱建物址5軒（弥生）、土器棺墓1基、火葬本棺墓1基、土坑88基、ピット101基、溝30条、集石5基	土師器、須恵器、黒色土器、灰釉陶器、緑釉陶器、緑彩文陶、青磁・白磁、転用硯、上錘、石器（石鏃、石皇丁、環状石斧、勾玉、管玉、丸鞆、指輪状石製品など）、金属製品（鉄鏃、刀子、温力、銅陶など）	勾玉、管玉、指輪状石製品、大量の緑釉陶器、緑彩文陶、越州窯青磁などが出土 『第16・17次発掘調査概要報告書』
17次	2012（平24）	人工芝運動場建設、市道拡幅事業	2259㎡	竪穴住居40軒（弥生3、古墳4、奈良・平安30、不明1）、掘立柱建物址3軒（平安）、礎床本棺墓3基（弥生）、土坑墓2基（弥生）、土坑60基（弥生～平安）、溝5条（平安）	土師器、須恵器、灰釉陶器、緑釉陶器、陶磁器（中世～近世）、黒曜石剥片、石製紡錘車（鏡、勾玉、滑製石斧）、臼玉、金属製品、骨、炭化物	礎床本棺墓から多量の焼骨、古墳時代中期（5世紀）の住居址から初期須恵器が出土 『第16・17次発掘調査概要報告書』

調査次	調査年度	調査原因	調査面積	検出遺構	主な出土遺物	特記事項
18 次	2013（平25）	あがた児童センター建設	308㎡	土坑３基、ピット２基、溝１条、自然流路４条	土師器、須恵器、灰釉陶器、陶磁器、金属製品	平安時代の遺構・遺物を確認
19 次	2018（平30）	県第一雨水幹線雨水貯留施設設置	32㎡	なし	なし	撹乱を受けており、遺構・遺物は確認できず
20 次	2019・20（令１・２）	県第一雨水幹線新設事業	313.3㎡	竪穴住居 14 軒（弥生２、古墳７、古代５）、土坑 56 基、ピット 12 基、溝状遺構３条	弥生土器、土師器、須恵器、灰釉陶器、管玉、石製模造品（鏡）	古墳時代住居址の床面から土師器が一括出土
21 次	2020・21（令２・３）	（都）松本駅北小松線改良事業	1028㎡	竪穴住居７軒（弥生２、古墳３、平安２）、竪穴状建物１基（中世）、溝２条、土坑７基、ピット 21 基、焼土集中１基、	弥生土器、須恵器、土製円盤、磨製石鏃、打製石鏃、土師器、黒色土器、軟質須恵器、灰釉陶器、緑釉陶器、白磁、羽口、風字硯、鏃、刀子、釘、紡錘車、銭貨	溝から土器がまとまって出土。平安集落の一部を調査。緑釉陶器、延喜通宝等が出土（松本市文化財調査報告No. 245）

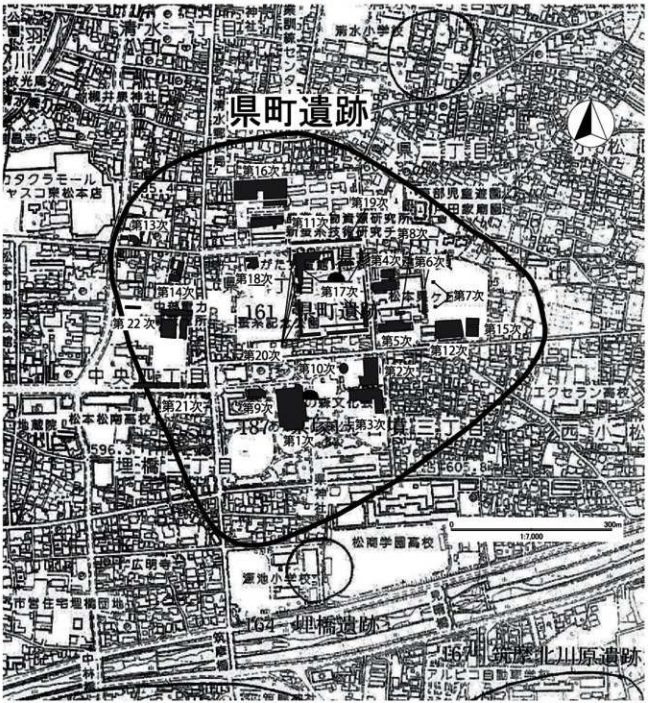


図２　調査地と周辺調査地点

第Ⅲ章　調査の方法と成果

第１節　調査の方法

1　調査区の設定

調査の原因は所有者による土地利用の変更で、遺跡が破壊されると考えられる土地利用の範囲が調査対象になるが、事前に実施した範囲確認のための試掘調査の結果により調査範囲をある程度絞り、Ａ区からＤ区まで４区画を調査することとした。

2　発掘手順

パワーショベルを使用して、古代の遺構検出面（Ⅰ検）まで掘削した。その後、人力による検出を行い、検出が完了した遺構から遺構番号を命名し、人力による掘り下げを開始した。なお、遺構番号は調査区ごとに１号から順に命名した。竪穴住居址については、調査終了後に本遺跡内での通番に振り替えを行った。掘り下げの終了した遺構は写真と測量図を作成し、記録を行った。すべての遺構の掘り下げと記録が終了した後、重機を使用して弥生時代の遺構検出面（Ⅱ検）までの掘り下げを行い同様の手順を繰り返した。最後に発生土による埋め戻しを行い、発掘調査の現場における工程を終了した。

3　測量・写真記録

遺構測量に係る基準は国家座標（世界測地系・第８系・東北太平洋沖地震前の値）を用いた。調査地周辺にある街区多角点を基に調査地内に基準点を設置し、これを基に 3m グリッドを設定した。測量基準点は X=25925.000、Y=-46640.000 を NS0、EW0 とした。平面図は簡易遣り方測量により作成し、部分的に光波測距儀を併用した。平面図・断面図の縮尺は 1/20 を原則とし、詳細図が必要なものは 1/10 で作成した。写真は発掘調査の各調査段階と遺構等の遺物出土状況および完掘状況を一眼レフデジタルカメラ（NIKON D5600 と D80）・コンパクトデジタルカメラ（CASIO　EX-H20G）で撮影した。

4　整理の方法

土器・土製品は、遺構と周辺の検出面、包含層出土品を中心に図化、掲載した。洗浄と接合を行った遺物を各調査区・各検出面ごとに同時に並べ、各遺構の遺物を時期ごとに分類したうえで図化する遺物を選定している。この際、残存部が少ないために図化掲載はできないものの、その土器の特徴をよく示す部位が残存するなどして、遺構・遺跡の性格を明らかにするうえで重要であると考えられる遺物も多く確認された。そのためこれらを図化掲載遺物とは別に参考品として選定しておき、本文執筆の参考とした。

石器・石製品は、洗浄後に個体通し番号を付して台帳に登録し、計測・観察を行った。遺物は個体番号と出土地点・状況の情報を記載したチャック袋に１点ずつ入れて管理することとした。実測図・写真は、遺構出土品を中心に遺存状態が良いものについて行い、一覧表には全点記載した。

金属製品（鉄滓も含む）は、遺物として取り上げた全点の計測を行って一覧表を作成し、そのうち遺存が比較的良好なものに限って図化した。なお、この過程で現代の遺物であると判明したため表掲載を見送った製品があるが、混乱を避けるため番号の繰り上げはせず、欠番扱いとした。

個別の遺構図は、1/80 を基本とし、遺構内施設や小規模なものは 1/40 で掲載した。

5　地区別の概要

(1)　Ａ区

東西約 55m、南北約 10m の範囲を設定した。調査区の西側と中央やや東寄りが大きく攪乱されていた。基本層序Ⅴ層上面が古代検出面となるが、そこから遺構プランが確認できるところまでさらに掘り込んだ深さをⅠ検とした。この面で検出した遺構は竪穴住居址や竪穴状遺構、溝状遺構、土坑等で、古墳時代～中世に帰属する。Ⅰ検下位には基本層序Ⅶ層の黒褐色粘質土層である弥生包含層が確認でき、遺構検出をするた

めにその下層である地山（基本層序Ⅷ層）上面をⅡ検とした。この面で検出した遺構は、柱穴痕と考えられる竪穴住居址や土坑等である。出土遺物は極めて少ないが、弥生時代中期後半に帰属すると考える。

(2) B区

東西 11 ～ 14m、南北約 33m の範囲を設定し、Ⅴ層上面をⅠ検とした。この面で検出した遺構は竪穴住居址や溝状遺構、土坑等で、平安時代に帰属する。調査区の大部分は、Ⅰ検時に既に地山であるⅧ層が拡がっているが、南西部にのみⅠ検下位に弥生包含層が確認できたため、その下層であるⅧ層上面をⅡ検とした。この面で検出した遺構は柱穴痕と考えられる土坑等で、出土遺物は極めて少ないが、出土層位から弥生時代中期後半に帰属すると考える。

(3) C区

東西約 26m、南北約 33m の範囲を設定した。調査区の南東部が大きく撹乱されていた。大部分において近代以降の層直下に基本層序Ⅰ層が検出された。南西部のみ基本層序Ⅲないし Ⅳ層が堆積していた。これらの下層をⅠ検とした。この面で検出した遺構は竪穴住居址や竪穴状遺構、溝状遺構、土坑等で、古墳時代から中世に帰属する。A区同様にⅠ検下位に弥生包含層が確認でき、その下層である地山面をⅡ検とした。Ⅱ検では、北東から南西に延びる洪水性の砂礫層が認められた。この面で検出した土坑の多くはその掘方から柱穴痕と考えられ、出土遺物は極めて少ないが、弥生時代中期後半に帰属すると考える。

(4) D区

東西約 26.5m、南北約 3.5m の範囲を設定した。遺構は皆無であったが、A ～ C区でみられた弥生～古代包含層が、調査区西側に行くにつれて消滅することが確認できた。位置的に遺跡範囲の縁辺部であることをふまえると、ほぼ一致する箇所で集落が切れることがわかった。

6　基本層序（表 2、図 3）

調査地における土層は各地区で差がみられた。大枠での基本層序を表 2 にまとめたが、地区によって存在しない層もある。各層の形成時期は、Ⅰ～Ⅱ層が現～近代、Ⅲ～Ⅳ層が近～中世、Ⅴ～Ⅵ層が古代～古墳時代、Ⅶ層が弥生時代中期、Ⅷ層が弥生時代中期以前で、近辺の過去調査地と同様に複合遺跡の様相を呈している。

Ⅲ・Ⅳ層は、A 区の西部と C 区南西部でしか確認できなかった。Ⅴ層は古代包含層であり、Ⅰ検とした。色調や混入物に若干の違いはみられるが各地区において確認された。古代包含層は、詳細に観察すると複数層認められる場所もあったが、差異がわずかでさらに遺構覆土との見分けも困難であったため、今回の調査では遺構がより明瞭に検出できるⅠ層をいくらか掘り込んだ面を検出面とした。Ⅵ層の古墳時代包含層は、A 区中央部で確認されたが、古代包含層との差異が小さく、他地区での検出は困難であった。また、Ⅴ層中に平安時代の遺構と切り合う洪水性の砂礫層が複数確認されている。Ⅱ検であるⅦ層は、黒褐色の粘質シルトまたは粘質土で、本遺跡の弥生時代中期～後期の遺構が確認できる箇所において存在する包含層である。Ⅶ層上面での遺構検出が困難であるため、検出面はその直下層上面とした。

表 2　基本層序

層名	代表的な色調・土質・混入物等	形成時期
Ⅰ層	表土、撹乱・造成土含む	現代
Ⅱ層	黄褐細砂～砂質シルト、黒褐色粘質シルト～暗褐色砂質シルト	近代以降
Ⅲ層	褐色砂質シルト、φ～ 3cm 礫	近世以降
Ⅳ層	黒褐色～暗褐色砂質シルト、φ～ 3cm 礫	中世以降
Ⅴ層	・灰黄褐色～黒褐色シルト、φ～ 3cm 礫、黄褐色シルト粒、炭化物　・砂礫層、φ～ 3cm 礫、炭化物	古代
Ⅵ層	暗褐色粘質土～にぶい黄褐色砂質シルト	古墳～古代
Ⅶ層	黒褐色粘質シルト～粘質土、黄褐色シルト塊、暗褐色シルト塊	弥生中期
Ⅷ層	・褐色～にぶい黄褐色砂質シルト、黒色粘土塊、黄褐砂質シルト塊　・砂礫層（φ～ 5cm 礫）	弥生中期以前

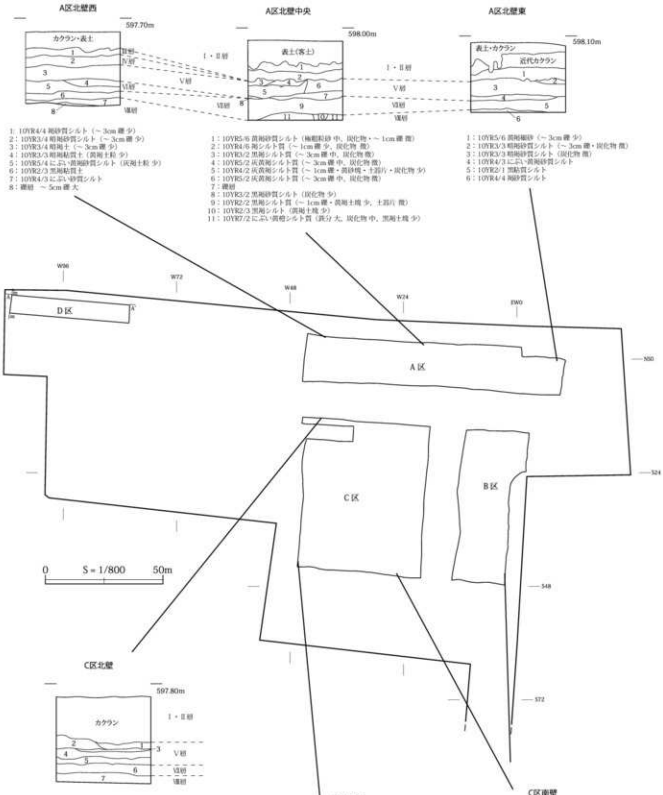

A区北壁西
597.70m
カクラン・表土
1・Ⅱ層
Ⅳ層
Ⅴ層
Ⅵ層
礫層
1：10YR4/4 褐砂質シルト（～3cm 礫 少）
2：10YR3/4 暗褐砂質シルト（～3cm 礫 少）
3：10YR3/4 暗褐（～3cm 礫 少）
4：10YR3/4 暗褐粘質土（黄褐土粒 少）
5：10YR5/4 にぶい黄褐砂質シルト（炭化土粒 少）
6：10YR2/2 黒褐粘質土
7：10YR4/3 にぶい砂質シルト
8：礫層 ～3cm 礫 大
A区北壁中央
598.00m
表土（客土）
1・Ⅱ層
Ⅴ層
Ⅵ層
礫層
1：10YR5/6 黄褐砂質シルト（極細粒砂 中，炭化物・～1cm 礫 微）
2：10YR4/6 褐シルト質（～1cm 礫 少，炭化物 微）
3：10YR5/2 黒褐シルト質（～3cm 礫 中，炭化物 微）
4：10YR5/2 灰黄褐シルト質（～3cm 礫 中，炭化物 微）
5：10YR5/2 灰黄褐シルト質（～3cm 礫・黄褐粒・土器片・炭化物 少）
6：10YR5/2 灰黄褐シルト質（～3cm 礫 中，炭化物 微）
7：礫層
8：10YR5/2 黒褐砂質シルト（炭化物 少）
9：10YR2/2 黒褐シルト質（～1cm 礫・黄褐土粒 少，土器片 微）
10：10YR2/3 黒褐シルト（黄褐土粒 少）
11：10YR7/2 にぶい黄橙シルト質（鉄分 大，炭化物 中，黒褐土粒 少）
A区北壁東
598.10m
表土・カクラン
近代カクラン
1：10YR5/6 黄褐砂質シルト（～3cm 礫 少）
2：10YR3/3 暗褐砂質シルト（～3cm 礫・炭化物 微）
3：10YR3/3 暗褐砂質シルト（炭化物 微）
4：10YR4/3 にぶい黄褐砂質シルト
5：10YR2/1 黒褐質シルト
6：10YR4/4 褐砂質シルト
W96
W72
W48
W24
EW0
D区
A区
B区
C区
N50
S24
S48
S72
0 S＝1/800 50m
C区北壁
597.80m
カクラン
1・Ⅱ層
Ⅴ層
Ⅵ層
礫層
1：10YR3/3 暗褐砂質シルト（～6cm 礫・白土粒 中，黄褐砂粒 少，炭 微）
2：10YR3/2 と 3/3 の間黒褐と暗褐シルト質（鉄分 多，～3cm 礫・炭・灰黄褐シルトブロック 微）
3：10YR4/2 と 4/3 の間灰黄褐とにぶい黄褐砂（～3cm 礫 大） 砂礫層
4：10YR4/3 にぶい黄褐砂質シルト（鉄分 大，～0.5cm 礫 微）
5：10YR4/2 灰黄褐砂（～1cm 礫 少） 砂礫層
6：7.5Y2/1 黒褐質シルト（暗褐シルトブロック 中，黄褐砂粒 微）
7：10YR3/4 暗褐シルト質（黒褐質シルトブロック・にぶい黄褐砂質シルトブロック 少）
C区西壁
597.60m
カクラン
1・Ⅱ層
Ⅴ層
Ⅵ層
礫層
1：10YR3/2 黒褐粘質シルト（～1cm 礫・炭 微）
2：10YR3/2 黒褐シルト質（焼土ブロック・炭・～0.5cm 礫 微）
3：砂礫層（～5cm 礫 大）
4：10YR3/2 黒褐シルト質（～1cm 礫・鉄分・炭 微）
5：10YR4/2 と 3/2 間灰黄褐と黒褐の間シルト質（粗砂 中，～4cm 礫 少）
6：10YR2/2 黒褐粘質シルト
7：砂礫層（～3cm 礫 大） 自然流路
C区南壁
597.70m
カクラン
1：10YR3/2 黒褐シルト質（粗砂 少，～10cm 礫・炭 微）
2：10YR3/2 黒褐シルト質（～20cm 礫 微）
3：10YR3/3 暗褐シルト質
4：10YR4/2 灰黄褐砂質シルト（～10cm 礫 大，粗砂 多）
5：10YR2/2 黒褐粘質シルト

図3　土層図とその位置

第２節　調査成果の概要

調査区の平面積は 1817.49㎡で、Ⅰ検とⅡ検の合計である調査のべ面積は 3277.85㎡である。A・C 区のⅠ検とⅡ検の面積は同じであるが、B 区は南部にのみⅡ検が確認され調査をした。各区ごとの内訳は表３を参照されたい。発見された遺構は竪穴住居址 13 軒（310 ～ 322 住）、竪穴状遺構１基、溝状遺構 14 条、土器集中部２カ所、土坑 212 基で、弥生時代中期後半、古墳時代、古代（平安時代）、中世の所産と推定できる。遺構の調査区ごとの時期別概要は表３のとおりである。

検出面と包含層から多量の遺物が出土したが、ほとんどが遺構と同時期のもので、特に弥生時代、古墳時代、平安時代が多い。遺物の種別は土器、陶磁器、土製品、石器・石製品、金属製品鍛冶関連遺物がみられた。また、自然遺物（獣骨など）もわずかに出土しており、その出土層位から古代～中世に帰属すると考える。

表３　発見された遺構と遺物

調査区	面積	遺構				
		中世	平安	古墳	弥生	不明
A 区	517.85㎡ （Ⅰ・Ⅱ検同じ）	竪穴状遺構１基 （竪１）	竪穴住居５軒 溝５条 土坑 52 基 土器集中２カ所 焼土範囲１カ所	-	竪穴住居１軒 土坑 35 基	溝１条
B 区	Ⅰ検：407.78㎡ Ⅱ検：110.02㎡	-	竪穴住居１軒 溝２条 焼土範囲１カ所	-		溝１条 土坑 26 基
C 区	832.49㎡ （Ⅰ・Ⅱ検同じ）	土坑１基（土 32） 溝３条（溝２～４）	竪穴住居２軒	-	竪穴住居１軒 土坑 39 基	竪穴住居３軒 溝２条 土坑 59 基
D 区	59.37㎡	-	-	-	-	-
遺物		土師質土器（カワラケ、内耳鍋） 陶磁器（卸皿、端反皿、合子、青磁碗）	土器・陶磁器（土師器、黒色土器、須恵器、灰釉陶器、緑釉陶器、白磁） 土製品（泥、紡錘車） 石製品（丸鞆、砥石） 鉄器（刀子、釘） 銅製品（銭貨：開元通宝、皇宋通宝）	土器（土師器、須恵器） 土製品（ミニチュア・土錘）	土器（弥生土器） 土製品（土製円盤） 石器（打製石鏃、磨製石鏃、勾玉、管玉）	

図４　土層図とその位置

第３節　遺構

１　竪穴住居址

⑴　第 310 号住居址（表 4、図 9）

A 区中央部の I 検で検出された。312 住に北側半分以上と 313 住に南端部を切られており、全体の平面形は不明瞭である。検出段階で、床面近くであったため、壁の立ち上がりも不明瞭である。西側で焼土塊が多く散在していたが火床面は確認できない。カマドや柱穴等の住居内施設は認められなかった。

遺物は、焼土塊と共に土器が集中して出土している。黒色土器の杯や薄手の土師器の甕Bがみられ、本址は、6 期に帰属すると考える。

⑵　第 311 号住居址（表 4、図 9）

A 区中央部の I 検で検出された。古代包含層と酷似しており、検出が困難であった。平面形は隅丸方形である。壁はやや傾斜しており、高さ 21cm を測る。貼り床は確認できなかった。住居内施設は、西壁中央部に石組みのカマド跡と中央やや北西よりピット 1 基が認められた。カマド跡は、袖石とわずかであるが火床面が残存していた。煙道部分は攪乱により壊されていた。

遺物は、支脚用の円筒形土器をはじめカマド周辺からまとまって出土している。緑釉陶器片 3 点や小瓶 1 点等の希少品もみられる。

本址の主体は 7 期に帰属すると考えられるが、6 期や 8 期以降の土器も少量みられる。6 期の遺物はまとまって出土しているため、検出できなかった本址より古い 6 期に帰属する遺構も存在していたと考えられる。

⑶　第 312 号住居址（表 4、図 9）

A 区中央部の I 検で検出された。大半部分は調査区外へ続くため、全形はわからないが隅丸方形が基調の平面形と推測する。壁はやや傾斜しており、高さ 40cm を測る。住居内施設はピットが 8 基検出され、そのうち P5 は断面形状から柱穴痕の可能性がある。

遺物量は多くはなく、黒色土器の杯を中心に少量の須恵器杯や土師器甕が出土している。鉄製品や砥石の出土もみられる。本址は、7 期古相に帰属すると考えられる。

⑷　第 313 号住居址（表 4、図 9）

A 区中央部の I 検で検出された。東壁面の一部を攪乱により壊されているものの、平面形は隅丸方形を呈している。壁はやや傾斜しており、高さ約 25cmを測る。明確なカマド跡は確認できなかった。調査時に、南西隅に焼土範囲が認められたが、その後 322 住の炉跡であることがわかった。

本址は、310 住と 322 住との切り合い関係にあるため遺物の混入がみられるが、7 期新相に帰属すると考えられる。

⑸　第 314 号住居址（表 4、図 10）

A 区中央東寄りの I 検で検出された。検出時に床面がほぼ出ていた状態であったため、範囲を捉えることができなかったが、カマドが検出されたため住居址とした。カマドは石組みで南北の軸で、火床面と袖石の位置関係から煙道部が北側にあると推定でき、調査区南壁の土層から住居範囲は南西へ拡がっていると考えられる。そのため、土 27・28 は本址に帰属する住居内施設である可能性がある。

本址は、古墳時代中期の土師器の混入がみられるが、7期新相～8期古相に帰属すると考えられる。

⑹　第315号住居址（表4、図14）

B区南端中央部のⅠ検で検出された。南半が調査区外へ続き、遺構検出は困難で平面形は極めて不明瞭であったが、隅丸方形を呈すると推察する。床面はやや傾斜していたり、凸凹しているため、床面までの掘り下げの際に部分的に掘り方まで達した可能性がある。ピットやカマド等の住居内施設は確認できなかった。北東部に焼土範囲を検出したが、その標高値を考慮すると検出できなかった住居址が切り合っている可能性がある。

遺物は西半に集中し、検出時にはその大半が露出していた。本址は、7期新相～8期古相に帰属すると考えられる。

⑺　第316号住居址（表4、図15）

C区南端中央部のⅠ検で検出された。南半が調査区外へ続くが、隅丸方形を呈していると推察する。南西部に焼土範囲が検出されており、住居西壁の中央にカマドが設置されていたものと考えられる。他に明確な住居内施設はみつからなかったが、位置関係から土56が本址に帰属する可能性がある。

遺物の出土量は少なく、混入品が多くみられるため、本址の帰属時期は判然としない。

⑻　第317号住居址（表4、図15）

C区南西隅のⅠ検で検出された。遺構範囲の大部分が調査区外へ続くため、平面形は不明である。318住とわずかに切り合っているが、現地調査時では新旧関係が判然としなかった。底面は礫層を若干掘り込んでいる。壁面はやや傾斜しており、高さは8cmを測る。

遺物の出土量は少なく、混入品が多くみられるため、本址の帰属時期は判然としない。

⑼　第318号住居址（表4、図15）

C区南西部のⅠ検で検出された。北半は覆土がほぼ残っておらず、さらに西側が遺跡範囲外へ続くため、一部平面形が不明瞭ではあるが、隅丸方形の平面形を呈していると思われる。カマドは、火床面は確認できなかったが北壁中央に煙道部分と考えられる張り出しが認められ、礫がまとまって出土している。その他に住居内施設は検出されなかった。

本址は、弥生土器の混入が若干みられるが、基本的には7期新相に帰属すると考えられる。

⑽　第319号住居址（表4、図15）

C区南東部のⅠ検で検出された。複数の土坑が本址と切り合っているため、平面形は極めて不明瞭であった。住居内施設は認められなかった。

遺物は、まとまっての出土はなく全体的に散らばっていた。覆土直上から皇朝十二銭2点が出土している。本址の帰属時期は7期古相と考えられる。

⑾　第320号住居址（表4、図15）

C区南端中央部のⅠ検で検出された。南半は調査区外へ続き、遺構平面形は不明瞭であった。壁面はやや傾斜しており、調査区壁面で観察できた高さは72cmを測る。

1検検出遺構と扱ったが、出土遺物から弥生時代に帰属する可能性が高い。

⑿　第 321 号住居址（表 4、図 15）

C 区南西部の I 検で検出された。南西部は調査区外へと続くが、平面形は円形に近い隅丸方形を呈していると考えられる。床は、硬化面は検出されなかったが、砂質土を敷いて床面としている様相が確認された。掘方は、大きく凸凹している。住居内施設は認められなかった。

遺物の出土量は少なく、帰属時期の特定には至らなかった。

⒀　第 322 号住居址（表 4、図 10）

A 区中央部の I 検で検出された。平面形は隅丸方形を呈する。中央やや東寄りに炉跡と考えられる火床範囲が検出された。壁はやや傾斜しており、高さは 8㎝を測る。

本址の帰属時期は弥生時代中期後半と考えられる。

2　竪穴状遺構（表 6、図 10）

A 区竪 1　A 区 I 検の西部から検出された。南半部は攪乱を受けているものの約 3.0m の北辺部が検出できており、平面形は隅丸方形であると考えられる。最大深度は約 0.3m である。出土品の多くは古代の遺物が占めるものの、カワラケのほか東濃第 4 型式とみられる山茶碗、古瀬戸前～中期の卸皿が出土しており、本址の帰属時期は古瀬戸中期相当（14 世紀）と考えられる。

3　溝状遺構（表 5、図 10・14・16・17）

A 区 I 検溝 1 ～ 5　調査区東側からまとまって確認された溝で、いずれも調査区を南北に延びる。溝 1 は最大幅 1.4m、最大深度 0.7 m を測る。溝 1 を南に延長すると B 区 I 検溝 2 へとつながるが、両者は幅、底部標高、出土遺物の年代がほぼ一致するため、同一の溝と考えられる。また溝 1 の北端部では礫集中が確認された。溝 2 は最大幅 1.1m、最大深度 0.3m を測る。溝 3 は最大幅 0.7m、最大深度 0.3m を測り、調査区内で南端が細く浅くなり、一度途切れる。溝 4 ・ 5 はそれぞれ最大幅 1.0m・最大深度 0.6m、最大幅 2.3m・最大深度 1.0m である。いずれの溝も出土遺物の主体は平安時代のもので 7 期～ 8 期の様相を示す。弥生土器の出土もみられるが、これは溝 1 ・溝 2 が切る土器集中 4 のような弥生時代の遺構、あるいは包含層から混入したものと考えられる。

これらの溝の新旧関係については、溝 3 と溝 4 が溝 5 を切ること、溝 2 を覆う土層を他の溝がいずれも切ることから、古い順に溝 2 →溝 5 →溝 3 ・溝 4 と言える。溝 1 は溝 2 よりは新しいが、それ以外の溝との新旧関係は不明である。これらの溝は規模こそ違うが、ほとんど同じ位置、同じ向きに造られており、出土遺物の様相も同一である。南北方向の溝が 7 期～ 8 期の短い期間のうちに何度も造りなおされたことを、これらの溝の切り合い関係が示すと考えられる。

A 区 I 検溝 6　調査区中央を途中屈曲しながら南北に延びる溝で、南にいくにつれ底面標高が下降する。遺構検出後に調査区の壁面を精査する中、溝 6 は I 検から掘りこまれた遺構であると判断できたため、I 検の遺構とした。図示した最大幅は 0.4m、最大深度は 0.4m だが、これはあくまで II 検調査時に検出できた底部のみの大きさである。本来であれば最大幅約 0.9m、最大深度約 0.7m ほどであったと推測される。I 検直下の最上層には厚さ 0.2m ほどの礫堆積が確認できた。出土遺物はほとんど無かったが、平安時代の 312 住と 315 住に切られることから、7 期以前に帰属する。

B区Ⅰ検溝1　半分が調査区外であり、幅、深度ともに不明である。確認できた範囲での最大深度は0.4mである。B区Ⅰ検溝2（A区溝1）を覆う土層を切るが、出土遺物が乏しく帰属年代は不明である。

B区Ⅰ検溝2　先述のとおりA区溝1と同一だと考えられる。最大幅1.2m、最大深度0.6mで、出土遺物の主体は平安時代、6期～8期のものである。

B区Ⅰ検溝3　調査区西側を南北に延びる。出土遺物は弥生時代を主体とするが、古墳・平安時代の土器も混じるため時期特定が難しい。南端部を平安時代の315住に切られることから、7～8期以前に帰属する。

C区Ⅰ検溝2～4　東西に並行するように延びており、いずれも調査区の中央付近で終わる。溝2の西部は、角度を45度変え溝幅も広くなる。遺物は、古代に帰属するものが大半を占めるが、古瀬戸後期の製品が出土していることから、これらの溝は中世に帰属すると考えられる。

C区溝5　調査区南東隅に位置し、南西から北東に延びると思われる。弥生時代包含層まで切る深さがあるためか、出土遺物は弥生中期から平安時代までを包含している。

4　土坑（表7、図11～14・17～19）

A区Ⅰ検土7　径1.0m、深さ0.3mで、断面形は逆台形である。863gの土器が出土しており、これは今回検出された土坑の中では4番目に多い。図示したのは須恵器杯Bの蓋（193）、黒色土器Aの杯（194）、甕B（195）でいずれも6～7期に属するが、本遺構は古瀬戸中期（14世紀）に帰属する竪穴状遺構1を切っているため混入とみなさざるを得ない。またこうした状況ゆえ、本址の帰属時期も不明である。

A区Ⅰ検土11　土坑として扱ったが、遺存状態の良い火床面を検出したため、住居址のカマドである可能性がある。検出時に床面より掘り下げたため、プランが検出されなかったものである。

A区Ⅰ検土21　南東部を近代の撹乱に切られる不整形の土坑で、確認できた範囲の最長は1.8mと大型である。平均的な深さは0.2mだが、土坑中央部の底面が径0.4m、深さ0.2mほど掘りくぼめられていた。出土した土器の総量は965gで、これは今回検出された土坑の中では最多である。弥生中期後半の壺（200）などの出土もみられるが、内面を黒色処理した古墳中期の杯（201）、甕（202）の出土をふまえると、本址の帰属時期は古墳中期と考えられる。

A区Ⅰ検土36　Ⅱ検への掘り下げ中にⅠ検検出面よりやや下層で確認された土坑である。中央には古墳前～中期の甕の半分が礫で支えられながら据えられており、その中には破片化した甕のもう半分部と0.1m径の礫が置かれていた。出土した甕の破片化が顕著であったためあくまで推定となるが、正位で据えられた甕の上に礫が置かれ、その重みで甕の上半分が崩れたものと考えられる。

A区Ⅱ検土4・6・7・10・17～20・22・24・25　断面形状から見て柱穴痕であると考えられる。うち対応し合うものは、断面形状が非常によく似る土7と土10のみであった。また土6からは赤彩された弥生中期後半の鉢（210）、壺（211）が出土しており、遺構の帰属時期を示すと考えられる。

C区土32　北宋銭（皇宋通宝）が１点出土しており、その平面形・断面形から中世の竪穴状遺構の可能性が高い。調査区壁面に西半が続き、深さは110cm以上ある。壁際で検出され崩落の危険性から底面までの調査を断念した。中世遺物は、他に陶器片が若干出土している。

C区Ⅰ検土31・36～40・46・47・51　断面形状から柱穴痕であると考えられる。検出できたもののうち２間以上並ぶものがなく、これらの柱穴痕は調査区外へさらに続く可能性があり建物の規模等はわからなかった。また、近い位置に複数回建て直したことも想定される。

C区Ⅰ検土35　調査区北東部の砂礫層を切るように検出された。遺物は、古墳時代の杯類を主体として、坩の出土もみられた。

C区Ⅰ検土57　長軸で2.5 m以上ある大形の土坑である。底は比較的浅く、凸凹していた。上記の柱穴群に切られて検出された。

C区Ⅱ検で検出された土坑群　小形で、断面形状から柱穴痕と考えられるものが多く認められた。

C区Ⅱ検土9・36　出土遺物から古墳時代に帰属すると考えられ、Ⅰ検調査時に攪乱土に覆われていた等で検出されなかったものである。

5　その他遺構（表6、図12）

土器集中部１・２は、調査を進めていく中で住居址に振り替えしたため、欠番である。

土器集中３　A区Ⅰ検南端中央部に位置する。６期に帰属すると考えられる土器がまとまって出土した。隣接するA区Ⅰ検土11からはカマドの可能性がある火床面を検出しており、プランこそ検出されなかったものの、本址と合わせて住居址となる可能性が考えられる。

土器集中４　A区Ⅰ検東部に位置する。A区Ⅰ検溝１と溝２に切られる。含まれている遺物の主体が弥生時代中期後半に帰属するものである。Ⅱ検相当の遺構に伴う遺物である可能性は高いが、遺構プランは認められなかった。

311住　調査風景

表 4　竪穴住居址一覧

区	検出面	住居No.	長軸×短軸×深さ（cm） 床面積（㎡）	新旧関係 旧	新旧関係 新	備考
A	Ⅰ	310	<108> × <398> × 17 3.61		312・313 住	
A	Ⅰ	311	520 × 444 × 21 23.46		土 18・25・33・51・56	
A	Ⅰ	312	470 × <127> × 40 5.43	310 住		調査区に切られる
A	Ⅰ	313	385 × <312> × 28 13.33	310 住	土 35・50・16・17	
A	Ⅰ	314	測定不能			カマドのみ
B	Ⅰ	315	<245> × <165> × 14 4.34		土 27・溝 31・焼土 1	
C	Ⅰ	316	<364> × <210> × 48 <6.45>	320 住	溝 4・土 56	
C	Ⅰ	317	<514> × <52> × 8 <2.55>		318 住	
C	Ⅰ	318	460 × 330 × 18 (11.28)	317 住	321 住・土 18	
C	Ⅰ	319	<310> × <240> × 8 <6.81>	土 55・58・59・60・62	土 20	
C	Ⅰ	320	<362> × <130> × 72 <4.35>		316 住・土 17	
C	Ⅰ	321	<380> × <360> × 51 <11.72>	318 住	溝 3・土 18	
A	Ⅰ	322	<480> × 430 × 8 (19.96)			

<　>残存値、(　) 推定値

表 5　溝状遺構一覧

区	検出面	溝　No.	新旧関係 旧	新旧関係 新	備考
A	Ⅰ	1		土 15	
A	Ⅰ	2			
A	Ⅰ	3	溝 5		
A	Ⅰ	4	溝 5		
A	Ⅰ	5		溝 3・4	
A	Ⅰ	6			
B	Ⅰ	1			
B	Ⅰ	2			
B	Ⅰ	3	土 19	315 住	
C	Ⅰ	1			欠番（自然流路のため）
C	Ⅰ	2			
C	Ⅰ	3	321 住		
C	Ⅰ	4	土 53	土 56	
C	Ⅰ	5			
C	Ⅰ	6			

表 6　竪穴状遺構・土器集中部・焼土範囲一覧

区	検出面	遺構名	遺構No.	平面形	規模 (cm) 長径	規模 (cm) 短径	規模 (cm) 深さ	新旧関係 旧	新旧関係 新	備考
A	Ⅰ	竪穴状遺構	1	隅丸方形？					土 7	
A	Ⅰ	土器集中部	土器集中 3		-	-	-			
A	Ⅰ	土器集中部	土器集中 4		-	-	-			
A	Ⅱ	焼土範囲	焼土 1		42	40	8			
B	Ⅰ	焼土範囲	焼土 1	円形	40	36	7	315 住		

表 7　土坑一覧

区	検出面	土坑No.	平面形	規模 (cm)			新旧関係		備考
				長径	短径	深さ	旧	新	
A	Ⅰ	1	円形？	(163)	(147)	(31)			調査区に切られる
A	Ⅰ	2	円形？	77	(40)	20			調査区に切られる
A	Ⅰ	3	円形？	102	(78)	18			撹乱に切られる
A	Ⅰ	4	楕円形	82	50	15		土 41・42	
A	Ⅰ	5	楕円形	58	27	8			
A	Ⅰ	6	円形？	63	(40)	12			
A	Ⅰ	7	円形	112	97	35	竪穴 1	竪穴 1	
A	Ⅰ	8	円形？	(78)	103	6			調査区に切られる
A	Ⅰ	9	円形？						撹乱に切られる
A	Ⅰ	10							欠番
A	Ⅰ	11	円形？	(98)	(60)	27			調査区・撹乱に切られる
A	Ⅰ	12	円形？	60	(46)	20			半分未掘
A	Ⅰ	13							
A	Ⅰ	14	楕円形？	81	(24)	20			調査区に切られる
A	Ⅰ	15	円形	54	53	19	溝 1		
A	Ⅰ	16	円形？	69	(48)	15	313 住		tr に切られる
A	Ⅰ	17	楕円形	63	45	12	313 住		
A	Ⅰ	18	楕円形	143	47	28	311 住		
A	Ⅰ	19	円形	43	41	13			
A	Ⅰ	20							欠番
A	Ⅰ	21	楕円形？	(145)	148	37	土 22		撹乱に切られる
A	Ⅰ	22	円形？	47	(35)	23		土 21	調査区に切られる
A	Ⅰ	23							欠番
A	Ⅰ	24	円形	84	73	16			
A	Ⅰ	25	楕円形	84	46	10	311 住		
A	Ⅰ	26	楕円形？	(41)	41	19			調査区に切られる
A	Ⅰ	27	円形？	44	(26)	12			調査区に切られる
A	Ⅰ	28	円形？	(24)	(20)	21			調査区に切られる
A	Ⅰ	29	円形？	42	(35)	18			調査区に切られる
A	Ⅰ	30	円形	41	40	17			
A	Ⅰ	31	円形？	(48)	(32)	22			tr に切られる
A	Ⅰ	32	円形？						調査区に切られる
A	Ⅰ	33	円形	51	44	9	311 住		
A	Ⅰ	34	円形？	38	(16)	11			調査区に切られる
A	Ⅰ	35				5	313 住		tr と撹乱に切られる
A	Ⅰ	36	円形	45	36	15			
A	Ⅰ	37	円形	26	25	15			
A	Ⅰ	38	円形	30	30	20			
A	Ⅰ	39	円形	30	30	13			
A	Ⅰ	40	円形	34	33	10			
	Ⅰ	41	円形	47	45	8	土 4・42		
A	Ⅰ	42	円形	(20)	18	6	土 4	土 42	
A	Ⅰ	43	円形	15	15	4			
A	Ⅰ	44	円形	23	19	9			
A	Ⅰ	45	円形	45	(40)	12			
A	Ⅰ	46	円形	28	28	8			
A	Ⅰ	47	円形？	(35)	36	16			撹乱
A	Ⅰ	48	円形	27	24	13			
A	Ⅰ	49	円形	30	28	8			
A	Ⅰ	50	楕円形	54	33	9	313 住		
A	Ⅰ	51	不明				311 住		断面図のみ
A	Ⅰ	52	円形？	30	(11)	7			調査区に切られる
A	Ⅰ	53	円形	20	17	8	土 54		
A	Ⅰ	54	円形？	98	(71)	13		土 53	調査区に切られる
A	Ⅰ	55	円形？	25	(30)	4			調査区に切られる
A	Ⅰ	56	不明						断面図のみ
A	Ⅱ	1	円形	30	30	6			須恵器が中央に
A	Ⅱ	2	円形	26	25	21			
A	Ⅱ	3	円形	21	20	10			
A	Ⅱ	4	円形	22	(14)	33			
A	Ⅱ	5	円形	33	31	44			
A	Ⅱ	6	円形	36	36	34			

区	検出面	土抗No.	平面形	規模(cm)			新旧関係		備考
				長径	短径	深さ	旧	新	
A	Ⅱ	7	円形	34	31	18			
A	Ⅱ	8							欠番
A	Ⅱ	9	円形？	30	(11)	7			調査区に切られる
A	Ⅱ	10	円形	45	42	16			
A	Ⅱ	11	円形	(33)	28	19			
A	Ⅱ	12	円形	36	30	8			
A	Ⅱ	13	円形	37	34	11			
A	Ⅱ	14	円形	26	22	11			
A	Ⅱ	15	円形	48	39	5			
A	Ⅱ	16	円形	20	16	4			
A	Ⅱ	17	円形	(15)	21	38		土18	
A	Ⅱ	18	円形	18	16	5	土17		
A	Ⅱ	19	円形	32	31	38			
A	Ⅱ	20	円形	45	45	36			
A	Ⅱ	21	円形	21	20	15			
A	Ⅱ	22	円形	25	23	42			
A	Ⅱ	23	楕円形	46	33	10			
A	Ⅱ	24	円形	36	31	49			
A	Ⅱ	25	円形	54	47	34			
A	Ⅱ	26	円形	25	22	23			
A	Ⅱ	27	楕円形	37	22	30			
A	Ⅱ	28	楕円形？	(25)	22	7			調査区に切られる
A	Ⅱ	29	円形	74	66	33			
A	Ⅱ	30	円形	51	49	7			
A	Ⅱ	31	楕円形	43	29	17			
A	Ⅱ	32	円形	22	21	17			
A	Ⅱ	33	円形	21	20	14			
A	Ⅱ	34	円形	23	20	14			
A	Ⅱ	35	楕円形	56	43	10			
A	Ⅱ	36	楕円形	16	12	8	土37		
A	Ⅱ	37	円形	22	22	22		土36	
A	Ⅱ	38	楕円形	45	18	17			
A	Ⅱ	39	楕円形	58	44	25		土40	
A	Ⅱ	40	円形	29	26	22	土39		
A	Ⅱ	41	円形	20	17	8	土42		
A	Ⅱ	42	円形？	98	(71)	13		土41	調査区に切られる
A	Ⅱ	43							欠番
A	Ⅱ	44	円形？	27	(17)	11			tr切られる
A	Ⅱ	45	円形？	25	(30)	4			調査区に切られる
A	Ⅱ	46	？						調査区に切られる
A	Ⅱ	47	楕円形	35	20	16			
A	Ⅱ	48	円形	34	33	10			
B	Ⅰ	1	円形	65	46	25			
B	Ⅰ	2	楕円形	61	38	2			
B	Ⅰ	3	楕円形	70	31	5			
B	Ⅰ	4	円形	34	31	15			
B	Ⅰ	5	円形	95	80	19			
B	Ⅰ	6	円形	25	24	10			
B	Ⅰ	7	円形	46	35	19			
B	Ⅰ	8	円形？	149	(88)	20			調査区に切られる
B	Ⅰ	9	円形	48	30	6			
B	Ⅰ	10	円形	41	38	33			離多
B	Ⅰ	11							欠番
B	Ⅰ	12	円形	54	38	12			
B	Ⅰ	13	楕円形？	(54)	28	8			撹乱に切られる
B	Ⅰ	14	楕円形？	(48)	28	4			撹乱に切られる
B	Ⅰ	15	円形	50	48	16			
B	Ⅰ	16	円形	29	24	9			
B	Ⅰ	17	楕円形	140	49	4			
B	Ⅰ	18	円形？	30	(18)	40			調査区に切られる
B	Ⅰ	19	円形	32	27	3	溝3		
B	Ⅰ	20	円形	42	35	34			
B	Ⅰ	21	楕円形	63	42	46			
B	Ⅰ	22	円形	30	26	50			

区	検出面	土坑No.	平面形	規模(cm)			新旧関係		備考
				長径	短径	深さ	旧	新	
B	Ⅰ	23	円形	91	88	31			
B	Ⅰ	24	円形	37	33	53			
B	Ⅰ	25	楕円形	62	35	16			
B	Ⅰ	26	楕円形	38	23	16			
B	Ⅰ	27	円形	27	22	12		315住	
B	Ⅱ	1	円形	25	23	8			
B	Ⅱ	2	円形	38	35	32			
B	Ⅱ	3	楕円形	58	36	37			
B	Ⅱ	4	円形	38	30	33			
B	Ⅱ	5	円形	84	39	40		土6	
B	Ⅱ	6	円形	33	31	12	土5		
B	Ⅱ	7	円形	20	19	13			
B	Ⅱ	8	円形	35	30	46			
B	Ⅱ	9	円形	40	35	30	土10		
B	Ⅱ	10	円形	46	40	31		土9	
B	Ⅱ	11	円形	45	(37)	33	土12		
B	Ⅱ	12	円形					土11	
C	Ⅰ	1	方形	109	75	10			
C	Ⅰ	2	方形	108	98	7	土3		
C	Ⅰ	3	円形	74	65	27		土2	
C	Ⅰ	4	円形	43	42	8			
C	Ⅰ	5	円形	43	40	12			
C	Ⅰ	6	円形	15	14	6			
C	Ⅰ	7	円形	20	18	9			
C	Ⅰ	8	円形?	(28)	39	9		自然流路1	
C	Ⅰ	9	円形	13	13	8			
C	Ⅰ	10	円形	28	28	13			
C	Ⅰ	11	円形	18	18	5			
C	Ⅰ	12	円形?	(28)	35	52	自然流路1		調査区に切られる
C	Ⅰ	13	円形	20	20	7			
C	Ⅰ	14	円形	35	28	26			撹乱に切られる
C	Ⅰ	15	円形	39	30	7			
C	Ⅰ	16	楕円形	70	40	31			
C	Ⅰ	17	円形?	33	(18)	20	320住		調査区に切られる
C	Ⅰ	18	円形	31	24	6	318・321住		
C	Ⅰ	19	楕円形	111	38	13	溝2		
C	Ⅰ	20	円形	90	85	11	319住		
C	Ⅰ	21							欠番
C	Ⅰ	22	円形	40	27	3			
C	Ⅰ	23							欠番
C	Ⅰ	24							欠番
C	Ⅰ	25	円形	22	19	11			
C	Ⅰ	26	円形	33	30	16			
C	Ⅰ	27	楕円形	70	51	27	礫層		
C	Ⅰ	28	円形	27	23	10			
C	Ⅰ	29	円形	27	24	8			
C	Ⅰ	30	円形	35	31	6		土31	
C	Ⅰ	31	円形	33	32	36	土30		
C	Ⅰ	32	円形?	175	(120)	91	321住		調査区に切られる
C	Ⅰ	33	円形	24	24	22			
C	Ⅰ	34	円形	28	24	21			
C	Ⅰ	35	円形	103	93	47			
C	Ⅰ	36	円形	50	39	41			
C	Ⅰ	37	円形	28	(26)	60			trに切られる
C	Ⅰ	38	円形	30	29	36	土57		
C	Ⅰ	39	円形	(73)	78	46	土57		trに切られる
C	Ⅰ	40	円形	23	18	26			
C	Ⅰ	41	円形	47	37	13		土42	
C	Ⅰ	42	楕円形	40	22	10	土41		
C	Ⅰ	43	楕円形	50	27	10			
C	Ⅰ	44	円形	30	25	13			
C	Ⅰ	45	円形	73	70	43	礫層		
C	Ⅰ	46	円形	26	25	40			
C	Ⅰ	47	円形	31	29	48	土57		

区	検出面	土抗No.	平面形	規模(cm)			新旧関係		備考
				長径	短径	深さ	旧	新	
C	Ⅰ	48	円形	25	23	13			
C	Ⅰ	49	楕円形?	(80)	57	11		礫層	
C	Ⅰ	50	楕円形?	88	30	52			
C	Ⅰ	51	円形	42	35	52			
C	Ⅰ	52	楕円形	82	54	63			
C	Ⅰ	53	円形	60	52	29		溝4	
C	Ⅰ	54	不整形?	(303)	(45)	10			礫層・撹乱に切られる
C	Ⅰ	55	円形	102	86	81		319住	
C	Ⅰ	56	円形	127	110	63	溝4・316住		
C	Ⅰ	57	楕円形	254	106	16		土38・39・47	
C	Ⅰ	58	円形	(167)	168	22	土62・土59	319住	撹乱に切られる
C	Ⅰ	59	円形?	(116)	(50)	13		土58・319住	trに切られる
C	Ⅰ	60	不整形	118	74	8		319住	
C	Ⅰ	61	円形	35	26	12			
C	Ⅰ	62	円形?	(120)	(72)	12		土58・319住	
C	Ⅰ	63	不整形	466	374	30		溝2	撹乱に切られる
C	Ⅱ	1	円形	22	20	6			
C	Ⅱ	2	円形	18	18	12			
C	Ⅱ	3	円形	57	42	11			
C	Ⅱ	4	円形	22	20	3			
C	Ⅱ	5	円形	19	18	3	土6		
C	Ⅱ	6	円形	21	(15)	5	土7	土5	
C	Ⅱ	7	円形	20	(12)	8		土6	
C	Ⅱ	8	円形	21	20	4			
C	Ⅱ	9	円形	36	(17)	43			
C	Ⅱ	10	円形	26	(20)	22			
C	Ⅱ	11	円形	28	(15)	26			
C	Ⅱ	12	円形	15	(7)	16			
C	Ⅱ	13	円形	12	(6)	6			
C	Ⅱ	14	楕円形	50	33	31			
C	Ⅱ	15	円形	19	18	8			
C	Ⅱ	16	円形	26	(12)	19			
C	Ⅱ	17	円形	29	26	17			
C	Ⅱ	18	円形	23	(11)	22			
C	Ⅱ	19	円形	35	31	17			
C	Ⅱ	20							1検土37振替
C	Ⅱ	21	円形	16	(8)	29			
C	Ⅱ	22	円形	15	(8)	24			
C	Ⅱ	23	円形	16	(8)	13			
C	Ⅱ	24	円形	30	25	27			
C	Ⅱ	25	楕円形	48	(13)	31			
C	Ⅱ	26	円形	15	(6)	7			
C	Ⅱ	27	円形	20	(7)	16			
C	Ⅱ	28	円形	13	(7)	4			
C	Ⅱ	29	円形	32	22	30	土30		
C	Ⅱ	30	楕円形	(32)	23	34		土29	
C	Ⅱ	31	円形	22	(9)	6			
C	Ⅱ	32	円形	15	(10)	16			
C	Ⅱ	33	円形	40	(21)	9			礫層の中
C	Ⅱ	34	円形	28	(15)	10			礫層の中
C	Ⅱ	35	円形	17	(8)	5			礫層の中
C	Ⅱ	36	円形	75	65	57			
C	Ⅱ	37	楕円形?	53	(25)	12			礫層の中
C	Ⅱ	38	円形	17	(11)	38			
C	Ⅱ	39							調査区に切られる
C	Ⅱ	40	円形	23	20	38			

（　）内数値は残存値を表す

遺構配置図

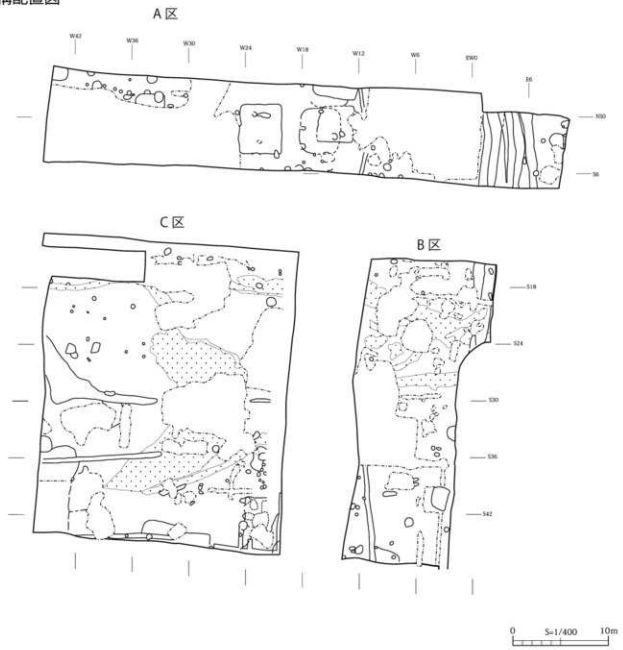
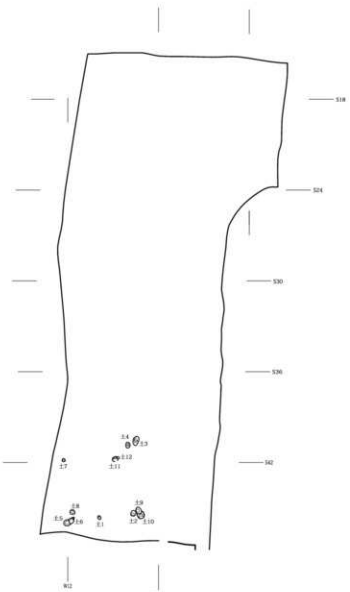

A区
W47
W36
W30
W24
W18
W12
W6
E60
E6
N50
S6
C区
B区
518
524
530
536
542
0
S=1/400
10m

図5　全体図

図6　A区全体図

B区Ⅰ検

B区Ⅱ検



0　S＝1/250　10m

図7　B区全体図

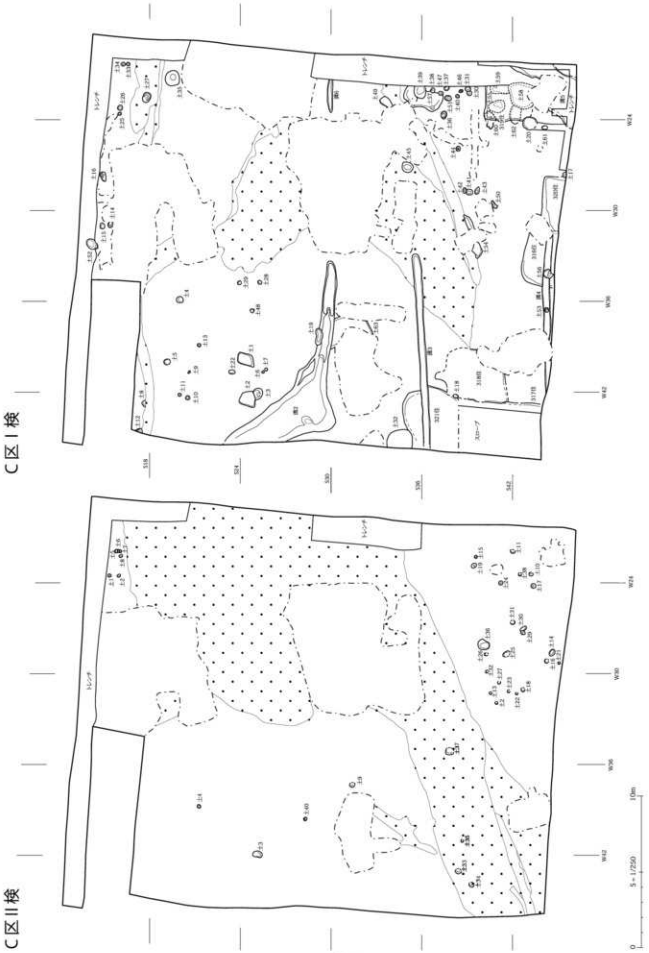
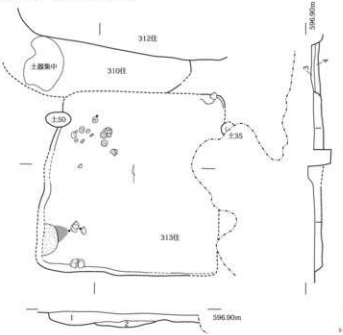


図8　C区全体図

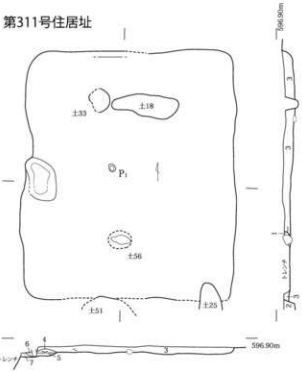
[A区Ⅰ検]

第310・313号住居址



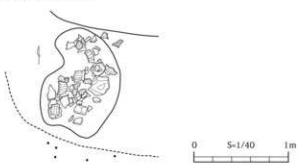
1：2.5Y4/2 暗褐シルト質（～0.5cm 礫 微）
2：10YR5/3 にぶい黄褐シルト質（～0.5cm 礫 中、土器片 微）
3：10YR4/3 にぶい黄褐シルト質
4：10YR3/2 黒褐シルト質（炭粒土塊 大）

第311号住居址

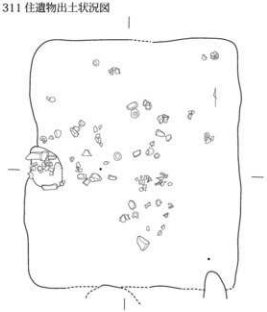


1：10YR5/2 灰黄褐シルト質 土 56
2：10YR3/2 黒褐シルト質（炭化物・黄土塊・土器片 微）土 51
3：2.5Y5/2 暗灰黄シルト質（炭化物 少）
4：10YR4/2 灰黄褐シルト質（土器片 中）
5：盛土
6：2.5Y3/2 黒褐シルト質（土器片 大、炭化物 少）
7：2.5Y3/2 黒褐シルト質（炭化物・土器片 微）

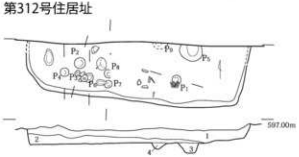
310住土器集中遺物出土図

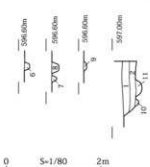


311住遺物出土状況図



第312号住居址





1：10YR4/2 灰黄褐シルト質（炭化物・～1cm 礫・土器片・炭化物 少）
2：10YR3/2 黒褐砂質シルト（炭化物 少）
3：10YR4/4 褐砂質シルト（鉄分 微）
4：10YR3/2 黒褐シルト質（～1cm 礫 少、土器片 微）
5：10YR3/2 黒褐砂質シルト（炭化物 微）
6：10YR2/2 黒褐砂質シルト（鉄分 微）
7：10YR3/2 黒褐細砂（鉄分 微）
8：10YR3/2 黒褐砂質シルト（炭化物 少、鉄分 微）
9：10YR3/2 黒褐砂質シルト（炭化物 微）
10：10YR3/3 暗褐砂質シルト（黄褐細砂 少）
11：10YR2/2 黒褐砂質シルト（焼土塊 少、炭化物 微）

カマド出土状況図

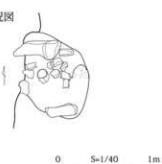


図9　A区Ⅰ検　個別遺構図1

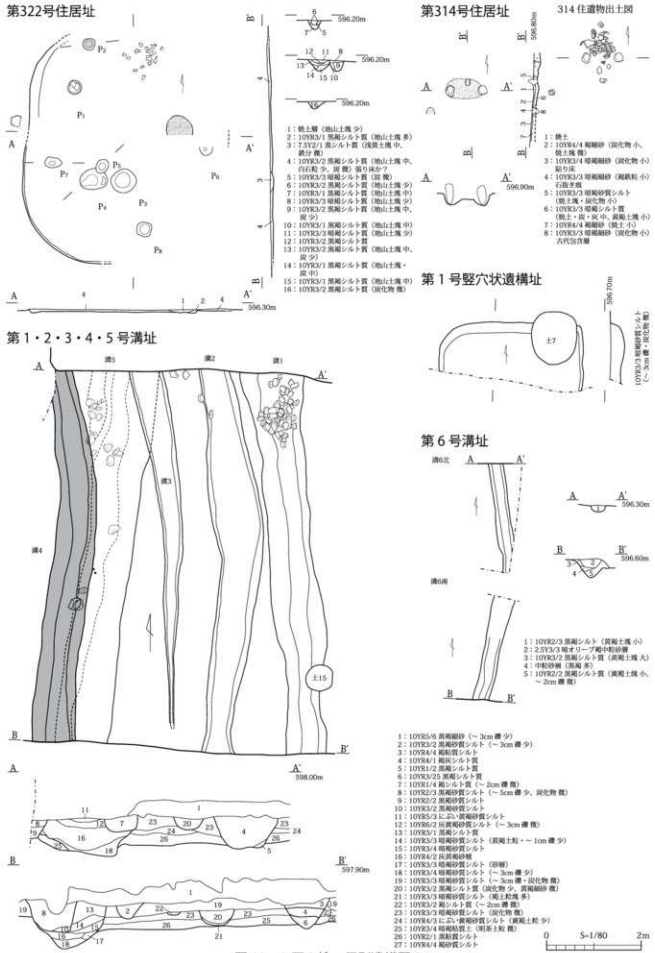


図10 A区Ⅰ検 個別遺構図 2

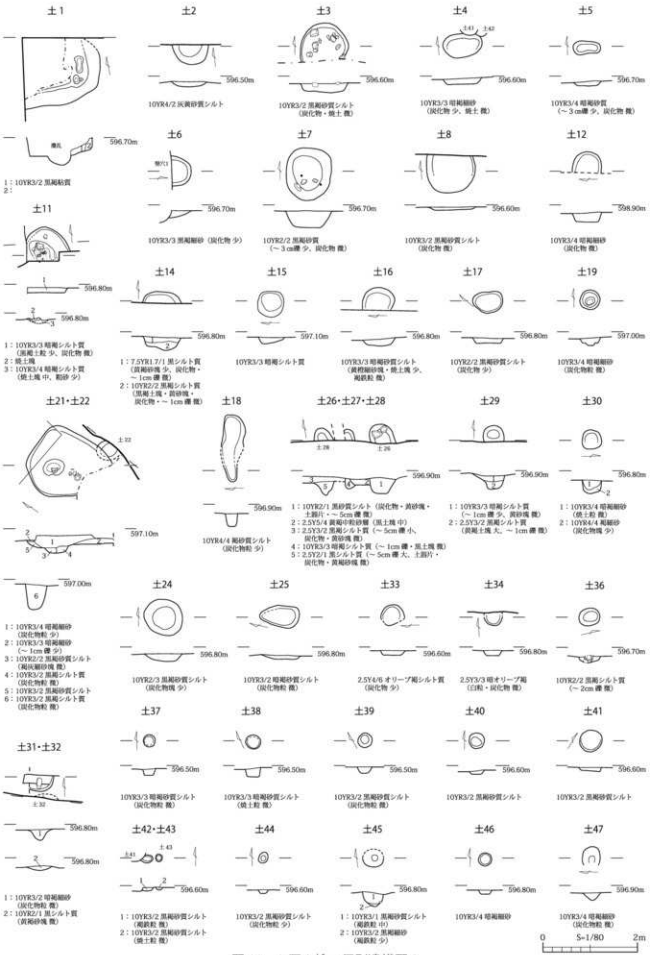
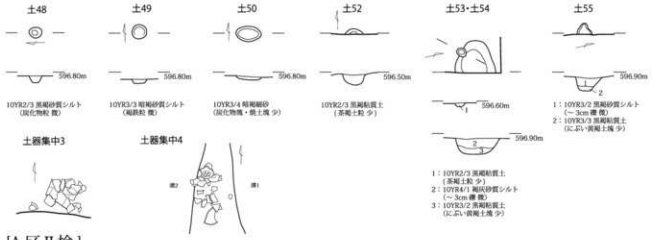


図11　A区Ⅰ検　個別遺構図3



[A 区Ⅱ検]

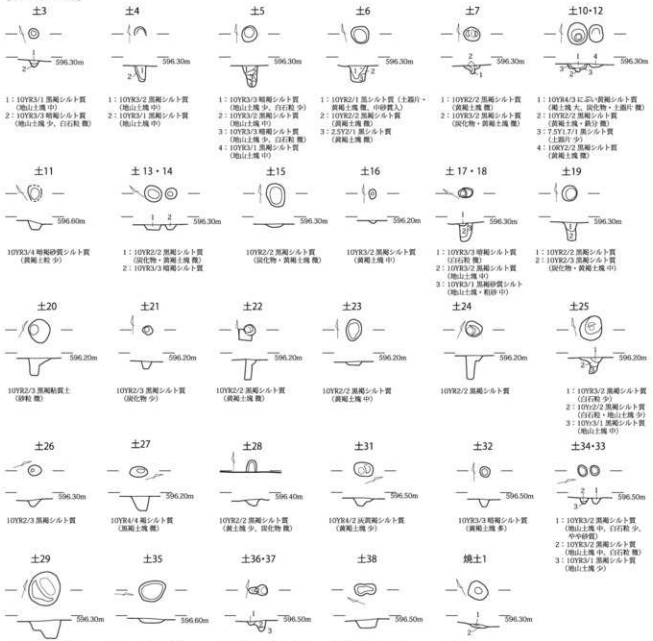
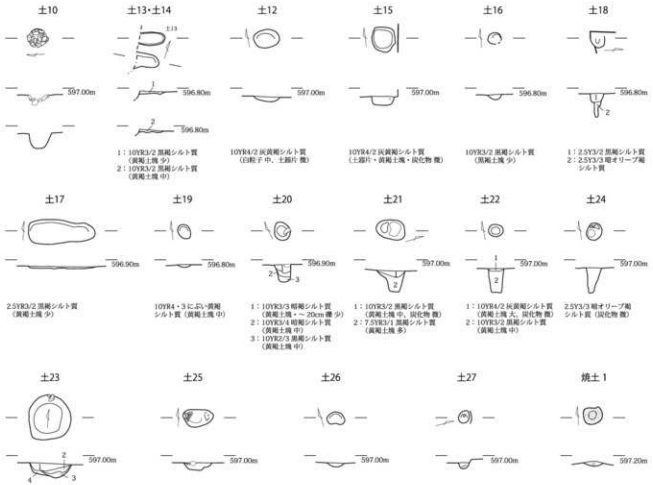


図 12　A 区Ⅰ検　個別遺構図 4・Ⅱ検　個別遺構図 1



[B区Ⅱ検]

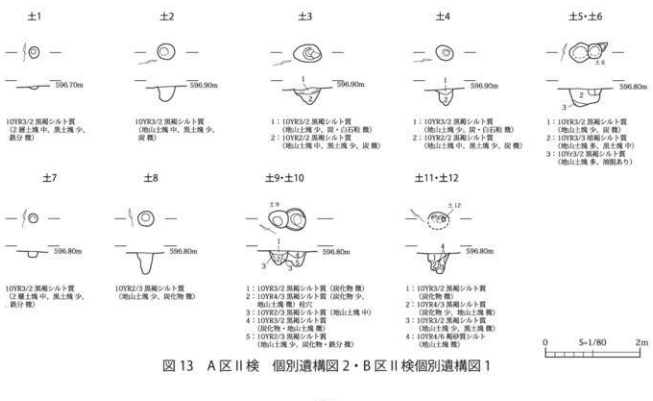
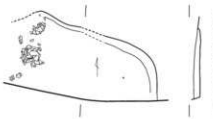


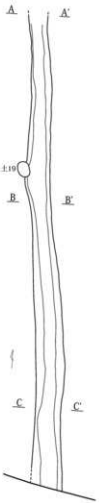
図13　A区Ⅱ検　個別遺構図2・B区Ⅱ検個別遺構図1

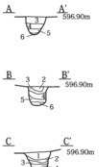
[B区Ⅰ検]

第315号住居址



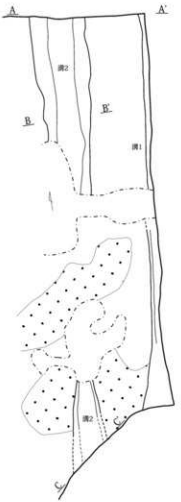
第3号溝

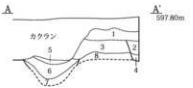




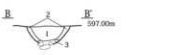
1：10YR4/2 灰黄褐砂質シルト
（～1cm礫 少、炭化物 微）
2：10YR3/4 にぶい黄褐砂
（3 層土塊 多）
3：10YR3/2 黒褐シルト質
（黄褐土塊・細砂・中）
4：10YR3/4 にぶい黄褐中砂
（5 層土塊・中）
5：10YR3/3 暗褐シルト質
（黄褐土塊中、炭 少）
6：10YR2/2 黒褐シルト質
（黄褐土塊・細砂・中）

第1号・2号溝



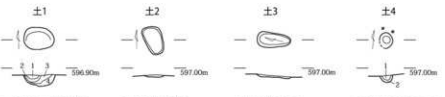


1：10YR4/3 にぶい黄褐粘質シルト
（～2cm礫・炭化物 微）
2：10YR4/4 褐シルト質
（～3cm礫・植物片 微）
3：10YR5/4 にぶい黄褐砂質シルト
（～1cm礫 少）
4：10YR3/3 暗褐シルト質
5：10YR5/3 にぶい黄褐シルト質
（～3cm 礫 少）
6：10YR3/2 黒褐シルト質
（～4cm 礫 少）
7：10YR2/3 黒褐粘質シルト
（炭土塊 少、炭化物 微）
8：10YR4/3 にぶい黄褐シルト質
（黒土塊 少、炭化物 微）



1：10YR3/3 暗褐シルト質
（黄褐土塊中、～5cm 礫 少、炭 微）
2：10YR3/4 にぶい黄褐シルト質
（黄褐シルト塊 多）
3：10YR3/4 にぶい黄褐シルト質
（礫 多、黄褐シルト塊・中）

1：10YR3/2 黒褐粘シルト（～2cm 礫 微）
2：10YR3/3 暗褐粘質シルト（～3cm 礫 微）

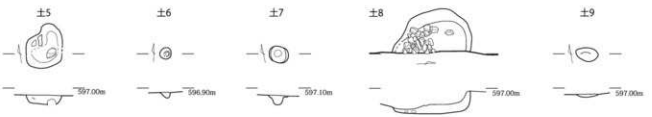


1：10YR4/2 灰黄褐シルト質
2：10YR3/2 黒褐シルト質
（黄褐土塊 微）
3：10YR5/3 にぶい黄褐シルト質
4：10YR4/2 灰黄褐シルト質

2.5Y5/3 黄褐シルト質
（炭化物 微）

10YR4/4 褐シルト質
（炭化物・～2cm 礫・
黒土塊 微）

1：10YR3/2 黒褐シルト質
2：10YR2/2 黒褐シルト質
（黄褐土塊 少）



10YR3/4 暗褐シルト質
（～1cm 礫・炭化物 微）

10YR4/2 灰黄褐シルト質
（黄褐土粒 大）

5YR3/1 黒褐シルト質
（黄褐土塊 微）

10YR3/3 暗褐シルト質
（～3cm 礫・植物根 微）

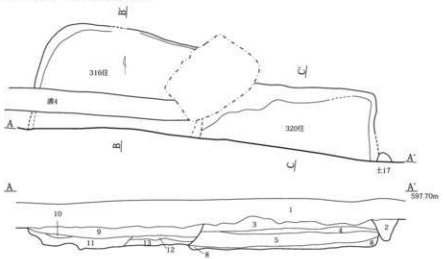
10YR4/3 にぶい黄褐シルト質
（白土粒 中、土器片 微）

0　S=1/80　2m

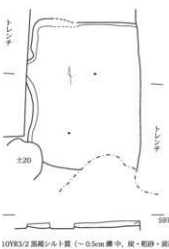
図14　B区Ⅰ検　個別遺構図1

[C 区 I 検]

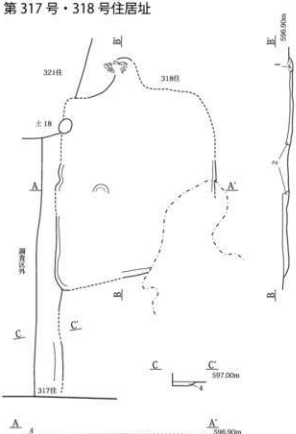
第 316 号・320 号住居址



第 319 号住居址



第 317 号・318 号住居址



第 321 号住居址

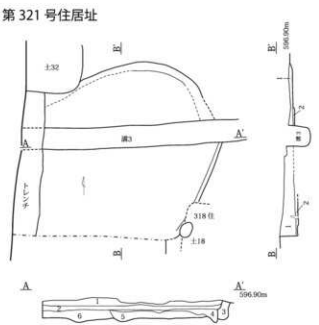
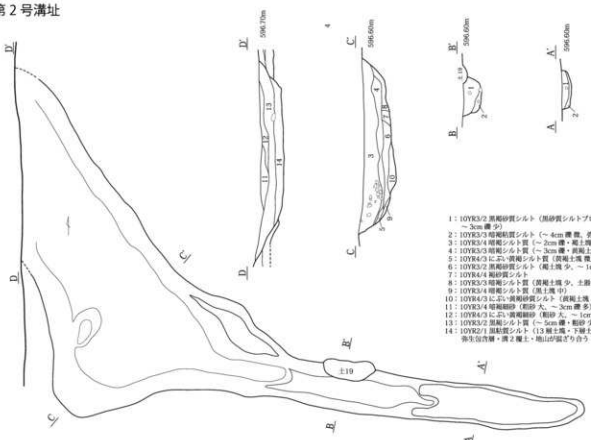
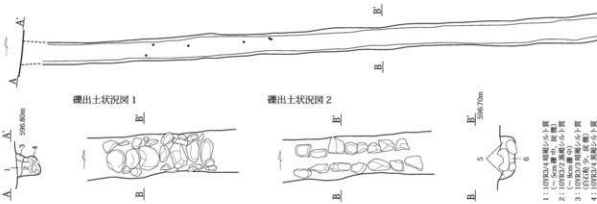


図 15　C 区 I 検　個別遺構図 1

第 2 号溝址



第 3 号溝址



第 4 号溝址

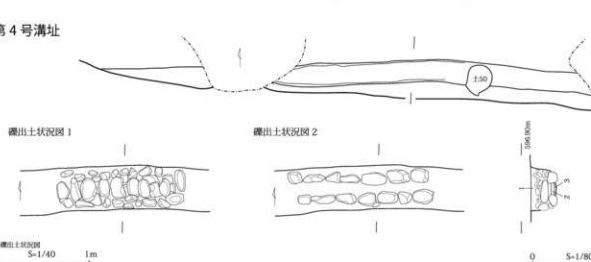


図 16　C 区 I 検　個別遺構図 2

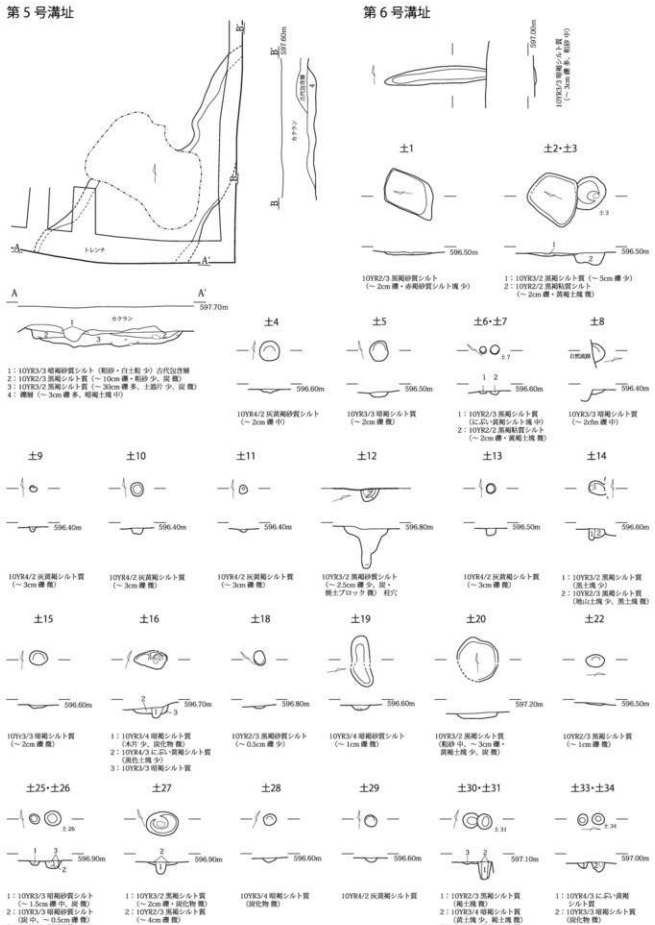


図 17　C 区Ⅰ検　個別遺構図 3

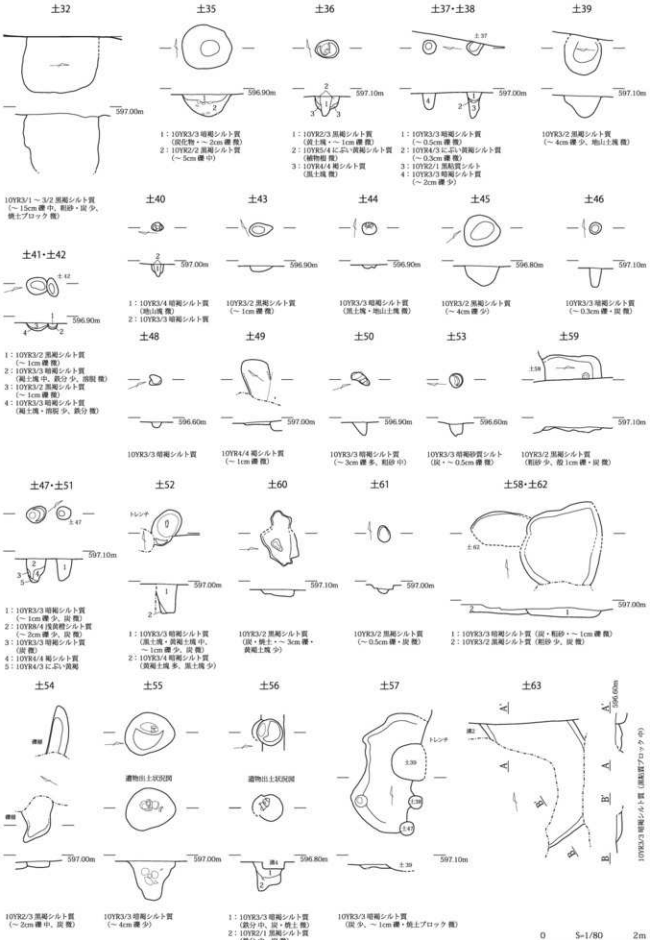
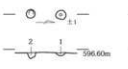


図 18　C 区Ⅰ検　個別遺構図 4

[C 区Ⅱ検]

±1・±2



1：10YR3/3 暗褐シルト質
（～2cm 礫 少、地山土塊 微）
2：10YR3/3 暗褐シルト質
（～1cm 礫・地山土塊 微）

±3

10YR3/1 黒褐シルト質
（地山土塊 中、～5cm 礫 少）

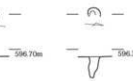
±4

10YR2/1 黒粘質シルト
（粗砂 少）

±5・±6・±7

1：10YR3/3 暗褐シルト質
（～1cm 礫・地山土塊 少）
2：10YR2/2 黒褐粘質シルト
3：10YR3/1 黒褐シルト質
（～0.5cm 礫 少）

±8



10YR3/3 暗褐シルト質
（～1cm 礫・地山土塊 少）

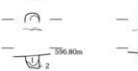
±9

10YR2/2 黒褐粘質シルト
（～1cm 礫 微）

±10

10YR3/2 黒褐シルト質
（～1.5cm 礫・炭 微）

±11



1：10YR3/2 黒褐シルト質
（粗砂 少、～0.5cm 礫・炭 微）
2：10YR5/4 暗褐砂質シルト
（炭 微）

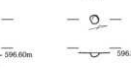
±12

10YR3/2 黒褐砂質シルト

±13

10YR3/2 黒褐砂質シルト

±14

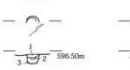


1：10YR2/3 黒褐粘質シルト
（～4cm 礫 微）
2：10YR3/3 暗褐シルト質
（～5cm 礫 少）
3：10YR4/3 にぶい黄褐砂質シルト
（～1cm 礫 中）

±15

10YR3/3 暗褐シルト質
（地山土塊 少）

±16



1：10YR3/2 黒褐シルト質
（～1cm 礫・炭・焼土ブロック 微）
2：10YR3/4 暗褐シルト質
3：10YR3/3 暗褐シルト質
（白土粒 微）

±17

10YR2/2 黒褐粘質シルト
（地山土塊 中、炭・粗砂 微）

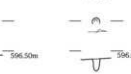
±18

10YR3/2 黒褐砂質シルト
（～0.5cm 礫 微）

±19

10YR3/3 暗褐シルト質
（地山土塊 少）

±21

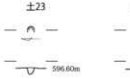


10YR3/3 暗褐粘質シルト
（地山土塊 微）

±22

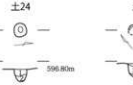
10YR3/3 暗褐砂質シルト
（粗砂 少）

±23



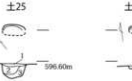
10YR3/3 暗褐シルト質
（粗砂 少）

±24



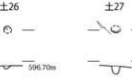
1：10YR3/2 黒褐シルト質
（～1cm 礫 微）
2：10YR2/3 黒褐砂質シルト
（粗砂 中、～0.5cm 礫 微）

±25



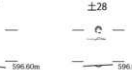
1：10YR3/3 暗褐砂質シルト
（～0.5cm 礫 微）
2：10YR2/3 黒褐砂質シルト（粗砂 中）
3：10YR3/2 黒褐砂質シルト
（粗砂 中、～0.4cm 礫 微）

±26



10YR3/3 暗褐シルト質

±27

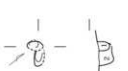


10YR3/2 黒褐シルト質
（粗砂 少）

±28

10YR3/3 暗褐シルト質
（～3.5cm 礫 多）

±29・30



1：10YR3/2 黒褐シルト質
（～1cm 礫 微）
2：10YR3/2 黒褐砂質シルト
（～1cm 礫 少）

±31

10YR3/3 暗褐シルト質

±32

1：10YR3/3 暗褐砂質シルト
2：10YR3/3 暗褐砂質シルト
（～1cm 礫 微）

±33

10YR3/3 暗褐粗砂
（～3.5cm 礫 多）

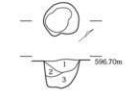
±34

10YR3/3 暗褐粗砂
（～3.5cm 礫 多）

±35

10YR3/3 暗褐粗砂
（～3.5cm 礫 多）

±36

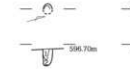


1：10YR3/2 黒褐砂質シルト
（～3cm 礫 少）
2：10YR3/3 暗褐砂質シルト
（～2.5cm 礫 微）
3：10YR2/3 黒褐粗砂質シルト
（地山土塊 少、～1cm 礫 微）

±37

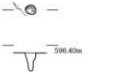
10YR2/3 黒褐粗砂
（～6cm 礫 多）

±38



1：10YR3/3 暗褐シルト質
（地山土塊 中）
2：10YR3/2 黒褐シルト質
（地山土塊 中、炭 微）

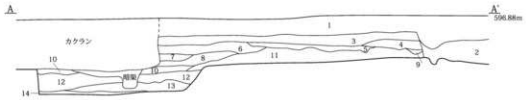
±40



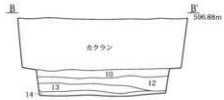
10YR2/3 黒褐シルト質
（炭 微）

図 19　C 区Ⅱ検　個別遺構図

D区北壁



D区西壁



1：表土・造成土
2：暗黄灰褐シルト質（黒・灰ブロック中）
3：黄灰褐砂
4：灰褐砂（上面礫）
5：褐灰シルト質（黒ブロック 混）
6：黄灰褐シルト質（砂 混）
7：褐灰シルト
8：褐灰シルト質（砂 混）
9：灰褐シルト
10：褐灰～灰褐砂（シルト 混）
11：黒褐シルト質（西端部黒が薄くなる）
12：褐灰～黄灰褐シルト質（所々砂礫が小範囲に分布）
13：黒シルト質
14：黄灰・黄灰褐シルト（北方向に砂質が強くなる）

0　S=1/80　2m

図20　D区　土層断面図

調査地全景（南から）

第４節　遺物

1　土器・陶磁器 (表８～11、図 21 ～ 37、写真図版 10 ～ 13)

(1)　概要と提示の方針

遺構内と検出面などから多量に出土した。重量でみるとＡ区 126.2kg（Ⅰ検 119.9kg、Ⅱ検 6.3kg)、Ｂ区 17.7kg（Ⅰ検 16.5kg、Ⅱ検 1.2kg)、Ｃ区 81.0kg（Ⅰ検 79.3kg、Ⅱ検 1.7kg)、Ｄ区 0.3kgで、総量は 225.2kgである。種別は弥生土器と古墳時代の土師器、古代（平安時代）の土器・陶磁器で構成され、わずかに縄文時代と中世のものが伴う。概ねⅠ検から古代・古墳時代、Ⅱ検から弥生時代に属するものが出土した。

提示にあたって遺構出土品は可能な限り図化掲載した。遺構外出土でも各区検出面の時期や特徴の解明に役立つものは図示した。製作技法、付着物などで特記の必要がある場合には、図中に糸（回転糸切り)、朱（朱墨付着）等の文字を付した。掲載の順序は、遺構からの出土品は時期や種別を問わず遺構順（竪穴住居、各区土坑・溝）とし、検出面等からの出土品は地区順、時代順とした。遺構出土品で混入の可能性があるものは本文または一覧表で示した。掲載した実測図は総数 501 点、出土地点別では遺構出土品が 374 点、遺構外出土品が 127 点、時期別では縄文時代１点、弥生時代 49 点、古墳時代 58 点、古代 378 点、中世 15 点である。拓影は総数 135 点で、遺構出土品が 82 点、遺構外出土品が 53 点、すべて弥生時代に属す。

(2)　時期別の土器・陶磁器概観

ア　縄文時代の土器

Ｃ区Ⅱ検下層から１点出土したのみ（496)。口縁以外の全形がわかる小形の無紋深鉢で、緩い肩部から口縁に向かって外反しながら開く形態をとる。底部外面に網代圧痕がある。晩期終末のものと考える。

イ　弥生時代の土器

該期の遺構と推定される 320・322 住、土器集中地点４と各区検出面から出土している。その他の遺構からも多数出土したが混入であろう。器種は壺形土器（以下「形土器」は略す)、甕、台付甕、高杯、鉢、甑がある。壺、甕には紋様のあるものが多く、高杯、鉢の内外器面には赤彩が行われている。紋様は太い沈線（箆描紋）による横線、区画、囲み、山形、波状、鋸歯、刺突と、細い沈線を数本重ねたもの（櫛描紋）による波状、簾状、縦・横と羽状・斜行の条痕、刺突、さらに地紋や単独の縄紋がある。時期は紋様構成から弥生時代中期後半に属すと考える。

ウ　古墳時代の土器

多量の土師器が遺構内と各区検出面から出土したが、数基の土坑（Ａ区Ⅰ検土 36、Ｃ区Ⅰ検土 35・55、Ｃ区Ⅱ検土 9・36 など）以外の遺構出土品は混入であろう。古墳時代前・中期に属し、量的には中期が多い。前期の器種は壺（76・386)、甕（77・382)、台付甕（142)、小型器台（431）がみられる。図示できなかったが 317 住からＳ字甕の口縁部片が得られている。中期の土器はすべて土師器で、器種は壺、甕、杯、高杯、鉢、小型丸底土器、甑などがみられる。杯類には内面が均質に黒色を呈するものがあり、意図的な黒色処理が行われたと考える（178・201・221・500・501 など)。

エ　平安時代の土器・陶磁器

土器・陶磁器の主体をなすもので、遺構内と各区検出面から多量に出土した。311 住、Ａ Ⅰ溝５などからまとまった資料が得られている。種別は土師器、須恵器、軟質須恵器、黒色土器Ａ・Ｂ、灰釉陶器、緑釉

陶器、白磁がある。器種器形は食膳具に杯A・杯B・椀・皿A・皿B・耳皿・鉢・盤・蓋、煮炊き具に甕B・小型甕・羽釜・甑、貯蔵具に壺・瓶・甕、それ以外のものとして円筒土器（筒形土器）がみられる（器種器形の個別名称と時期名称、年代観は文献35に従う）。珍しいものとして土師器杯C（269：甲斐型杯）、黒色土器Aの方形皿（400）、同蓋（465）がある。このほか土師器の皿（37）、杯（450）はいずれも非ロクロ調整、橙色系の色調を呈す焼成で、在地では系統が追えない。

緑釉陶器は17点、総重量51.3gが出土した。小片で図化できるものはない。遺構に伴うのは9点、他は検出面等からである。器種は椀、皿、耳皿で、輪花もみられる。全点を一覧表（表10）とカラー写真（写真図版10）で掲載した。白磁はA区Ⅰ検から1点が出土している。小片のため図示していないが重量4.4gを量る。小さな玉縁口縁のⅡ類の椀である。カラー写真（写真図版10）で示した。

墨書らしき痕跡を認めるものが1点（216：黒色土器A杯の体部外面）あるが判読できない。刻書・線刻は4点（18・19・399・425）で、18・19・399は黒色土器A杯の内面に焼成後に先の鋭い工具で細く刻まれている。18は欠損のため全形は不明、19は「井」、399は「↑」状に見える。425は古墳時代中期の高杯の脚端部内面に集合するような3本の線が刻まれている。欠損のため全形はわからない。

転用硯として墨痕が明瞭にわかるものはないが、458の灰釉陶器椀は外周を意図的に打ち欠いており高台の内側は研磨が著しいため、転用硯であろう。ほかにも146の灰釉陶器皿の内面に研磨痕が認められる。79の須恵器杯Aの内面には赤色の付着物がわずかに認められるが、朱墨か判別できない。

オ　中世の土器・陶磁器

陶磁器、土師質土器が出土しているが量はきわめて少ない。磁器は青磁碗、陶器は山茶碗、片口鉢、常滑の甕、古瀬戸の皿・平椀・卸皿・天目茶碗・合子、土器のカワラケ・内耳土器がある。各地区の検出面から散発的に出土し、A区Ⅰ検竪1（図26　187～192）とC区Ⅰ検溝2（図29　316～323）からは図示できるものがまとまって得られた。

(3)　土器群

ア　住居址出土品

310住（図21　1～3）3.12kgの出土があり3点を図化。点数が少なく土器群全体での時期の特定はできない。土師器甕Bは頸部の屈曲や小さい底径、底部際までのハケメなどから6期とみる。

311住（図21・22　4～64、図35　502）25.03kg出土し実測図61点、拓影1点を図示。4は古墳時代中期の高杯、502は弥生時代中期の壺でいずれも混入品、他はすべて平安時代のものである。黒色土器A杯が主体で同椀・皿、器肉が薄手の灰釉陶器椀・皿が伴う。土師器甕Bは胴部下端にハケメを欠くものが少数あり、口縁はくの字に反るが伸びている。62の須恵器長頸壺は頸部の付け根に凸帯が巡り、胴部内面にはカキメが残る。64は灰釉陶器の大形の瓶か手付瓶で胴部と底部の外面は回転ヘラケズリが行われる。本土器群は土師器甕Bの様相から7期古～新相の土器群としたい。この時期の多様性を示す良好な資料である。

312住（図23　66～71、図35　503～505）2.56kg出土し実測図6点、拓影3点を図示。実測品は黒色土器A杯と須恵器杯Bで構成される。非図化品には須恵器杯A・蓋Bがあり、土師器甕Bのハケメは太・細がみられるが下端部まで届き、口縁はくの字に反って伸びている。全体として7期古相の土器群としたい。拓影は弥生中期後半の甕で混入品である。

313住（図23・24　72～112、図35　506～514）10.22kg出土し実測図41点、拓影9点を図示したが、72～74と拓影全点は弥生時代中期後半の壺と甕、75～77は古墳時代の土師器壺・甕でいずれも

混入品、その他は平安時代に属す。食膳具は黒色土器 A 杯・椀と須恵器杯 A で構成され、軟質須恵器と灰釉陶器皿がわずかに混じる。土師器甕 B は口縁がやや肥大と細い 2 形態があり、底部際にケズリが認められる。非図化品には須恵器杯 A 多数とわずかな須恵器蓋 B、灰釉陶器椀がある。全体として 6 期と 7 期新相の 2 時期を示す。単一土器群の時間幅とするよりは、古いものは本址北側に重複する 310 住由来と理解したい。

314 住（図 24　113 ～ 130）　4.22kg出土し実測図 18 点を提示。113 は古墳時代中期の土師器杯で混入品、他はすべて平安時代である。食膳具は土師器と軟質須恵器の杯（土師器との区別困難品を含む）で構成され、少数の黒色土器 A と須恵器の杯 A が混じる。土師器甕 B は口縁がやや肥大し底部際ケズリのものが多いが、下端までのハケメも認められる。非図化品には土師器杯多数と少数の須恵器杯 A・蓋 B、灰釉陶器椀がある。須恵器と一部の黒色土器 A の杯、下端までハケメの土師器甕 B は 6 期、底部際ケズリの土師器甕 B とロ径 13㎝以上の土師器杯は 7 期新相～ 8 期古相で、量的には後者が多い。単一土器群の時期幅ではなく、古い方は調査時に把握できなかった隣接遺構由来や周囲からの混入と考えたい。

315 住（図 25　131 ～ 140）　4.45kg出土し実測図 10 点を提示。すべて平安時代のもので、食膳具は土師器と黒色土器 A の杯で構成され、非図化品には黒色土器 A 椀がわずかに混じる。土師器甕 B には口縁肥大や胴上部の広範囲のロクロナデがみられる。7 期新相～ 8 期古相とみたい。

316 住（図 25　141）古墳時代の土師器の甕 1 点を図示できたのみ。出土総量が 0.66kgと少なく、大半が古墳時代の土師器でわずかに弥生土器、平安時代の土師器・灰釉陶器が混じる。土器群としての時期的なまとまりは認められない。

317 住（図 25　142 ～ 147）　実測図 6 点を提示した。142 は古墳時代前期の台付甕で混入品、他は平安時代に属す。黒色土器 A と軟質須恵器の杯、灰釉陶器の椀、黒色土器 B の皿で構成され、図化品は 7 期新相～ 8 期古相を示す。出土総量が 0.83kgと少なく、非実測品の大半は古墳時代の土師器が占める。残りが平安時代の土師器・灰釉陶器とわずかな弥生土器で、土器群としての時期的なまとまりを認めるのはむずかしい。

318 住（図 25　148 ～ 155、図 35　515）　2.18kg出土し実測図 8 点、拓影 1 点を図示できた。拓影は弥生時代中期後半の甕で混入品、他は平安時代に属す。食膳具は黒色土器 A の杯・椀で構成され、土師器杯がわずかに混じる。土師器甕 B は細いハケメと外面底部際のケズリ状ナデ、やや肥厚する口縁などが特徴となる。全体的に 7 期の新相とみたい。

319 住（図 25・26　157 ～ 174、図 35　516）　3.55kg出土し実測図 18 点、拓影 1 点を示した。拓影は弥生時代中期後半の壺で混入品、他は平安時代に属し、食膳具は主に黒色土器 A 杯・椀・皿と須恵器杯 A で構成される。黒色土器 A 椀・皿の高台は角張った断面形のものが散見される。土師器甕 B は口縁部の外反や長さは様々だが胴部下端までハケメがある（ただし汚く雑）。非図化品にも須恵器杯 A、角張った高台の黒色土器 A 椀・皿、土師器の鍔付き甑らしき破片がある。7 期の古相としたい。

320 住（図 26　175・176、図 35　517 ～ 524）　0.98kg出土し実測図 2 点、拓影 8 点を提示。いずれも弥生時代中期後半の壺と甕である。非図化品も平安時代の土師器甕 B が微量（42g）混じるほかはすべて弥生土器であった。

321 住（図 26　177 ～ 179、図 35　525 ～ 528）　1.56kg出土し、弥生土器の壺と古墳時代中期の土師器杯・坩の 3 点を実測図、弥生土器 4 点を拓影で示した。非図化品には弥生土器と古墳時代の土師器、平安時代の土師器・須恵器・灰釉陶器があり、土器群としての時期的なまとまりは認められない。

322 住（図 26　180 ～ 186、図 35　529 ～ 545）　2.44kg出土し 7 点を実測図、17 点を拓影で図示。すべて弥生時代中期後半の壺、甕、高杯である。非図化品に平安時代の土師器・須恵器がわずかに伴うが、

本址に近接、重複する該期遺構（310・313 住）由来の発掘時の混入であろう。

イ　竪穴状遺構 1 出土品（図 26　187 ～ 192）

6 点を図示。土師質土器カワラケ 4 点、山茶碗 1 点、古瀬戸卸皿 1 点で、いずれも中世の所産である。卸皿は古瀬戸前期に位置付けられる。本址からは総量で 0.93kgの土器類が出土したが、図化品以外の大半が古代に属し、混入品と判断したため図示しなかった。

ウ　土坑出土品（図 26 ～ 38　193 ～ 239、図 35　546・547）

確認できた土坑総数 212 基のうち 121 基（A 区 50 基、B 区 26 基、C 区 45 基）から土器類が出土し、総重量は 15.02kgを量る。個別では 1kg以上出土した土坑はなく、多い順から A 区Ⅰ検土 21（965g）、A 区Ⅰ検土 7（863g）、C 区Ⅰ検土 35（782g）、A 区Ⅰ検土 36（655g）となり、大半は 100g 以下であった。図示したものは全体で実測図 47 点、拓影 2 点。個別にみると 5 点以上図化ができた土坑は C 区Ⅰ検土 35：5 点（219 ～ 223）、C 区Ⅰ検土 57：5 点（232 ～ 236）だけである。出土土器から各土坑の時期を推定するが、複数の時期が混在する土坑が多く、良好な資料といえるものはない。

エ　溝出土品

A 区溝出土品（図 28・29　240 ～ 293、図 35　548 ～ 558）隣接し重複しあうⅠ検溝 1 ～ 5 から総量で 14.07kgが出土し実測図 54 点、拓影 11 点を図示した。溝 2 の 15 点（実測図 248 ～ 253、拓影 548 ～ 556）、溝 4 と溝 5 の各 1 点（拓影 557・558）が弥生土器の他はすべて平安時代に属す。食膳具は須恵器・黒色土器 A・土師器の杯 A、土師器甕 B で構成され、わずかに土師器皿 A と灰釉陶器椀がともなう。土師器甕 B は胴部下端までハケメがある。底面に糸切痕を残す灰釉陶器の椀がわずかにみられるが、総体としては 7 期から 8 期の様相を示し、各溝出土土器群の間に大きな時期差は認められない。弥生土器は重複するⅠ検土器集中 4 由来の混入品と考える。

B 区溝出土品（図 29　294 ～ 308、図 36　559 ～ 566）Ⅰ検溝 1 からは少量（8g）、Ⅰ検溝 2 から 1.92kg、Ⅰ検溝 3 から 0.63kgが出土した。図示は溝 2 が実測図 14 点、溝 3 が実測図 1 点と拓影 8 点で、溝 2 は弥生土器 1 点（294：混入品？）の他はすべて平安時代に属し、溝 3 はすべて弥生時代中期後半である。溝 2 の図化品は須恵器と黒色土器 A の杯 A が主体、須恵器杯 B や黒色土器 A や灰釉陶器の椀が伴って 6 期から 8 期の様相を呈す。溝 3 は非図化品を含めてほとんどが弥生土器だがわずかに古墳時代と平安時代のものが混じり、土器群として時期特定は困難である。

C 区溝出土品（図 29・30　309 ～ 365、図 36　567 ～ 582）Ⅰ検溝 2 ～ 5 で多量に出土し（溝 2：10.89kg、溝 3：2.92kg、溝 4：5.45kg、溝 5：10.78kg）、実測図で 57 点、拓影で 16 点を図示した。溝 2 は総量の 20％強が弥生土器と古墳時代の土師器、残りはほとんどが平安時代であったが、中世の陶器類がまとまって出土し 6 点を図示できた。内訳は古瀬戸天目茶碗（319）・平碗（318）・皿（316）・卸皿（317）・合子（320）、内耳土器（321）、捏鉢（322）、常滑甕（323）で、これらが示す溝 2 の最終的な時期は古瀬戸後期（14 世紀後半～ 15 世紀）である。他の弥生～平安時代のものは混入品であろう。溝 3 と溝 4 はほとんどが平安時代に属するもので、図化品でみると溝 3 は 6 期～ 9 期、溝 4 は 7 期～ 9 期と 14 期の 2 時期に分れる。溝 5 は出土総重量の 70％が弥生土器、残りが古墳時代と平安時代のもので、図化は実測図で弥生土器 7 点、古墳時代の土師器 2 点、平安時代の土器 7 点、拓影で弥生土器 16 点を示した。複数の時期が混在し、土器群としての時期的なまとまりはみられない。

オ　土器集中部

A区Ⅰ検土器集中3（図30　366～370）　総量2.08kgが出土し、実測図で5点を示した。図化品はすべて平安時代のもので須恵器杯Aと土師器甕Bに限られ、6期の様相である。非図化品もほとんどが平安時代に属し、わずかに古墳時代の土師器が伴っている。

A区Ⅰ検土器集中4（図31　371～374、図36　583）　総量2.08kgが出土し、約80％が弥生土器、残りが平安時代に属す。実測図で示した4点の内訳は弥生時代中期後半の壺3点と平安時代の黒色土器Aの皿B1点、拓影は弥生時代中期後半の甕である。平安時代の遺物は本址を切る溝4から現場作業段階で混入したものと推定し、本土器群の本来の時期は弥生時代中期後半と捉えたい。

カ　各地区検出面等（壁面、先行トレンチ、攪乱、立会など遺構以外の出土品を含む）

A区（図31・32　375～425、図36　584～602）　総重量はⅠ検49.60kg、Ⅱ検3.42kgで実測図51点、拓影19点を提示した。内訳は弥生土器が実測図7点（Ⅰ検3点、Ⅱ検4点）と拓影全点（すべてⅠ検）、古墳時代の土師器12点（Ⅰ検11点、Ⅱ検1点）、平安時代の須恵器・土師器・黒色土器A・灰釉陶器が31点（すべてⅠ検）、中世の青磁1点（Ⅰ検）である。Ⅰ検からは各時代、Ⅱ検からは弥生・古墳時代のものが出土している。

B区（図32　426～435、図36・37　603～620）　総重量はⅠ検7.38kg、Ⅱ検は0.39kgで実測図10点、拓影18点を提示した。内訳は弥生土器が実測図2点、拓影全点、古墳時代の土師器8点で、すべてⅠ検からである。平安時代は残存率が悪く図化したものはない。Ⅱ検は出土量が少なくⅠ検との具体的な時期差の把握はむずかしい。

C区（図33･34　436～499、図37　621～636）総重量はⅠ検32.64kg、Ⅱ検1.32kgで実測図64点、拓影16点を提示した。内訳は実測図が縄文土器1点、弥生土器が実測図5点と拓影のすべて、古墳時代の土師器5点、平安時代の土器陶器53点である。主にⅠ検から弥生～平安時代、Ⅱ検からは古墳時代以前のものが出土している。縄文土器（496）はⅡ検の最下層から出土した。Ⅰ検からは非常に遺存状態が良い形で出土したものが何点かあり（弥生土器甕：439・440、平安時代の黒色土器A杯451・452など）、調査時に把握できなかった遺構に類するものがあった可能性を示唆している。

D区（図34　500・501）先行トレンチから0.32kgが出土し、古墳時代の土師器杯2点を図化できた。

2　土製品・瓦（表11、図37）

土製円盤、土錘、陶硯、瓦が出土している。各遺物の詳細は表11のとおり。土製円盤（土2）は弥生時代中期後半の甕の胴部破片を用いている。瓦（土5）の瓦は形状から一側縁を残す平瓦の破片と推定したが、布目やタタキがまったく見られない。

表 8　土器一覧

No.	地区	地点	種別	器種 器形	寸法 口径	寸法 底径	寸法 器高	残存 口縁	残存 底部	成形・調整・紋様	時期	備考	注記
1	A I	310 住	黒	杯	14.0				欠	ロク，内ミ	平安		045
2	A I	310 住	土	甕 B	23.0			1/5	欠	口縁ヨコ・カ，縦ハ，内縦長ナデ	平安		022・045
3	A I	310 住	土	甕 B	23.8	7.6	32.6	11/16	完	口縁ヨコ・カ，縦ハ，内縦長ナデ，底面押平	平安		※ 1
4	A I	311 住	土	高杯	18.4			1/10	欠	口縁ヨコ，内外縦ミ	古墳	混入	117
5	A I	311 住	須	蓋 B	15.2			3/8	欠	ロク，天井回ケ	平安		110・132・432
6	A I	311 住	須	蓋 B	15.9			1/9	欠	ロク	平安		110
7	A I	311 住	須	蓋 B	17.8			1/4	欠	ロク，天井回ケ	平安		274
8	A I	311 住	須	杯 A	13.8	6.0	4.0	1/2	完	ロク，回糸	平安		086・115
9	A I	311 住	須	杯 A	11.8			1/5	欠	ロク	平安		117
10	A I	311 住	須	杯 A		5.8		欠	1/2	ロク，回糸	平安		111
11	A I	311 住	須	杯 B		8.5		欠	完	ロク，回ケ，ツ高	平安		111
12	A I	311 住	土	杯 A	14.0	6.2	3.0	1/8	1/4	ロク，回糸	平安		065
13	A I	311 住	黒	杯 A	13.0	5.8	4.0	7/8	完	ロク，内ミ，回糸	平安		070
14	A I	311 住	黒	杯 A	12.5	5.8	4.1	1/16	7/8	ロク，内ミ，回糸	平安		099・103・124・128
15	A I	311 住	黒	杯 A	12.6	5.8	3.5	3/4	完	ロク，内ミ，回糸	平安		065・110
16	A I	311 住	黒	杯 A	12.6	6.4	3.7	1/2	完	ロク，内ミ，回糸	平安		079
17	A I	311 住	黒	杯 A	12.2	6.4	5.0	1/8	7/8	ロク，内横ミ，回糸	平安	ミガキと外形異質	098・130
18	A I	311 住	黒	杯 A	13.4	5.8	4.0	1/4	1/2	ロク，内ミ，回糸	平安	内面線刻	124
19	A I	311 住	黒	杯 A	13.0	6.0	3.7	1/4	完	ロク，内ミ，回糸	平安	内面線刻	066・111
20	A I	311 住	黒	杯 A	12.6	5.9	4.3	3/8	完	ロク，内ミ，回糸，内底部圏線状	平安		094・106・119・262
21	A I	311 住	黒	杯 A	13.2	5.5	3.7	1/5	2/3	ロク，内ミ，回糸・部分的ケ	平安		089・111
22	A I	311 住	黒	杯 A	13.7	5.6	3.5	1/3	1/2	ロク，内ミ，回糸	平安		121・125・37
23	A I	311 住	黒	杯 A	12.8	5.8	3.7	1/2	2/5	ロク，内ミ，回糸	平安		102・124
24	A I	311 住	黒	杯 A	13.8	5.8	4.5	5/8	完	ロク，内ミ，回糸	平安		110・138・262
25	A I	311 住	黒	杯 A	12.0	5.6	4.0	1/8	1/2	ロク，内ミ，回糸	平安		136
26	A I	311 住	黒	杯 A	12.8	5.8	3.6	1/5	1/4	ロク，内ミ，回糸	平安		124
27	A I	311 住	黒	杯 A	15.4	6.4	4.8	1/10	1/4	ロク，内ミ，回糸	平安		111
28	A I	311 住	黒	杯 A	15.7	5.9	5.0	3/8	完	ロク，内ミ，回糸	平安		109・113・114・426
29	A I	311 住	黒	杯 A	18.4	8.0	6.2	1/16	3/5	ロク，内ミ，回糸	平安		112・138・435
30	A I	311 住	黒	杯 A	18.5	7.3	7.0	5/8	完	ロク，内ミ，回糸	平安		095・124・131・132
31	A I	311 住	黒	杯 A		7.5		欠	2/3	ロク，内ミ，回糸	平安		124
32	A I	311 住	黒	椀	15.3	7.3	5.6	1/2	完	ロク，内ミ，回糸，ツ高	平安		124 ～ 126・137・432
33	A I	311 住	黒	椀	17.8			1/3	欠	ロク，内ミ，回糸ナデ消し，ツ高	平安		098
34	A I	311 住	灰	椀	15.0	7.6	4.9	1/2	完	ロク，回ケ，ツ高，ハケ使り	平安		075・109・110・112・119
35	A I	311 住	灰	椀	18.7	9.4	6.5	1/10	1/2	ロク，回ケ，ツ高，ハケ使り	平安		113・262・425
36	A I	311 住	灰	椀	18.0			1/5	欠	ロク，回ケ，ハケ使り	平安		111・124
37	A I	311 住	土	皿	15.8			5/8	欠	ヨコ，内放射状ミ・圏線，外ケ	平安	非在地？	117
38	A I	311 住	土	鉢 A	14.4	6.0	2.8	8/9	完	ロク，回糸	平安	内面外周にスス	071・104・124
39	A I	311 住	黒	鉢 B	12.6	6.4	2.8	4/9	完	ロク，内ミ，回糸，ツ高	平安		071・124
40	A I	311 住	黒	鉢 B	12.6			2/3	欠	ロク，内ミ，回糸，ツ高	平安		093・120・260
41	A I	311 住	黒	鉢 B	13.0	7.1	3.8	1/2	1/2	ロク，内ミ，回糸，ツ高	平安		124・126
42	A I	311 住	灰	鉢 B	15.2	7.4	3.2	5/8	完	ロク，回ケ，ツ高，ハケ使り？	平安		067・105・119・471
43	A I	311 住	灰	鉢 B	15.2	7.6	3.1	7/8	完	ロク，回ケ，ツ高，ハケ使り	平安		069・115
44	A I	311 住	土	甕 B	20.2			1/5	欠	口縁ヨコ・カ，縦ハ，内縦長ナデ	平安		091
45	A I	311 住	土	甕 B	22.1			1/7	欠	口縁ヨコ・カ，縦ハ，内縦長ナデ	平安		084
46	A I	311 住	土	甕 B	23.0			1/2	欠	口縁ヨコ・カ，縦ハ，内縦長ナデ	平安		※ 2
47	A I	311 住	土	甕 B	22.0			1/7	欠	口縁ヨコ・カ，縦ハ，内縦長ナデ	平安	51 と同一個体？	136
48	A I	311 住	土	甕 B		8.2		欠	1/2	縦ハ，内縦長ナデ，底面押平	平安		112
49	A I	311 住	土	甕 B		9.0		欠	3/4	縦ハ，内縦長ナデ，底面押平	平安		077
50	A I	311 住	土	甕 B		10.0		欠	5/8	縦ハ，内縦長ナデ，底面押平	平安		109・140・470
51	A I	311 住	土	甕 B		11.1		欠	1/2	縦ハ，外下端ロク，内縦長ナデ，底面押平	平安	47 と同一個体？	※ 3
52	A I	311 住	黒	小型甕	14.2			1/24	欠	ロク，内ミ	平安		112・114
53	A I	311 住	土	小型甕	16.0			1/8	欠	ロク，カ	平安		088
54	A I	311 住	土	小型甕	16.8	10.4	22.4	1/10	完	ロク，カ，胴下端回ケ，底面押平	平安		096・124・137
55	A I	311 住	土	小型甕		7.2		欠	完	ロク，カ，回糸	平安		110
56	A I	311 住	土	円筒	14.4			1/2	欠	口縁ヨコ・面，縦ハ，内縦長ナデ	平安		101
57	A I	311 住	土	円筒	11.4			完	欠	口縁ヨコ・面，縦ハ，内縦長ナデ	平安		075・098・105・107・120・124・25
58	A I	311 住	須	甕 A	24.1			1/9	欠	ロク	平安		092・100・124
59	A I	311 住	須	甕 E		10.9		欠	1/8	タタキ後ロク，底面押平後ケ	平安		083・93・112・117・136
60	A I	311 住	須	短頸壺	12.0			3/8	欠	ロク	平安		124・425
61	A I	311 住	須	長頸壺 C		5.0		欠	3/8	ロク，回糸	平安		103
62	A I	311 住	須	長頸壺		9.4		欠	完	ロク，底面押平，内カ，ツ高	平安		061 ～ 63・103・105・283
63	A I	311 住	須	長頸壺		9.4		欠	7/16	ロク，回糸，ツ高	平安		131・137
64	A I	311 住	灰	鉢		12.8		欠	1/8	ロク，胴・底面回ケ	平安		123
65	A I	312 住	弥	壺		9.0		欠	1/2	胴部ケズリ状ナデ，底面ナデ	弥生	310 住と接合，混入	052・147・404
66	A I	312 住	須	杯 B	14.0	8.3	5.8	1/2	完	ロク，底面回糸後外周回ケ，ツ高	平安		149・396
67	A I	312 住	黒	杯 A		6.2		欠	1/4	ロク，内ミ，回糸	平安		147
68	A I	312 住	黒	杯 A	15.7	8.0	4.7	5/6	完	ロク，内ミ，回糸後端部ハ	平安		146
69	A I	312 住	黒	杯 A	17.2	7.8	5.7	1/7	1/4	ロク，内ミ，回糸	平安		147・397
70	A I	312 住	土	小型甕		7.1		欠	4/5	ロク，カ，回糸	平安	外面使用で黒変	145
71	A I	312 住	須	甕		11.0		欠	1/4	ナデ・工具ナデ，回ケ	平安		147・336
72	A I	313 住	弥	甕	13.8			1/8	欠	櫛波・簾，内横ミ	弥生	混入	185
73	A I	313 住	弥	甕	16.2			1/7	欠	櫛波・簾状，内横ミ	弥生	混入	189
74	A I	313 住	弥	甕		7.0		欠	1/3	ナデ，摩滅	弥生	混入	189
75	A I	313 住	土	杯		3.9		欠	2/3	内外ミ，上げ底	古墳	混入	187
76	A I	313 住	土	壺	23.0			1/8	欠	内外ミ，二重口縁	古墳	混入	182

No.	地区面	地点	種別	器種器形	寸法 口径	寸法 底径	寸法 器高	残存 口縁	残存 底部	成形・調整・紋様	時期	備考	注記
77	A I	313住	土	甕	10.8			1/7	欠	口縁ヨコ、外縁ハ・工具ナデ、内横ハ・指	古墳	混入	186
78	A I	313住	須	杯A	13.6	6.6	4.0	2/3	完	ロク、回転	平安	体部内外面黒斑	172
79	A I	313住	須	杯A	13.1	6.0	4.1	15/16	完	ロク、回転	平安	見込赤色付着物	163
80	A I	313住	須	杯A	14.0	7.2	4.2	1/2	3/4	ロク、回転	平安	内外面火襷	196
81	A I	313住	須	杯A	14.0	7.0	4.5	1/4	1/4	ロク、回転	平安		179
82	A I	313住	須	杯A	13.0	5.8	3.1	1/8	1/8	ロク	平安		185
83	A I	313住	須	杯A	12.8			1/7	欠	ロク	平安		179
84	A I	313住	軟	杯A	13.1	5.9	4.0	完	完	ロク、回転	平安		170
85	A I	313住	黒	杯A	13.0	5.7	4.4	完	完	ロク、内、回転	平安		162
86	A I	313住	黒	杯A	13.3	6.0	4.3	完	完	ロク、内、回転	平安		168
87	A I	313住	黒	杯A	12.6	6.0	3.9	1/4	1/8	ロク、内、回転	平安		179
88	A I	313住	黒	杯A	13.4	6.8	3.9	3/8	1/2	ロク、内、回転	平安		179・193
89	A I	313住	黒	杯A	13.9	6.5	4.0	1/16	1/3	ロク、内、回転	平安		193
90	A I	313住	黒	杯A	12.0			3/8	欠	ロク、内、ミ	平安		045・179
91	A I	313住	黒	杯A		5.2		欠	3/5	ロク、内、ミ、回転	平安		189・193
92	A I	313住	黒	杯A	15.8	6.6	5.1	2/5	完	ロク、内、ミ、回転	平安		045・046・158・179
93	A I	313住	黒	杯A	16.2	7.0	4.7	1/2	3/4	ロク、内、ミ、回転	平安	黒抜け	164・165・167・181・193
94	A I	313住	黒	椀	16.0	7.6	6.6	1/8	1/2	ロク、内、ミ、回転、ツ高	平安	一部黒抜け	181
95	A I	313住	黒	椀	15.6	7.3	6.2	1/8	3/4	ロク、内、ミ、回転、ツ高	平安		179
96	A I	313住	黒	椀	16.2			1/4	欠	ロク、内、ミ	平安		189・414
97	A I	313住	黒	椀	15.2			5/8	欠	ロク、内、ミ、回転、ツ高	平安		169・175・179
98	A I	313住	黒	椀		7.0		欠	2/3	ロク、内、ミ、回転、ツ高	平安		184
99	A I	313住	土	皿A？	13.3			3/8	欠	ロク	平安		195
100	A I	313住	黒	皿B	13.6	6.0	3.0	5/8	完	ロク、内、ミ、回転、ツ高	平安	一部黒抜け	166・181
101	A I	313住	灰	皿B	14.0	6.2	2.7	1/8	1/8	ロク、回ケ、ハケ塗り	平安		181
102	A I	313住	黒	鉢	25.0			1/10	欠	ロク、内、ミ	平安		181
103	A I	313住	黒	鉢	19.0			1/2	欠	ロク、内、ミ	平安		158・179
104	A I	313住	黒	鉢		10.8		欠	1/4	ロク、内、ミ、回転	平安		179
105	A I	313住	須	甕A	41.8			3/16	欠	ロク、タタキ、内当て具痕磨消し	平安		184・377・404
106	A I	313住	土	甕B	19.2			1/8	欠	口縁ヨコ・カ、縦ハ、内縦長ナデ	平安		177・189・195・394・414
107	A I	313住	土	甕B	19.8			1/8	欠	口縁ヨコ・カ、縦ハ	平安		198
108	A I	313住	土	甕B	19.6			1/8	欠	口縁ヨコ・カ、縦ハ、内指	平安		189
109	A I	313住	土	甕B	22.7			1/5	欠	口縁ヨコ・カ、縦ハ、内工具ナデ	平安		193
110	A I	313住	土	甕B	19.6	8.6	30.7	1/8	1/2	口縁ヨコ・カ、縦ハ、下端横ケ、内縦長ナデ、底面押平	平安		※4
111	A I	313住	土	小型甕	12.0			1/5	欠	ロク、カ	平安		398
112	A I	313住	土	円筒				欠	欠	外面縦ハ、内横工具ナデ	平安	横断面隅丸方形	173・402・404・410
113	A I	314住	土	杯	14.2			1/8	欠	口縁内外横ミ、側部外ケ・内横ミ	古墳	混入	223
114	A I	314住	須	杯A	13.8	6.1	3.7	1/6	完	ロク、回転	平安		204・225
115	A I	314住	軟	杯A	12.7	5.6	3.9	1/7	1/8	ロク、回転	平安		223
116	A I	314住	軟	杯A	13.8	5.2	4.4	1/2	完	ロク、回転	平安		223
117	A I	314住	軟	杯A	13.0	5.2	3.7	4/5	完	ロク、回転	平安		211・214
118	A I	314住	軟	杯A	12.5			1/4	欠	ロク	平安		223
119	A I	314住	土	杯A	13.0	5.8	4.0	1/3	完	ロク、回転	平安	軟質？	221
120	A I	314住	土	杯A	14.6	5.7	4.8	完	1/2	ロク、回転	平安	成形雑	216
121	A I	314住	土	杯A	14.0			1/5	欠	ロク	平安		205・223
122	A I	314住	黒	杯A	12.9	5.6	3.7	1/5	7/8	ロク、内、回転	平安	黒抜け	212・216・227
123	A I	314住	黒	杯か椀	13.4			1/8	欠	ロク、内ミ	平安		223
124	A I	314住	黒	杯か椀	13.6			1/6	欠	ロク、内ミ	平安		223
125	A I	314住	黒	杯A		5.2		欠	9/10	ロク、内、回転	平安	一部黒抜け	219
126	A I	314住	土	甕B	22.5	9.4	31.3	1/6	3/4	口縁ヨコ・カ、縦ハ・下端回ケ、内縦長ナデ	平安		※5
127	A I	314住	土	甕B	22.2			1/6	欠	口縁ヨコ・カ、縦ハ、内工具ナデ	平安		230
128	A I	314住	土	甕B	22.8			1/2	欠	口縁ヨコ・カ、縦ハ、内縦長ナデ	平安		208・210・213・215・225・229
129	A I	314住	土	甕B		9.5		欠	1/4	縦ハ、内縦長ナデ・工具ナデ	平安		230
130	A I	314住	土	甕B		15.0		欠	1/16	縦ハ・下端縦ケ、内縦長ナデ・横ハ	平安		207・225
131	B I	315住	土	杯A	13.1	7.0	4.2	1/2	完	ロク、回転	平安		563・641
132	B I	315住	土	杯A	13.0			1/6	欠	ロク	平安		568
133	B I	315住	土	杯A		6.5		欠	1/3	ロク、回転	平安		567
134	B I	315住	黒	杯A	13.0	6.2	3.8	1/4	完	ロク、内、回転	平安		568・573
135	B I	315住	黒	杯A	16.0	6.2	6.3	1/12	2/3	ロク、内、回転	平安		568・573
136	B I	315住	黒	杯A		6.2		欠	完	ロク、内、回転	平安		570・573
137	B I	315住	土	甕B	25.4			1/6	欠	口縁ヨコ・カ、縦ハ、内縦長ナデ	平安		565
138	B I	315住	土	甕B	24.2			1/9	欠	口縁ヨコ・カ、縦ハ、内縦長ナデ	平安		562
139	B I	315住	土	甕B	25.2			1/5	欠	口縁ヨコ・カ、縦ハ、ロク、内工具ナデ	平安		568・573
140	B I	315住	灰	手付小鍋	3.7			1/15	欠	ロク、把手貼り付け	平安	磁片実測	573
141	C I	316住	土	甕	14.6			1/6	欠	口縁ヨコ、外工具ナデ、内指	古墳		709
142	C I	317住	土	台付甕		11.4		欠	1/10	内外斜ハ、下端部面	古墳		721
143	C I	317住	軟	杯A		5.8		欠	1/4	ロク、回転	平安		720
144	C I	317住	黒	杯A		5.7		欠	1/4	ロク、内、回転	平安		720
145	C I	317住	黒B	皿		6.8		欠	1/4	ロク、内、回転後ナデ	平安		720
146	C I	317住	灰	皿		7.0		欠	1/3	ロク、回ケ、ツ高	平安	内面研磨	718
147	C I	317住	灰	椀		7.8		欠	1/3	ロク、回ケ、ツ高	平安		718
148	C I	318住	土	杯A	13.4	5.0	4.0	1/4	1/5	ロク、回転	平安		728
149	C I	318住	黒	杯A	12.8	6.0	4.5	1/15	1/4	ロク、内、ミ、回転	平安		728
150	C I	318住	黒	杯A	12.6	5.4	4.5	3/4	完	ロク、内、ミ、回転	平安		729
151	C I	318住	黒	椀	14.0	6.4	5.3	1/4	3/4	ロク、内、ミ、回転、ツ高	平安		728
152	C I	318住	黒	椀	15.6			2/3	欠	ロク、内、ミ、回転、ツ高	平安		728

No.	地区面	地点	種別	器種器形	寸法 口径	寸法 底径	寸法 器高	残存 口縁	残存 底部	成形・調整・紋様	時期	備考	注記
153	C Ⅰ	318 住	土	甕 B	22.8			1/4	欠	口縁ヨコ・カ、縦ハ、内縦長ナデ	平安		728
154	C Ⅰ	318 住	土	甕 B				欠	欠	外縦ハ・下端部工具ナデ、内縦長ナデ・ナデ	平安	胴部残 1/4	728・923
155	C Ⅰ	318 住	土	小型甕		7.8		欠	1/4	ロク、カ、回糸	平安		728
156	C Ⅰ	318 住	土	小型甕		7.1		欠	完	ロク、カ、回糸	平安	317 住と接合	721・728・923
157	C Ⅰ	319 住	須	蓋 B	10.6	—		1/6	欠	ロク	平安		747
158	C Ⅰ	319 住	須	杯 A	13.5			1/4	欠	ロク	平安		746・954
159	C Ⅰ	319 住	須	杯 A		5.7		欠	1/4	ロク、回糸	平安		749
160	C Ⅰ	319 住	黒	杯 A	13.2	7.0	3.6	1/10	2/3	ロク、内ミ、回糸	平安		747・953
161	C Ⅰ	319 住	黒	杯 A	13.6	6.0	4.1	1/12	1/2	ロク、内ミ、回糸	平安		747・953
162	C Ⅰ	319 住	黒	杯 A		6.0		欠	1/3	ロク、内ミ、回糸	平安		747
163	C Ⅰ	319 住	黒	椀	15.0			1/10	欠	ロク、内ミ	平安		746
164	C Ⅰ	319 住	黒	椀	15.0			1/4	欠	ロク、内ミ	平安		746・834・954
165	C Ⅰ	319 住	黒	椀	17.0	7.4	7.0	1/4	1/3	ロク、内ミ、回糸後ナデ?、ツ高	平安		746・747
166	C Ⅰ	319 住	黒	椀		6.1		欠	1/3	ロク、内ミ、回糸、ツ高	平安		747
167	C Ⅰ	319 住	黒	皿		5.9		欠	1/4	ロク、内ミ、回糸、ツ高	平安		747
168	C Ⅰ	319 住	黒	皿	13.6			1/8	欠	ロク、内ミ	平安		748
169	C Ⅰ	319 住	黒	皿	13.0			1/8	欠	ロク、内ミ	平安		746
170	C Ⅰ	319 住	土	円筒				欠	欠	外縦ハ、内縦長ナデ	平安	横断面隅丸方形	747・953
171	C Ⅰ	319 住	土	甕 B	22.4			1/6	欠	口縁ヨコ・カ、縦ハ、内ハ後縦長ナデ	平安		746
172	C Ⅰ	319 住	土	甕 B	23.0			1/9	欠	口縁ヨコ・カ、縦ハ	平安		746
173	C Ⅰ	319 住	土	甕 B	25.6			1/10	欠	口縁ヨコ・カ、縦ハ	平安		747
174	C Ⅰ	319 住	土	甕 B		9.0		欠	1/6	縦ハ、内縦長ナデ・指エ	平安		746
175	C Ⅰ	320 住	弥	鉢		7.8		欠	1/4	内外ミ、底面以外赤彩	弥生		756・758
176	C Ⅰ	320 住	弥	壺				欠	欠	外櫛横羽（太櫛条痕状）、内横ミ	弥生	胴部残 1/8	755・944
177	C Ⅰ	321 住	弥	壺				欠	欠	外縦～斜ミ、内斜ハ	弥生	胴部残 1/4	766・923
178	C Ⅰ	321 住	土	杯	14.4			1/8	欠	外横ミ、下端ケ、内口縁横ミ・体部縦ミ	古墳	内面黒色処理	766
179	C Ⅰ	321 住	土	小型丸底	9.6			1/7	欠	外横ミ、内斜ハ後横ミ	古墳		766
180	A Ⅱ	322 住	弥	甕	17.9			1/4	欠	外櫛波、内横ミ、口唇LR縄	弥生		491
181	A Ⅱ	322 住	弥	甕	16.4			1/6	欠	外櫛波、内横ケ後縦ミ、口唇LR縄	弥生		492
182	A Ⅱ	322 住	弥	甕	17.5			1/9	欠	外櫛波、内横ミ、口唇櫛刻A	弥生		485
183	A Ⅱ	322 住	弥	甕	11.7			1/8	欠	外櫛波・縦羽、内横ミ、口唇LR縄	弥生		501
184	A Ⅱ	322 住	弥	甕	19.5			1/14	欠	外櫛簾・縦羽、内横ミ、口唇櫛刻A	弥生		496・499
185	A Ⅱ	322 住	弥	甕				欠	欠	外櫛波・縦工具ナデ、内横ケ後縦ミ	弥生		499
186	A Ⅱ	322 住	弥	高杯		8.0		欠	1/5	外縦横ミ、内横ハ	弥生		502
187	A Ⅰ	竪Ⅰ	土師	カワラケ							中世	破片実測	242
188	A Ⅰ	竪Ⅰ	土師	カワラケ							中世	破片実測	241
189	A Ⅰ	竪Ⅰ	土師	カワラケ							中世	破片実測	242
190	A Ⅰ	竪Ⅰ	土師	カワラケ							中世	破片実測	242
191	A Ⅰ	竪Ⅰ	陶	椀		8.4		欠	1/4	ロク、ツケ高台	中世	山茶碗、東濃 4	242
192	A Ⅰ	竪Ⅰ	陶	鉢蓋	13.0	5.8	4.2	1/20	1/4	ロク、回糸	中世	古瀬戸前～中期	238・242
193	A Ⅰ	土7	須	蓋 B	15.0	—		1/10	—	回糸	平安		262
194	A Ⅰ	土7	黒	杯 A		5.8		欠	1/2	ロク、内ミ、回糸	平安		262
195	A Ⅰ	土7	土	甕 B	21.2			1/10	欠	口縁ヨコ・カ、縦ハ、内縦長ナデ	平安		263
196	A Ⅰ	土9	黒	杯 A	13.8	6.3	3.5	1/4	5/8	ロク、内ミ、回糸後外周ケ	平安	底面に直線の線刻	266
197	A Ⅰ	土11	黒	杯 A	18.0	9.0	5.3	2/3	完	ロク、内ミ、回糸後全面ケ	平安		268・271
198	A Ⅰ	土11	土	甕 B	22.0			1/8	欠	口縁ヨコ・カ、縦ハ、内縦長ナデ	平安		267
199	A Ⅰ	土18	土	小型甕	11.6			1/8	欠	ロク、カ	平安		284
200	A Ⅰ	土21	弥	壺				欠	欠	櫛横線、綱LR、内ナデ	弥生	頸部残 3/4	288・290
201	A Ⅰ	土21	土	杯	15.6	—	6.4	1/3	完	口縁内外横ミ、体部内外横～斜ミ、底部ケ	古墳		288
202	A Ⅰ	土21	土	甕	11.8			3/5	欠	口縁ヨコ、胴内外摩滅・工具ナデ?ミケ	古墳		289・290・420
203	A Ⅰ	土21	土	杯		4.8		欠	完	ロク、回糸	平安		288
204	A Ⅰ	土24	黒	杯 A		5.6		欠	1/3	ロク、内ミ、回糸	平安		295
205	A Ⅰ	土32	須	長頸壺		8.8		欠	1/8	ロク、胴部外下部回ケ、底回糸	平安		304
206	A Ⅰ	土26	土	杯	12.0			1/3	欠	口縁内外横ミ、体部外ケ後横～斜ミ・内縦ミ	古墳		297・414
207	A Ⅰ	土26	土	高杯	20.2			1/7	欠	内外縦ミ	古墳		297
208	A Ⅰ	土36	土	甕	11.0	—	20.7	1/4	1/2	口縁ヨコ、胴摩滅・工具ナデ?	古墳		306・547
209	A Ⅰ	土51	土	小型甕	15.6			1/4	欠	ロク、カ	平安		321・450
210	A Ⅱ	土6	弥	鉢	18.6			1/6	欠	内外上平横ミ・下平斜ミ	弥生	高杯の可能性	512
211	A Ⅱ	土6	弥	壺				欠	欠	外面櫛波後ミ、内指・横ハ	弥生	胴部残 1/4	511・512・43
212	B Ⅰ	土8	灰	壺		11.2		欠	3/8	ロク、回ケ	平安	広口瓶?	584
213	B Ⅰ	土25	黒	椀	17.0			1/8	欠	ロク、内ミ	平安		597
214	B Ⅱ	土10	土	器台?	12.8			1/6	欠	内外縦ミ、内器受け状突帯貼り付け	古墳		688
215	C Ⅰ	土12	土	台付甕?		8.5		欠	完	内外ナデ・指	古墳？	成形雑	783
216	C Ⅰ	土14	黒	杯 A	13.6	5.2	4.0	1/3	完	ロク、内ミ、回糸	平安	墨書？	786・910
217	C Ⅰ	土20	黒	椀	14.8			1/4	欠	ロク、内ミ	平安		788
218	C Ⅰ	土20	土	甕 B		8.0		欠	1/4	外縦ハ・下端部工具ナデ、内縦長ナデ・ナデ	平安		788
219	C Ⅰ	土35	土	高杯？	15.8			1/4	欠	外横ハ後縦ミ、下部ケ、内縦ナデ	古墳		799
220	C Ⅰ	土35	土	高杯		17.0		欠	1/15	外縦長ミ、内ナデ・工具ナデ	古墳		800・909・942
221	C Ⅰ	土35	土	杯	14.8	—	5.6	1/9	2/3	外縦ミ、内横ミ	古墳	内面黒色処理	800
222	C Ⅰ	土35	土	杯	13.5			1/8	欠	外縦ミ、内横ミ	古墳		799
223	C Ⅰ	土35	土	坩				欠	欠	外縦ミ、内ナデ・工具ナデ	古墳	頸部残 1/4	799・800・923
224	C Ⅰ	土36	土	杯	11.7	—	5.2	1/8	完	外縦ハ後横～斜ミ、底ケ、内横ミ	古墳		803・907

No.	地区/面	地点	種別	器種器形	寸法 口径	寸法 底径	寸法 器高	残存 口縁	残存 底部	成形・調整・紋様	時期	備考	注記
225	C Ⅰ	土36	土	甕B	23.6			1/6	欠	口縁ヨコ・カ、縦ハ、内縦長ナデ	平安		801
226	C Ⅰ	土43	土	甕B	19.4			1/15	欠	口縁ヨコ・カ、縦ハ、内縦長ナデ	平安		808
227	C Ⅰ	土43	土	甕B				欠	欠	口縁ヨコ・カ、縦ハ、内縦長ナデ	平安	胴部残1/8	808
228	C Ⅰ	土55	土	高杯	18.5	12.6	12.4	1/10	1/3	外縦ミ、杯部内縦～斜ミ、脚内上具ナデ	古墳		819～821
229	C Ⅰ	土55	土	高杯		15.6		欠	1/4	外縦ミ、内ナデ	古墳		818
230	C Ⅰ	土55	土	甕	18.5			1/8	欠	口縁ヨコ、外斜ハ後雑ミ、内：工具ナデ	古墳	甑?	817
231	C Ⅰ	土62	土	円筒				欠	欠	外ヨコ・縦ハ、内縦長ナデ	平安	横断面隅丸方形	836
232	C Ⅰ	土57	土	杯	15.0			1/12	欠	外縦ハ後雑斜ミ、内ナデ	古墳		828
233	C Ⅰ	土57	須	杯A		6.7		欠	1/8	ロク、回転	平安		827
234	C Ⅰ	土57	須	杯B		7.1		欠	1/8	ロク、回転、ツ高	平安		827
235	C Ⅰ	土57	軟	杯A	13.9			1/8	欠	ロク	平安		826
236	C Ⅰ	土57	黒	杯A	12.7			1/4	欠	ロク、内ミ	平安		827・912
237	C Ⅱ	土9	土	甕	16.8			1/9	欠	口縁ヨコ、外ミ摩滅?、内強ケ・縦のナデ	古墳		972・973
238	C Ⅱ	土36	土	高杯	16.5			1/4	欠	内外縦長ミ	古墳		976・988・996
239	C Ⅱ	土36	土	小型丸底	7.0			1/4	欠	口縁ヨコ、胴部工具ナデ?	古墳		978
240	A Ⅰ	溝1	須	杯A		5.4		欠	1/4	ロク、回転	平安		327
241	A Ⅰ	溝1	土	杯A	13.8			1/7	欠	ロク	平安		332
242	A Ⅰ	溝1	黒	杯A		5.9		欠	1/3	ロク、内ミ、回転後外周ケ	平安		327
243	A Ⅰ	溝1	灰	椀		8.0		欠	1/4	ロク、回ケ、ツ高、ハケ塗り?	平安		328
244	A Ⅰ	溝1	灰	椀		6.9		欠	1/8	ロク、回転、ツ高	平安		332
245	A Ⅰ	溝1	土	鉢A	13.2	5.6	2.2	1/10	1/4	ロク、回転	平安	外面黒斑	327
246	A Ⅰ	溝1	土	甕B		7.6		欠	1/2	縦ハ、内縦長ナデ・工具ナデ、底面押平	平安		333
247	A Ⅰ	溝1	土	甕B		8.1		欠	1/4	縦ハ、内縦長ナデ・工具ナデ、底面押平	平安		332
248	A Ⅰ	溝2	弥	壺		9.4		欠	1/3	外頸部撫山、ハ後ミ、内下半横ハ	弥生	土集4からの混入	336・430・453・457・459
249	A Ⅰ	溝2	弥	壺		10.2		欠	1/3	外ハ後ミ、内ハ	弥生	土集4からの混入	337・365・369・370・371・375
250	A Ⅰ	溝2	弥	甕	26.0			1/10	欠	外櫛簾、内横ミ、口唇狐鋸	弥生	土集4からの混入	336
251	A Ⅰ	溝2	弥	甕				欠	欠	外櫛波・縦須、内ハ・ナデ	弥生	土集4からの混入	336
252	A Ⅰ	溝2	弥	甕	15.8			1/8	欠	外櫛波・縦須、内横ミ、口唇LR鋸	弥生	土集4からの混入	338
253	A Ⅰ	溝2	弥	甕	17.0			1/8	欠	外櫛波、内横ミ、口唇LR鋸	弥生	土集4からの混入	335・342
254	A Ⅰ	溝2	須	杯B		5.4		欠	1/4	ロク、回転後外周回ケ、ツ高	平安		338
255	A Ⅰ	溝2	土	杯A	13.4	6.4	4.0	1/4	1/4	ロク、回転	平安		337
256	A Ⅰ	溝2	土	杯A	12.1			1/6	欠	ロク	平安		335
257	A Ⅰ	溝2	土	椀		6.8		欠	完	ロク、回転、ツ高	平安		338
258	A Ⅰ	溝2	黒	鉢B	13.8			1/8	欠	ロク、内ミ・摩滅	平安		337
259	A Ⅰ	溝2	土	甕B		6.9		欠	1/6	縦ハ、内縦工具ナデ、底面押平	平安		338
260	A Ⅰ	溝3	須	杯A	12.0			1/8	欠	ロク、回転	平安		341
261	A Ⅰ	溝3	須	杯A		6.0		欠	1/4	ロク、回転	平安		341
262	A Ⅰ	溝4	須	蓋B	13.7	—		1/11	—	ロク	平安		344
263	A Ⅰ	溝5	須	蓋B	15.8	—		1/15	欠	ロク	平安		351
264	A Ⅰ	溝5	須	杯A		5.6		欠	1/2	ロク、回転	平安		350
265	A Ⅰ	溝5	須	杯B		10.5		欠	1/10	ロク、回ケ、ツ高	平安		350
266	A Ⅰ	溝5	須	杯B		8.4		欠	1/2	ロク、回転、ツ高	平安		350
267	A Ⅰ	溝5	軟	杯A		6.0		欠	1/4	ロク、回転	平安		350
268	A Ⅰ	溝5	軟	杯A		5.8		欠	3/4	ロク、回転	平安		350
269	A Ⅰ	溝5	土	杯C		7.0		欠	1/8	ロク、回ケ、回転、ミ	平安	甲斐型杯	350
270	A Ⅰ	溝5	黒	杯A	14.0	6.2	4.3	1/8	1/2	ロク、内ミ、回転	平安		350
271	A Ⅰ	溝5	黒	杯A		6.5		欠	1/3	ロク、内ミ、回転	平安		350
272	A Ⅰ	溝5	黒	椀	15.0	6.3	5.5	1/16	完	ロク、内ミ、回転、ツ高	平安		350
273	A Ⅰ	溝5	黒	椀	13.5			1/5	欠	ロク、内ミ	平安		351
274	A Ⅰ	溝5	黒	椀	15.2			1/8	欠	ロク、内ミ	平安		350
275	A Ⅰ	溝5	黒	椀		7.2		欠	1/4	ロク、内ミ、回転、ツ高	平安		350
276	A Ⅰ	溝5	黒	椀		7.6		欠	完	ロク、内ミ、回転、ツ高	平安		350
277	A Ⅰ	溝5	黒	皿B	13.5			1/7	欠	ロク、内ミ	平安		348
278	A Ⅰ	溝5	黒	皿B		7.0		欠	1/2	ロク、内ミ、回転、ツ高	平安		350
279	A Ⅰ	溝5	黒	皿B		6.5		欠	5/6	ロク、内ミ、回転、ツ高	平安		351
280	A Ⅰ	溝5	灰	皿B	16.2	7.2	2.7	1/6	1/15	ロク、ツ高、ハケ塗り	平安		351
281	A Ⅰ	溝5	土	小型甕	10.1			1/4	欠	ロク、カ	平安		350
282	A Ⅰ	溝5	黒	鉢	26.0			1/8	欠	ロク、内ミ、口唇面状	平安		347
283	A Ⅰ	溝5	土	甕B	23.2			1/11	欠	口縁ヨコ・カ、縦ハ、内縦長ナデ	平安		350
284	A Ⅰ	溝5	須	鉢A	18.4			1/16	欠	ロク	平安		351
285	A Ⅰ	溝5	須	長頸壺		8.2		欠	完	ロク、回ケ、ツ高、底面切離し後粘土貼付け	平安		349
286	A Ⅰ	溝5	須	長頸壺		8.3		欠	1/4	ロク、回転、ツ高	平安		350
287	A Ⅰ	溝5	須	壺	15.2			1/8	欠	ロク	平安	長頸壺?	351
288	A Ⅰ	溝5	須	壺		9.0		欠	1/12	ロク、ツ高	平安	短頸壺?	351
289	A Ⅰ	溝5	須	横瓶	13.4			1/16	欠	ロク、胴ロク回転方向主軸に直交	平安		350
290	A Ⅰ	溝3・5	黒	杯A	14.2	6.1	3.7	3/5	完	ロク、内ミ、回転	平安		341・350
291	A Ⅰ	溝2・5	黒	杯A		6.5		欠	7/8	ロク、内ミ、回転	平安		338・350
292	A Ⅰ	溝4・5	土	甕B		23.0		1/8	欠	口縁ヨコ・カ、縦ハ	平安		344・346
293	A Ⅰ	溝4・5	須	長頸壺				欠	欠	ロク	平安		342・350
294	B Ⅰ	溝2	弥	鉢		11.2		欠	1/8	内外ミ・赤彩	弥生	混入	612
295	B Ⅰ	溝2	須	杯A		6.7		欠	完	ロク、回転	平安		610
296	B Ⅰ	溝2	須	杯A		5.4		欠	1/8	ロク、回転	平安		614
297	B Ⅰ	溝2	須	杯A	13.2			1/8	欠	ロク	平安		614
298	B Ⅰ	溝2	須	杯A	13.3			1/7	欠	ロク	平安		612
299	B Ⅰ	溝2	須	杯A	12.7			1/8	欠	ロク	平安		611

No.	地区 面	地点	種別	器種 器形	寸法 口径	底径	器高	残存 口縁	底部	成形・調整・紋様	時期	備考	注記
300	B I	溝 2	須	杯 B	8.8			欠	1/5	ロク、回ケ、ツ高	平安		617
301	B I	溝 2	黒	杯 A	13.0			1/4	欠	ロク、内ミ	平安		611
302	B I	溝 2	黒	杯 A	12.7	6.0	3.7	1/28	3/8	ロク、内ミ、回糸	平安		615
303	B I	溝 2	黒	杯 A		5.8		欠	完	ロク、内ミ、回糸	平安		609
304	B I	溝 2	黒	椀		7.1		欠	1/5	ロク、内ミ、回糸、ツ高	平安		611
305	B I	溝 2	黒	椀				欠	欠	ロク、内ミ、回糸、ツ高	平安		614
306	B I	溝 2	灰	椀		8.2		欠	1/4	ロク、回ケ、ツ高	平安		617
307	B I	溝 2	須	甕	5.8			1/10	欠	ロク	平安	平胴口縁部?	611
308	B I	溝 3	弥	壺				欠	欠	外縄 LR、櫛横線・山、ミ、内ハ・工具ナデ	弥生	頸部残 1/3	618・621
309	C I	溝 2	土	杯 A	12.5	6.0	3.3	1/10	2/5	ロク、回糸	平安	混入?	860
310	C I	溝 2	黒	杯 A	13.0			1/8	欠	ロク、内ミ、ケ	平安	混入?	859
311	C I	溝 2	黒	椀		5.7		欠	7/8	ロク、内ミ摩滅、回糸、ツ高	平安	混入?	859
312	C I	溝 2	黒	椀	17.2			1/12	欠	ロク、内ミ	平安	混入?	854・859
313	C I	溝 2	灰	椀	15.6			1/8	欠	ロク	平安	混入?	860・861
314	C I	溝 2	灰	椀		6.8		欠	1/2	ロク、回糸後回ケ、ツ高	平安	混入?	859
315	C I	溝 2	須	短頸壺		4.4		欠	2/5	ロク、内ミ	平安	混入?	859
316	C I	溝 2	陶	端反皿	12.8			1/18	欠	ロク、内外釉	中世		849
317	C I	溝 2	陶	卸皿				不能	欠	ロク、口唇沈線	中世	古瀬戸後期	850
318	C I	溝 2	陶	平碗	16.0			1/25	欠	ロク、内外釉	中世	古瀬戸後期	861
319	C I	溝 2	陶	碗		4.1		欠	完	ロク、削り出し高台、内外鉄釉	中世	天目 C、古瀬戸後期	844
320	C I	溝 2	陶	台子	3.7			1/6	欠	ロク、印花文、外全面釉	中世	古瀬戸中~後期	860
321	C I	溝 2	土師	内耳土鍋				不能	欠	ロク	中世		855
322	C I	溝 2	陶	片口鉢	26.0			1/14	欠	ロク、口唇凹線	中世	無釉陶器、尾張 8	861
323	C I	溝 2	陶	甕	23.0			1/8	欠	ロク	中世	常滑	858
324	C I	溝 3	須	蓋 B	14.4	—		1/10	—	ロク、回ケ	平安		870
325	C I	溝 3	須	杯 A		6.0		欠	1/3	ロク、回糸	平安		870
326	C I	溝 3	黒	椀	15.0	8.0	6.5	1/10	3/4	ロク、内ミ、回糸、ツ高	平安		870
327	C I	溝 3	土	小型甕	20.0	8.7	11.3	1/8	1/8	ロク、回糸	平安	岡土復元	872
328	C I	溝 3	須	壺		13.2		欠	1/4	ロク、回ケ	平安		870
329	C I	溝 4	須	杯 A		7.1		欠	1/3	ロク、回糸	平安		880
330	C I	溝 4	須	杯 A		7.2		欠	2/5	ロク、回糸	平安		881
331	C I	溝 4	軟	杯 A	13.0			1/10	欠	ロク	平安		880
332	C I	溝 4	土	杯 A	11.8	5.4	3.0	1/8	1/2	ロク、回糸	平安		881
333	C I	溝 4	土	杯 A	9.4	5.6	1.9	1/3	1/2	ロク、回糸	平安		880
334	C I	溝 4	土	杯 A	9.6	6.0	2.0	1/5	1/3	ロク、回糸	平安		880
335	C I	溝 4	土	杯 A	12.5	6.6	4.0	1/4	1/3	ロク、回糸	平安		880
336	C I	溝 4	土	杯 A		6.3		欠	完	ロク、回糸	平安		881
337	C I	溝 4	土	杯 A		5.0		欠	完	ロク、回糸	平安		881
338	C I	溝 4	黒	杯 A		6.2		欠	1/2	ロク、内ミ、回糸	平安		880
339	C I	溝 4	土	椀		6.6		欠	3/4	ロク、回糸、ツ高	平安		880
340	C I	溝 4	黒	椀		7.8		欠	1/2	ロク、内ミ、回糸、ツ高	平安		880
341	C I	溝 4	黒	椀	17.6	8.1	7.4	1/5	2/3	ロク、内ミ、回糸、ツ高	平安		880
342	C I	溝 4	灰	椀	14.0	7.1	4.4	1/2	完	ロク、回ケ、ツ高、ハケ塗り	平安		880・882
343	C I	溝 4	灰	椀		7.6		欠	1/2	ロク、回ケ、ツ高、ツケガケ	平安		883
344	C I	溝 4	灰	椀		7.1		欠	1/4	ロク、回ケ、ツ高	平安		880
345	C I	溝 4	灰	椀		8.2		欠	5/8	ロク、回ケ、ツ高	平安		883
346	C I	溝 4	灰	皿 C	10.0	5.6	2.3	1/4	完	ロク、回糸後ナデ、ツ高、ツケガケ	平安		883
347	C I	溝 4	灰	皿 B		9.5		欠	1/2	ロク、回ケ、ツ高	平安		880
348	C I	溝 4	土	甕 B	19.5			1/5	欠	口縁ヨコ・カ、縦ハ、内縦長ナデ	平安		882
349	C I	溝 4	土	円筒		10.4		欠	1/8	ロク	平安	上下不明	880
350	C I	溝 5	弥	壺		9.4		欠	1/6	外斜ミ・一部ケ、内横ハ	弥生	外面黒斑	888
351	C I	溝 5	弥	甕	16.3			1/6	欠	内外横ミ、口唇 LR 縄	弥生		889
352	C I	溝 5	弥	甕	14.9			1/13	欠	外櫛波・垂下・沓、内横ミ	弥生		889
353	C I	溝 5	弥	甕		6.8		欠	完	外縦ミ、内上具ナデ・斜ハ、底面ナデ	弥生		888
354	C I	溝 5	弥	甕		6.6		欠	完	外縦ハ後縦ミ、内横ミ、底面ミ	弥生		888
355	C I	溝 5	弥	甕		7.2		欠	1/3	外斜ハ後縦ミ、内横ミ、底面ナデ	弥生		889
356	C I	溝 5	弥	甕		7.4		欠	1/3	外縦ミ、内斜ハ後横ミ、底面ナデ・ミ、焼成前穿孔	弥生		888
357	C I	溝 5	土	甕	23.0			1/10	欠	口縁内外横ミ、胴部内横ハ、摩滅	古墳		888・89
358	C I	溝 5	土	甕		6.8		欠	2/3	内外ナデ・工具ナデ、底部孔の周囲ケ	古墳		888・916・923
359	C I	溝 5	黒	杯 A	13.1	5.6	4.0	1/2	3/4	ロク、内ミ、回糸	平安		888
360	C I	溝 5	黒	杯 A	13.6			1/4	欠	ロク、内ミ	平安		888・912・957
361	C I	溝 5	黒	杯 A		5.7		欠	3/5	ロク、内ミ、回糸	平安		888
362	C I	溝 5	黒	椀		7.8		欠	1/6	ロク、内ミ、回糸、ツ高	平安		888
363	C I	溝 5	黒	椀	15.2			1/3	欠	ロク、内放射ミ・斜ミ	平安		885・916
364	C I	溝 5	土	甕 B		10.0		欠	1/10	縦ハ、内縦長ナデ・工具ナデ、底面ナデ	平安		888
365	C I	溝 5	土	円筒				1/8	欠	縦ハ、内横工具ナデ、口唇面状	平安	断面形は隅丸方形	888
366	A I	土器集中 3	須	杯 A	12.8	5.8	4.0	1/10	3/7	ロク、回糸	平安		364
367	A I	土器集中 3	須	杯 A	12.8	6.3	3.7	1/4	1/4	ロク、回糸	平安		363
368	A I	土器集中 3	土	甕 B	21.6			1/4	欠	口縁ヨコ・カ、縦ハ、内縦長ナデ	平安		361・364・425
369	A I	土器集中 3	土	甕 B	23.4			完	欠	口縁ヨコ・カ、縦ハ、内縦長ナデ	平安		361・364
370	A I	土器集中 3	土	甕 B	21.0			1/8	欠	口縁ヨコ・カ、縦ハ、内縦長ナデ	平安		364
371	A I	土器集中 4	弥	壺	15.0			4/5	欠	外頸部縄 LR2 段、内横ハ、口唇 LR 縄	弥生		365・375

No.	地区面	地点	種別	器種器形	寸法 口径	寸法 底径	寸法 器高	残存 口縁	残存 底部	成形・調整・紋様	時期	備考	注記
372	A Ⅰ	土器集中4	弥	壺				欠	欠	外縄ハ、内斜ハ	弥生	胴部残1/3	368・372
373	A Ⅰ	土器集中4	弥	壺		8.8		欠	1/4	外縄LR・斜ミ、内横ハ・指	弥生		365～368・370～372・375
374	A Ⅰ	土器集中4	黒	皿B	13.8			1/7	欠	ロク、内ミ、回糸	平安		372
375	A Ⅰ	検出面	弥	広口壺				欠	欠	外赤・横～斜ミ、内横ハ後横ミ	弥生	胴部残1/5	390
376	A Ⅰ	検出面	弥	台付甕		7.6		欠	1/5	内外ミ具ナデ、端部ヨコ	弥生		416
377	A Ⅰ	検出面	弥	甕	16.8			1/5	欠	外櫛簾・波、内横ミ、口唇縄LR	弥生		399・550
378	A Ⅰ	検出面	土	高杯		14.2		欠	1/5	ヨコ、ミ摩滅	古墳		427
379	A Ⅰ	検出面	土	杯	13.1	—	4.9	1/32	1/2	外横～斜ミ・底ケ、内横・斜ミ	古墳		434
380	A Ⅰ	検出面	土	杯	15.9	3.0	5.8	1/12	1/6	外斜ミ・底ケ、内斜ミ	古墳		441
381	A Ⅰ	検出面	土	杯	15.5			1/10	欠	外横～斜ミ、内横～斜ミ	古墳		417
382	A Ⅰ	検出面	土	甕	14.5			1/5	欠	外縦ハ、内横ハ・指	古墳		394
383	A Ⅰ	検出面	土	甕	12.6			1/5	欠	外工具ナデ、内横のナデ・工具ナデ	古墳		434
384	A Ⅰ	検出面	土	甕		6.0		欠	1/2	外縦ハ・ミガキ状工具ナデ、内横工具ナデ	古墳		434
385	A Ⅰ	検出面	土	小型丸底	8.4			1/5	欠	内外横のナデ	古墳		418
386	A Ⅰ	検出面	土	鉢口縁	14.4			1/6	欠	外縦ミ、内工具ナデ	古墳		430
387	A Ⅰ	検出面	土	壺		5.8		欠	1/4	外ハ後ミガキ状の工具ナデ、内摩滅不明	古墳		418・424・434
388	A Ⅰ	検出面	須	杯A	12.8	5.8	3.4	3/4	7/8	ロク、回糸	平安		401・460
389	A Ⅰ	検出面	須	杯A	14.0	6.2	4.0	7/16	完	ロク、回糸	平安		378
390	A Ⅰ	検出面	須	杯B	15.8	9.0	6.3	3/8	1/3	ロク、回ケ、回糸後ナデ、ツ高	平安		401
391	A Ⅰ	検出面	土	杯A	9.2	4.2	2.2	1/8	5/6	ロク、回糸	平安		405
392	A Ⅰ	検出面	土	杯A	9.2	5.0	1.7	1/4	1/2	ロク、回糸、外部分的ハ	平安		405
393	A Ⅰ	検出面	土	杯A	9.5	5.0	1.6	3/8	2/3	ロク、回糸後ナデ	平安		405
394	A Ⅰ	検出面	土	杯A	9.1	4.8	2.0	1/4	1/2	ロク、回糸後ナデ	平安		405
395	A Ⅰ	検出面	土	杯A		7.0		欠	完	ロク、回糸	平安		405
396	A Ⅰ	検出面	黒	杯A	12.5	6.0	3.5	3/8	完	ロク、内ミ、回糸	平安		405
397	A Ⅰ	検出面	黒	杯A	15.5	6.9	4.2	1/20	5/8	ロク、内ミ、ケ	平安		400
398	A Ⅰ	検出面	黒	杯A	15.8			1/6	欠	ロク、内ミ	平安		406
399	A Ⅰ	検出面	黒	杯A	13.8	6.0	5.0	3/4	完	ロク、内ミ、回糸	平安	内面線刻	384
400	A Ⅰ	検出面	黒	方形杯	13.6	7.4	2.8	1/5	1/4	ロク、内ミ、回糸	平安	杯Aを方形化	406
401	A Ⅰ	検出面	黒	椀	15.9	5.7	6.2	1/2	完	ロク、内ミ、回糸、ツ高	平安		380・385・405
402	A Ⅰ	検出面	黒	椀	16.2			1/3	欠	ロク、内ミ	平安		399
403	A Ⅰ	検出面	黒	椀		6.1		欠	1/2	ロク、内ミ、回糸、ツ高	平安		439
404	A Ⅰ	検出面	灰	椀		7.4		欠	1/4	ロク、内ミ、回糸、ツ高	平安		406
405	A Ⅰ	検出面	土	皿A	20.0	7.0	5.5	1/10	5/6	ロク、回糸	平安	図上合成復元	405
406	A Ⅰ	検出面	土	盤A		19.0		欠	1/10	ロク、胴部透かし4単位	平安	体部内面スス	381
407	A Ⅰ	検出面	土	小型甕	11.0			1/4	欠	ロク、摩滅詳細不明	平安		407
408	A Ⅰ	検出面	土	小型甕		7.1		欠	7/9	ロク、カ、回糸	平安		401
409	A Ⅰ	検出面	土	小型甕		7.0		欠	完	ロク、カ、回糸	平安		383
410	A Ⅰ	検出面	土	小型甕		4.9		欠	完	ロク、カ、回糸	平安		403
411	A Ⅰ	検出面	土	甕B	23.1			1/9	欠	口縁ヨコ・カ、縦ハ、内指・斜ハ・ナデ	平安		399・400
412	A Ⅰ	検出面	土	甕B		8.8		欠	完	縦ハ、内カ・縦長ナデ、底面押平後ナデ	平安		400・401・404
413	A Ⅰ	検出面	土	甕B		6.2		欠	1/4	縦ハ、内縦長ナデ・指、底面押平	平安		405
414	A Ⅰ	検出面	土	甑		10.1		欠	2/9	縦ハ、内ナデ・端部ケ、底面押平	平安		405
415	A Ⅰ	検出面	土	甑		10.2		欠	1/8	縦ハ、内縦長ナデ、下端ケ	平安		405
416	A Ⅰ	検出面	土	甑		11.6		欠	1/4	縦ハ、内縦長ナデ、下端板ナデ、ハケメ	平安		405
417	A Ⅰ	検出面	土	甑	33.2			1/12	欠	口縁ヨコ、外縦ハ・ケ、鍔全周、内横のナデ	平安		405
418	A Ⅰ	検出面	須	短頸壺	9.8	7.3	13.1	1/2	3/4	ロク、回糸後ナデ	平安		379・392
419	A Ⅰ	検出面	青磁	碗	12.4			1/12	欠	ロク、鎬連弁文	中世		423
420	A Ⅱ	検出面	弥	高杯	35.3			1/12	欠	外ナデ・工具ナデ、内横ミ・赤	弥生	赤彩内面のみ	533
421	A Ⅱ	検出面	弥	鉢		6.4		欠	2/7	外縦ミ、内横ミ、内外赤	弥生		549
422	A Ⅱ	検出面	弥	甕	36.0			1/12	欠	外櫛波、内横ハ、口唇縄LR	弥生		533
423	A Ⅱ	検出面	弥	壺		6.3		欠	1/2	内外横の工具ナデ	弥生		534
424	A Ⅱ	検出面	土	高杯		14.1		欠	1/2	外縦長ミ、内工具ナデ	古墳		546
425	A Ⅰ	遺構	土	高杯		15.4		欠	1/5	外縦ミ、内横のナデ	古墳	脚内面線刻	451
426	B Ⅰ	検出面	弥	甕		7.5		欠	3/4	外縦ミ、内ナデ、底ナデ	弥生		643
427	B Ⅰ	検出面	弥	甕		13.0		欠	1/8	外縦ミ、内横ミ	弥生		641
428	B Ⅰ	検出面	土	高杯	16.9			1/10	欠	外縦ミ、内摩滅不明	古墳		638
429	B Ⅰ	検出面	土	高杯	17.1			1/5	欠	内外面ハ後縦ミ	古墳		638
430	B Ⅰ	検出面	土	高杯		15.4		欠	1/8	外縦ミ、内工具ナデ	古墳		628
431	B Ⅰ	検出面	土	小型器台	9.6			1/7	欠	外縦・斜ミ、内摩滅不明	古墳		639
432	B Ⅰ	検出面	土	小型丸底	8.3			1/8	欠	外横のナデ、内摩滅不明	古墳		641
433	B Ⅰ	検出面	土	小型丸底		—		欠	1/2	外縦ハ後斜ミ、内工具ナデ、底ケ	古墳		629・639
434	B Ⅰ	検出面	土	壺		5.6		欠	2/5	外斜ミ、内縦ミ	古墳		639
435	B Ⅰ	検出面	土	甕	13.5			1/12	欠	外ナデ・工具ナデ、内ナデ・指	古墳		645
436	C Ⅰ	検出面	弥	壺	16.0			1/8	欠	外全面縄LR、浮、内横ミ、口唇縄LR	弥生		912
437	C Ⅰ	検出面	弥	壺	15.8			1/15	欠	外縄LR・櫛波、内ミ摩滅、口唇縄LR	弥生		923
438	C Ⅰ	検出面	弥	甕				欠	欠	外縦ミ摩滅、内縦～斜ミ	弥生		905・906
439	C Ⅰ	検出面	弥	甕	21.2	7.8	33.5	1/2	完	外斜ハ上半櫛波・下半縦ミ、内縦ハ後横ミ、口唇縄LR	弥生		895・950
440	C Ⅰ	検出面	弥	甕	22.8			1/24	欠	外口縁櫛波・上半櫛縦斜・下半縦ミ、内斜ハ後横ミ、口唇縄LR	弥生		919・923

No.	地区面	地点	種別	器種器形	寸法 口径	寸法 底径	寸法 器高	残存 口縁	残存 底部	成形・調整・紋様	時期	備考	注記
441	C Ⅰ	横田面	土	鉢	19.4			1/3	欠	外縁横ハ、内面横連続指・胴部ミ	古墳		923・927
442	C Ⅰ	横田面	土	高杯		13.7		欠	3/10	外縁ミ、内斜ハ、工具ナデ	古墳		907
443	C Ⅰ	横田面	土	甕	22.0			1/8	欠	外斜ハ・ナデ、内工具ナデ	古墳	甑?	905
444	C Ⅰ	横田面	須	杯A	12.4	6.3	4.2	1/5	1/5	ロク、回転	平安		912
445	C Ⅰ	横田面	須	杯A		6.4		欠	1/3	ロク、回転	平安		923
446	C Ⅰ	横田面	須	杯B		8.5		欠	1/5	ロク、ツ高	平安		906
447	C Ⅰ	横田面	土	杯A	11.6	5.6	3.7	1/2	完	ロク、回転	平安	厚い	901・918
448	C Ⅰ	横田面	土	杯A	11.6			1/4	欠	ロク	平安		928
449	C Ⅰ	横田面	土	杯A		5.2		欠	完	ロク、回転	平安		906
450	C Ⅰ	横田面	土	杯?	15.0			1/15	欠	ヨコ、ナデ、ケ	平安?	非ロクロ	907
451	C Ⅰ	横田面	黒	杯A	13.6	5.9	4.5	完	完	ロク、内ミ、回転	平安		896
452	C Ⅰ	横田面	黒	杯A	13.2	6.3	4.3	9/10	完	ロク、内ミ、回転	平安		912
453	C Ⅰ	横田面	黒	杯A	12.4			1/4	欠	ロク、内ミ	平安		928
454	C Ⅰ	横田面	黒	杯A	13.2	6.2	3.9	1/6	完	ロク、内ミ、回転	平安		922
455	C Ⅰ	横田面	黒	杯A	13.3	5.8	4.1	1/6	1/4	ロク、内ミ、回転	平安		912
456	C Ⅰ	横田面	黒	杯A	14.8	6.8	4.6	1/8	1/7	ロク、内ミ、回転	平安		917
457	C Ⅰ	横田面	黒	椀		5.6		欠	1/4	ロク、内ミ、回転後ナデ、ツ高	平安		949
458	C Ⅰ	横田面	灰	椀		7.7		欠	完	ロク、回ケ後ナデ、ツ高、渦台内研磨	平安	転用硯	923
459	C Ⅰ	横田面	灰	椀		7.0		欠	1/3	ロク、回ケ後ナデ、ツ高、ハケ塗り?	平安		919
460	C Ⅰ	横田面	灰	椀		6.6		欠	1/2	ロク、底面切り離し後ナデ、ツ高	平安		928
461	C Ⅰ	横田面	黒	皿	12.8	7.4	3.4	2/5	完	ロク、内ミ、回転、ツ高	平安		912
462	C Ⅰ	横田面	灰	皿B		7.9		欠	3/4	ロク、ケ、ツ高、ハケ塗り	平安		919
463	C Ⅰ	横田面	黒	鉢		9.5		欠	1/2	ロク、内ミ、回転	平安		899・912・922
464	C Ⅰ	横田面	土	鉢?	14.6			1/12	欠	ロク	平安	近代?	907
465	C Ⅰ	横田面	黒	蓋	15.2	—		1/4	—	ロク、内放射状ミ、外回ケ・ミ	平安		912
466	C Ⅰ	横田面	土	小型甕C	11.0			1/4	欠	口縁ヨコ、外横ケ、内工具ナデ、ナデ	平安		919
467	C Ⅰ	横田面	土	小型甕	12.6			1/20	欠	ロク、カ	平安		923
468	C Ⅰ	横田面	土	小型甕		5.4		欠	1/6	ロク、カ、回転	平安		917
469	C Ⅰ	横田面	黒	小型甕	11.5			1/6	欠	ロク、口縁内ミ	平安		923
470	C Ⅰ	横田面	土	耳皿		6.1		1/16	1/3	ロク、回転	平安		923
471	C Ⅰ	横田面	灰	短頸壺		9.5		欠	1/3	ロク、ツ高、底面押平後ナデ	平安		906
472	C Ⅰ	横田面	須	壺		5.0		欠	3/8	ロク、回転、ツ高	平安		912
473	C Ⅰ	横田面	須	壺		6.6		欠	1/3	ロク、ツ高	平安		912
474	C Ⅰ	横田面	土	円筒				欠	欠	縦ハ、内縦のナデ、側面線刻	平安	断面形は隅丸方形	912
475	C Ⅰ	横田面	土	甕	22.0			1/5	欠	ロク、口縁部内わずかにカ	平安	甕B?	903
476	C Ⅰ	横田面	土	甕B		9.8		欠	完	外縁ハ・下端部上具ナデ、内縦長ナデ、底押平後ナデ	平安		900・918
477	C Ⅰ	横田面	土	甕B		8.4		欠	1/3	縦ハ、内縦長ナデ、底押平後ナデ	平安		928
478	C Ⅰ	横田面	土	甕B		9.4		欠	3/4	縦ハ、内縦長ナデ、底押平後ナデ	平安		916
479	C Ⅰ	横田面	土	甕B		9.5		欠	1/3	外縁ハ・下端部ナデ、内縦長ナデ、底押平後ナデ	平安		912
480	C Ⅰ	横田面	土	甑		21.8		欠	1/6	外縁ハ・部分的なナデ、内横のナデ	平安		948
481	C Ⅰ	tr1	黒B	皿	13.0			1/10	欠	ロク、内放射状ミ	平安		953
482	C Ⅰ	tr1	土	甕B	21.6			1/8	欠	口縁ヨコ・カ、縦ハ	平安		953
483	C Ⅰ	tr1	土	甕B	22.0			1/8	欠	口縁ヨコ・カ、縦ハ、内縦長ナデ	平安		953
484	C Ⅰ	tr1	土	甕B				欠	欠	口縁ヨコ・カ、縦ハ、内斜・縦長ナデ	平安		953
485	C Ⅰ	tr2	黒	杯A		6.5		欠	5/8	ロク、内ミ、回転	平安		954
486	C Ⅰ	tr2	黒	椀	18.2			1/4	欠	ロク、内ミ	平安		954
487	C Ⅰ	tr2	黒	椀		8.0		欠	1/4	ロク、内ミ、ツ高	平安		954
488	C Ⅰ	tr2	土	甕B		10.0		欠	1/8	縦ハ、内縦長ナデ、底押平	平安		954
489	C Ⅰ	tr2	土	甕B		10.9		欠	1/6	縦ハ、内縦長ナデ、底押平	平安		954
490	C Ⅰ	tr3	黒	杯A	12.8	4.9	4.3	3/4	完	ロク、内ミ、回転	平安	黒抜け	955
491	C Ⅰ	tr5	須	杯A		6.2		欠	3/8	ロク、回転	平安		957
492	C Ⅰ	tr5	土	甕B	25.0			1/10	欠	口縁ヨコ・カ、縦ハ、内縦長ナデ	平安		957
493	C Ⅰ	tr5	土	隋形				欠	不能	外縁ハ、内横・縦ナデ	平安	底面孔は方形基調	957
494	C Ⅰ	壁	黒	杯A	13.0	6.4	3.2	1/6	1/4	ロク、内ミ、回転	平安		937
495	C Ⅰ	壁	黒	杯A	16.4	7.5	6.0	1/4	5/8	ロク、内ミ、回転後ハケメ状の工具ナデ	平安		936
496	C Ⅱ	横田面	縄	深鉢		4.0		欠	完	内外上半横ミ・下平縦ミ、底側代圧痕	縄文	晩期胎土	987
497	C Ⅱ	横田面	土	台付甕		6.7		欠	完	外縁の工具ナデ、胴内横ハ後工具ナデ、胴内横ハ、	古墳		996
498	C Ⅱ	横田面	灰	皿B	14.4	7.5	3.0	1/2	1/2	ロク、回ケ、ツ高、ハケ塗り	平安		995
499	C	立合	土	高杯		14.3		欠	1/8	外縁ミ、内ナデ・指壓痕	古墳		1008
500	D	先行tr	黒	杯	14.6			1/4	欠	内外縦ミ、内黒色処理	古墳		1002
501	D	先行tr	黒	杯	14.0			1/7	欠	外ナデ、底面ケ、内斜工具ナデ、内黒色処理	古墳		1002

※1：010～012・015・024・025・032・033・035・036・039・045～047・395
※2：073・074・097・098・103・107・121・124・283
※3：097・105・106・133・124・072・119・391・121・132・237・297
※4：046・159・161・174・179・193・321・394・395
※5：209・211・215・218・222・224～229・232・407

略称一覧 外：外面、内：内面、ロク：ロクロナデ、回転：回転糸切り、回ケ：回転ヘラケズリ、ケ：手持ち・静止ヘラケズリ、ハ：ハケメ、カ：カキメ、ヨコ：ヨコナデ、ミ：ミガキ、指：指オサエ・指頭圧痕、押平：押圧平坦化、縄：縄紋、櫛：櫛紋、篦：篦描、波：波状紋、羽：羽状紋、鱗：鱗状紋、山：山形沈線、斜：斜面紋、浮：円形浮文、赤：赤彩

表 9　拓本土器一覧

No.	地区	地点	器種	部位	成形・調整・紋様など	注記
502	A Ⅰ	311 住	壺	頸部下	沈線縁、鋸 LR 横	0135
503	A Ⅰ	312 住	甕	頸部	櫛波・斜線	0148
504	A Ⅰ	312 住	甕	胴部中	櫛波・縦引	0148
505	A Ⅰ	312 住	甕	胴部中	櫛波	0147
506	A Ⅰ	313 住	壺	胴部上	鋸 LR 横、沈刺文・波・山	0185
507	A Ⅰ	313 住	壺	頸部下	沈鋸縁・山・刺文	0189
508	A Ⅰ	313 住	壺	胴部上	沈刺文・横線、鋸 LR 横	0185
509	A Ⅰ	313 住	壺	胴部上	沈鋸縁・重山、鋸 LR 横	0189
510	A Ⅰ	313 住	壺	頸部下	櫛横線、沈山形	0194
511	A Ⅰ	313 住	壺	胴部上	沈鋸縁・弧線、鋸 LR 横	0182
512	A Ⅰ	313 住	甕	口縁部屈折	平縁竹管の波、櫛横、LR 押鋸 LR	0187
513	A Ⅰ	313 住	甕	頸部/胴部	櫛横・波	0194
514	A Ⅰ	313 住	甕	胴部中	沈鋸刺	0185
515	C Ⅰ	318 住	甕	胴部下	櫛波	0738
516	C Ⅰ	319 住	壺	胴部上	沈鋸縁・波・刺文、鋸 LR 横	0747
517	C Ⅰ	320 住	壺	頸部	沈鋸縁、鋸 LR 横	0755
518	C Ⅰ	320 住	壺	頸部	沈刺み・横線、鋸 LR 横	0758
519	C Ⅰ	320 住	壺	胴部	沈鋸縁、鋸 LR 横	0758
520	C Ⅰ	320 住	甕	胴部	櫛垂下・波	0755
521	C Ⅰ	320 住	甕	胴部下	櫛波	0755
522	C Ⅰ	320 住	甕	胴部	櫛縦刺	0755
523	C Ⅰ	320 住	甕	胴部	櫛縦刺	0758
524	C Ⅰ	320 住	甕	胴部下	沈縦線（コの字重ね紋	0756
525	C Ⅰ	321 住	壺	頸部下	沈山・横線	0766
526	C Ⅰ	321 住	壺	胴部上	沈列点刺み	0767
527	C Ⅰ	321 住	甕	口縁	櫛波、口押鋸 LR	0765
528	C Ⅰ	321 住	甕	胴部下	櫛縦刺	0767
529	A Ⅱ	322 住	壺	頸部下	沈鋸縁、鋸 LR 横	0487
530	A Ⅱ	322 住	壺	胴部上	沈鋸縁、鋸 LR 横	0493
531	A Ⅱ	322 住	甕	胴部	沈鋸縁・重山、鋸 LR 横	0498
532	A Ⅱ	322 住	壺	胴部	沈鋸縁・山、鋸 LR 斜	0533
533	A Ⅱ	322 住	壺	胴部	沈連山、鋸 LR 横	0503
534	A Ⅱ	322 住	甕	口縁	鋸、口押鋸	0541
535	A Ⅱ	322 住	甕	口縁	沈山、鋸 LR 横、口押鋸 LR	0504
536	A Ⅱ	322 住	甕	口縁	櫛波、鋸 LR 横、口押鋸 LR	0504
537	A Ⅱ	322 住	甕	頸部	櫛傷・波	0493
538	A Ⅱ	322 住	甕	頸部	櫛傷・波	0499
539	A Ⅱ	322 住	甕	頸部	櫛傷	0498
540	A Ⅱ	322 住	甕	頸部	櫛傷・波	0542
541	A Ⅱ	322 住	甕	胴部下	櫛波	0495
542	A Ⅱ	322 住	甕	胴部下	櫛縦刺	0495
543	A Ⅱ	322 住	甕	胴部下	櫛縦刺	0499
544	A Ⅱ	322 住	甕	胴部下	櫛縦刺	0542
545	A Ⅱ	322 住	甕	胴部下	櫛縦刺	0487
546	C Ⅰ	土 56	甕	口縁部/胴部	櫛波・斜線、口押鋸 LR	0823
547	C Ⅰ	土 62	壺	頸部	沈鋸縁、櫛 (Z 本両）刺突	0836
548	A Ⅰ	溝 2	壺	胴部上	沈鋸縁・山	0336
549	A Ⅰ	溝 2	甕	口縁/胴部	櫛波	0336
550	A Ⅰ	溝 2	甕	胴部上	櫛傷・波	0335
551	A Ⅰ	溝 2	甕	頸部/胴部	櫛波	0336
552	A Ⅰ	溝 2	甕	胴部上	櫛波	0335
553	A Ⅰ	溝 2	鉢？	胴部上	櫛波	0335
554	A Ⅰ	溝 2	甕	胴部下	櫛波・刺み、浮	0336
555	A Ⅰ	溝 2	甕	胴部下	櫛波	0336
556	A Ⅰ	溝 2	甕	胴部中	沈刺、浮	0336
557	A Ⅰ	溝 4	甕	口縁部/胴部	沈山（波）、櫛傷	0344
558	A Ⅰ	溝 5	壺	胴部上	沈鋸縁・重山・刺突	0350
559	B Ⅰ	溝 3	壺	頸部	鋸 LR 横、沈鋸縁	0620
560	B Ⅰ	溝 3	壺	胴部	沈山・横線、鋸 LR 横	0618
561	B Ⅰ	溝 3	壺	頸部	櫛波・斜線	0618
562	B Ⅰ	溝 3	甕	胴部下	櫛波・垂下	0618
563	B Ⅰ	溝 3	甕	胴部	櫛縦刺	0620
564	B Ⅰ	溝 3	甕	胴部	櫛横刺、沈列点刺み	0618
565	B Ⅰ	溝 3	甕	胴部	櫛縦刺	0620
566	B Ⅰ	溝 3	甕	胴部	沈縦線（コの字重ね紋）	0621
567	C Ⅰ	溝 5	壺	頸部	沈鋸縁・刺突・山、鋸 LR 横	0889
568	C Ⅰ	溝 5	壺	胴部	沈鋸縁、竹管円形刺突、外赤	0889
569	C Ⅰ	溝 5	壺	胴部上	懸垂紋（蕨刺跡）櫛波・蕨山垂下	0888
570	C Ⅰ	溝 5	壺	胴部上	鋸 LR 横、蕨山・横線・懸垂・刺突	0888
571	C Ⅰ	溝 5	壺	胴部上	懸垂紋（蕨刺突刺跡・櫛波垂下	0888
572	C Ⅰ	溝 5	壺	胴部中	鋸 LR 横、沈鋸	0889
573	C Ⅰ	溝 5	壺	胴部	沈連山、鋸 LR 横	0889
574	C Ⅰ	溝 5	甕	口縁部/胴部	櫛波、口押鋸 LR	0888
575	C Ⅰ	溝 5	甕	口縁部/胴部	鋸 LR 横、櫛波、口押鋸 LR	0888
576	C Ⅰ	溝 5	甕	口縁部/胴部	櫛傷・波	0889
577	C Ⅰ	溝 5	甕	胴部上	櫛波	0888
578	C Ⅰ	溝 5	甕	頸部/胴部	櫛傷・縦引	0888
579	C Ⅰ	溝 5	甕	胴部	櫛横刺・刺突	0888
580	C Ⅰ	溝 5	甕	胴部下	櫛縦刺	0888
581	C Ⅰ	溝 5	甕	胴部下	櫛縦刺	0888
582	C Ⅰ	溝 5	甕	胴部	沈縦線（コの字重ね紋）、鋸 LR 横	0885
583	A Ⅰ	土器集中 4	甕	胴部中	櫛縦刺	0333・75
584	A Ⅰ	検出面	壺	口縁	鋸 RL 横、沈連山、口押鋸 RL、内外赤	0405
585	A Ⅰ	検出面	壺	頸部上	突帯、鋸 LR 横	0427
586	A Ⅰ	検出面	壺	頸部下	沈鋸縁・波	0406
587	A Ⅰ	検出面	壺	頸部下	沈刺文・横線	0416
588	A Ⅰ	検出面	壺	胴部上	沈鋸縁・刺突	0412
589	A Ⅰ	検出面	壺	頸部下	鋸 LR 横、沈山	0435
590	A Ⅰ	検出面	壺	胴部上	沈波・横線	0451
591	A Ⅰ	検出面	壺	胴部中	沈鋸縁	0446
592	A Ⅰ	検出面	壺	胴部上	沈鋸	0459
593	A Ⅰ	検出面	甕	口縁部/胴部	櫛波・鑢、口押鋸 LR	0411
594	A Ⅰ	検出面	甕	口縁部/胴部	櫛波・鑢、口押鋸 LR	0415
595	A Ⅰ	検出面	甕	口縁部/胴部	櫛鑢、口押鋸 LR	0459
596	A Ⅰ	検出面	甕	口縁	鋸 LR 横	0459
597	A Ⅰ	検出面	甕	胴部上	櫛垂下 (Z 本両）・波	0411
598	A Ⅰ	検出面	甕	胴部中	櫛縦刺	0418
599	A Ⅰ	検出面	甕	胴部上	櫛横刺	0399
600	A Ⅰ	検出面	甕	胴部下	沈縦刺？	0412
601	A Ⅰ	検出面	甕	胴部下	沈縦刺？	0415
602	A Ⅰ	検出面	甕	胴部下	沈縦刺？	0415
603	B Ⅰ	検出面	鉢？	口縁	鋸 LR 横、櫛波、口押鋸 LR	0645
604	B Ⅰ	検出面	壺	頸部	鋸 LR 斜、沈鋸縁、櫛波 (Z 本両）	0634
605	B Ⅰ	検出面	壺	頸部	櫛波・波・刺、外赤	0638
606	B Ⅰ	検出面	壺	頸部	鋸 LR 横、沈山	0640
607	B Ⅰ	検出面	壺	頸部下	鋸 LR 横、竹管連続刺突、沈鋸縁	0637
608	B Ⅰ	検出面	壺	胴部	鋸 LR 横、沈刺、浮	0638
609	B Ⅰ	検出面	壺	口縁	鋸 LR 横、沈山、口押鋸 LR	0638
610	B Ⅰ	検出面	壺	口縁	鋸 LR 横、沈山、口押鋸 LR	0639
611	B Ⅰ	検出面	壺	口縁	口押鋸 LR	0638
612	B Ⅰ	検出面	壺	口縁	鋸 LR 横、櫛傷、口押鋸 LR	0639
613	B Ⅰ	検出面	壺	頸部/胴部	櫛傷・波・羽 (縦横不明）	0641
614	B Ⅰ	検出面	壺	胴部上	櫛波	0636
615	B Ⅰ	検出面	壺	胴部上	櫛波	0640
616	B Ⅰ	検出面	壺	胴部上	櫛傷・縦引	0639
617	B Ⅰ	検出面	壺	胴部下	櫛縦刺	0638
618	B Ⅰ	検出面	壺	胴部下	櫛縦刺	0643
619	B Ⅰ	検出面	甕？	胴部上	櫛傷・斜短線・波、内僅赤	0641
620	B Ⅰ	検出面	壺	胴部下	櫛？斜線	0634
621	C Ⅰ	検出面	壺	口縁	口押鋸 RL	0923
622	C Ⅰ	検出面	壺	頸部	鋸 LR 横、沈鋸縁・山	0923
623	C Ⅰ	検出面	壺	胴部	櫛波	0917
624	C Ⅰ	検出面	壺	頸部/胴部	櫛傷・横引	0948
625	C Ⅰ	検出面	壺	胴部	沈縦線（コの字重ね紋）・	0927
626	C Ⅰ	検出面	壺	胴部	沈縦線（コの字重ね紋）、浮	0919
627	C Ⅰ	検出面	壺	頸部/胴部	櫛傷、沈縦線（コの字重ね紋）	0923
628	C Ⅰ	検出面	壺	頸部	沈鋸縁、突帯、鋸 LR 横	0943
629	C Ⅰ	検出面	壺	頸部下	沈鋸縁・山、鋸 LR 横	0941
630	C Ⅰ	検出面	壺	胴部上	鋸 LR 横、沈鋸縁・押引、浮	0944
631	C Ⅰ	検出面	壺	胴部中位	鋸 LR 横、沈連山（弧状）	0944
632	C Ⅰ	検出面	壺	頸部下	櫛縦縦・波	0944
633	C Ⅰ	検出面	壺	胴部上	櫛波・縦引	0943
634	C Ⅰ	検出面	壺	胴部下	櫛縦刺	0943
635	C Ⅰ	ヶ	甕	頸部/胴部	櫛波・縦引	0959
636	C Ⅰ	撹乱	壺	胴部中	鋸 LR 横、沈鋸縁・押引・山	0961

略称一覧　外：外面、内：内面、ロク：ロクロナデ、回糸：回転糸切り、回ケ：回転ヘラケズリ、ケ：手持ち・静止ヘラケズリ、ハ：ハケメ、カ：カキメ、ヨコ：ヨコナデ、ミ：ミガキ、指：指オサエ・指頭圧痕、押平：押圧平田化
縄：縄紋、櫛：櫛描、蕨：蕨描、波：波状紋、羽：羽状紋、鑢：鑢状紋、山：山形沈線、鋸：鋸痕紋、浮：円形浮文、赤：赤彩

表 10　緑釉陶器一覧

No	地区	地点	器種	部位残存	重量 g	胎土	色調釉調	注記	備考
1	A Ⅰ	311 住	椀	体部破片	7.8	灰色硬質	草色	0080	内外面ミガキ
2	A Ⅰ	311 住南東部	椀・皿	底部破片	6.6	灰白色やや軟質	黄白色	0114	底面に糸切痕？平高台？
3	A Ⅰ	311 住南西	輪花椀	口縁破片	2.0	灰白色やや硬質	渋緑	0119	被熱変色・発泡
4	A Ⅰ	土 7 №.1	椀	体部破片	1.1	暗灰色硬質	濃緑	0258	
5	A Ⅰ	土 7 西側	不明	小破片	0.9	灰白色やや軟質	黄白色	0259	片面剥離、釉剥落
6	A Ⅰ	土 18 東側	椀・皿	体部破片	1.1	灰白色やや軟質	草色	0283	外面の釉かなり剥落
7	A Ⅰ	検出面中央部南側	耳皿	耳部破片	3.4	灰白色やや軟質	草色貫入	0404	内面の釉剥落
8	A Ⅰ	検出面中央部南側	椀・皿	口縁破片	1.3	灰白色やや硬質	不明	0405	内外面の釉すべて剥落
9	A Ⅰ	検出面中央部南側	椀・皿	口縁破片	1.1	灰白色やや軟質	黄白色	0414	内面に陰刻？
10	A Ⅰ	サブトレ西部北側	椀・皿	底部破片	2.7	灰白色やや軟質	黄白色	0433	外面の釉かなり剥落
11	A Ⅰ	トレンチ 2 北側	不明	小破片	0.8	灰色やや硬質	透明	0470	内面すべて剥離
12	B Ⅰ	溝 2 中央部トレンチ 1 以南	椀・皿	底部破片	2.1	白色軟質	薄黄色貫入	0613	内面すべて剥離、高台
13	C Ⅰ	319 住№.2	椀・皿	底部破片	9.4	灰色硬質	濃緑	0745	
14	C Ⅰ	溝 2 №.1	椀・皿	高台破片	2.8	暗灰色硬質	濃緑	0843	
15	C Ⅰ	検出面№.6	椀	口縁破片	3.9	灰白色やや硬質	淡緑橙	0897	
16	C Ⅰ	検出面北東部重機掘削	椀	体部破片	3.0	暗灰色硬質	濃緑	0947	
17	C Ⅰ	トレンチ 6	椀	体部破片	1.3	暗灰色硬質	濃緑、白色微斑	0958	

表 11　土製品一覧

No	地区	地点	器種	大きさ、状態、成形・調整など	時期	注記
土 1	A Ⅰ	312 住	土錘	焼成土師器質、残存長 4.6cm・最大径 3.5cm、45.3 g	古墳～古代	0148
土 2	C Ⅰ	検出面	土製円盤	最大径 4.8cm、1/4 欠損、16.3 g、篦描斜線、弥生土器甕破片利用と推定	弥生	0928
土 3	A Ⅰ	撹乱	円面硯	推定最大径 14.0cm、海と周堤の一部のみ、12.4 g	古代	0444
土 4	C Ⅰ	溝 2	平瓦	幅 10.0cm、長さ 7.5cm、厚さ 1.6cm、126.3 g、表面布目 1cmあたり 6 × 6、裏面縄タタキ	古代	0848
土 5	C Ⅰ	北壁	平瓦?	幅 8.9cm、長さ 7.7cm、厚さ 1.8cm、141.7 g、表面丁寧なナデ、裏面丁寧な工具ナデ、側面ケズリ	古代?	0935

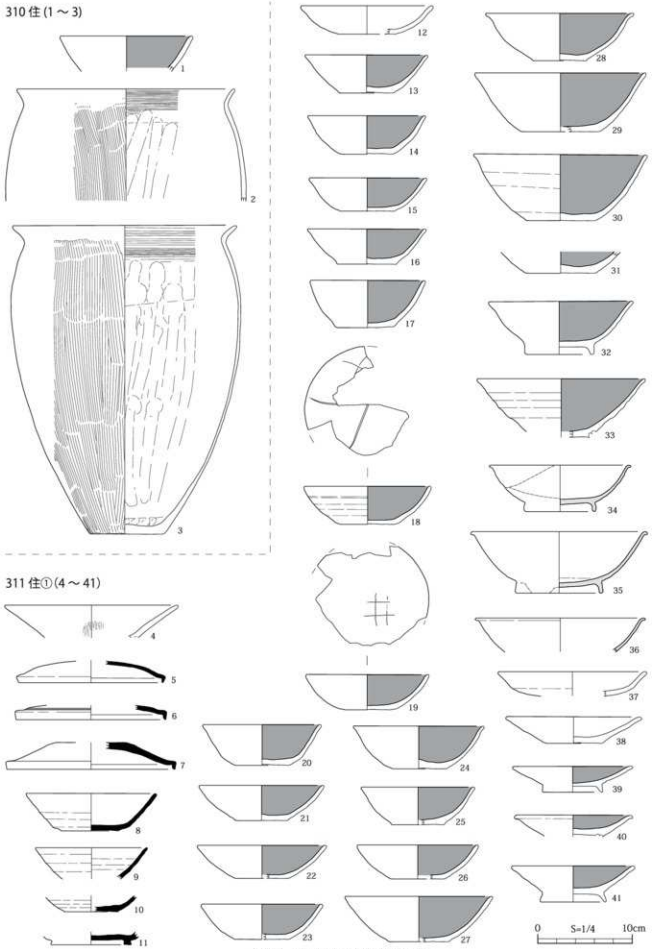


図 21 出土土器陶磁器実測図 1

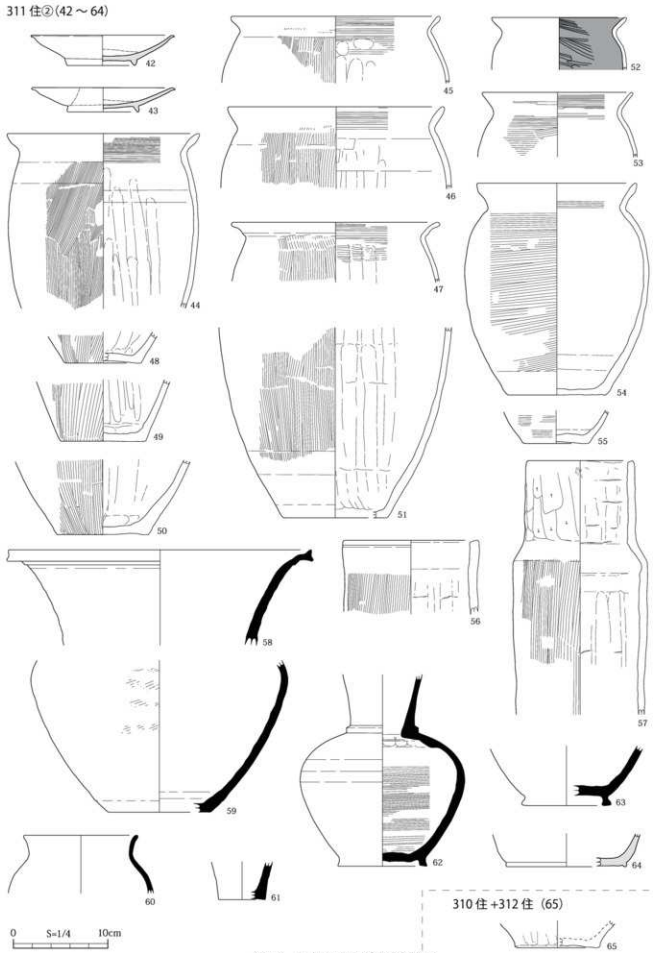


図 22 出土土器陶磁器実測図 2

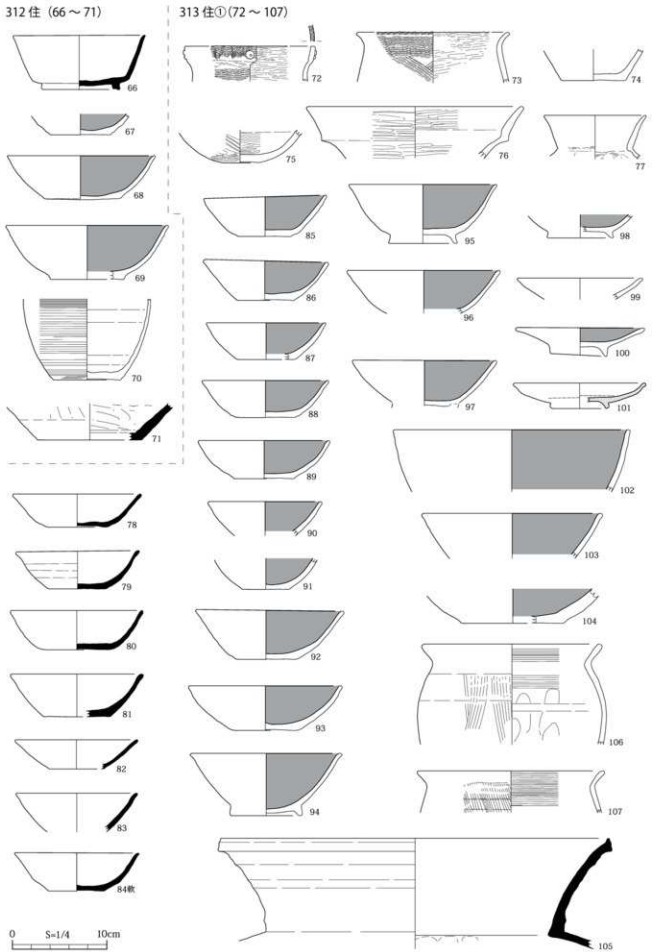
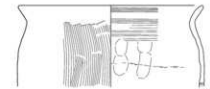
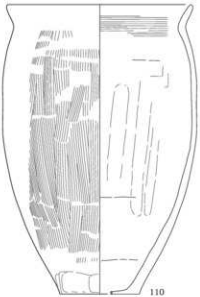
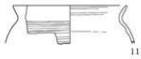


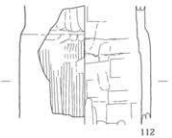
図 23　出土土器陶磁器実測図 3

313 住②(108 ～ 112)



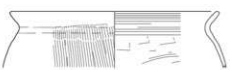


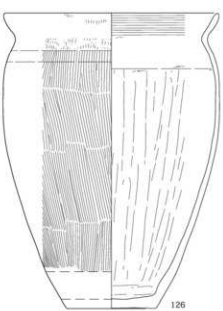




0 S=1/4 10cm

314 住 (113~130)





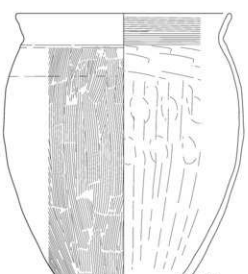


図 24　出土土器陶磁器実測図 4

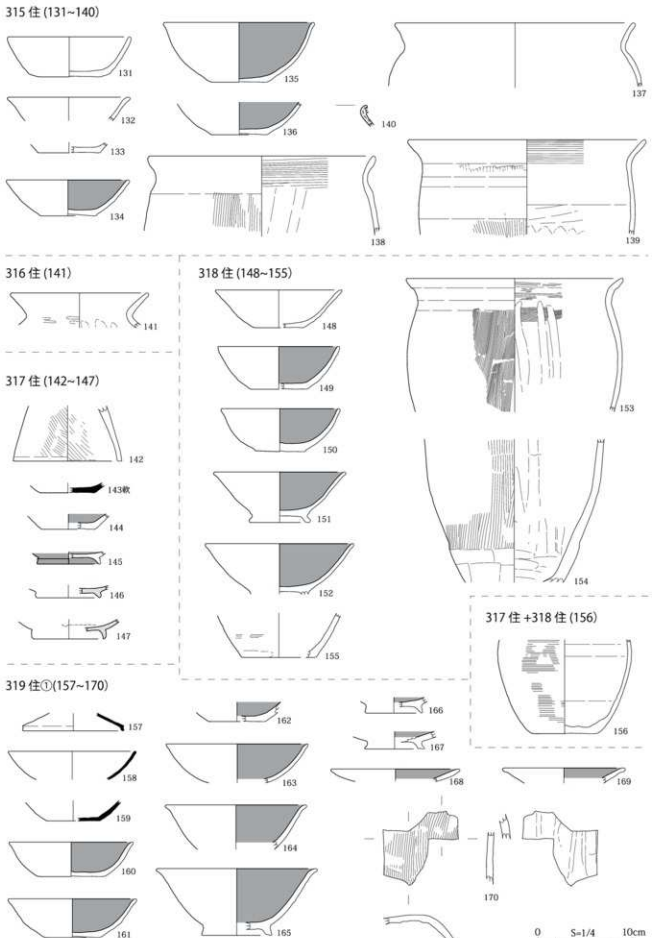


図 25 出土土器陶磁器実測図 5

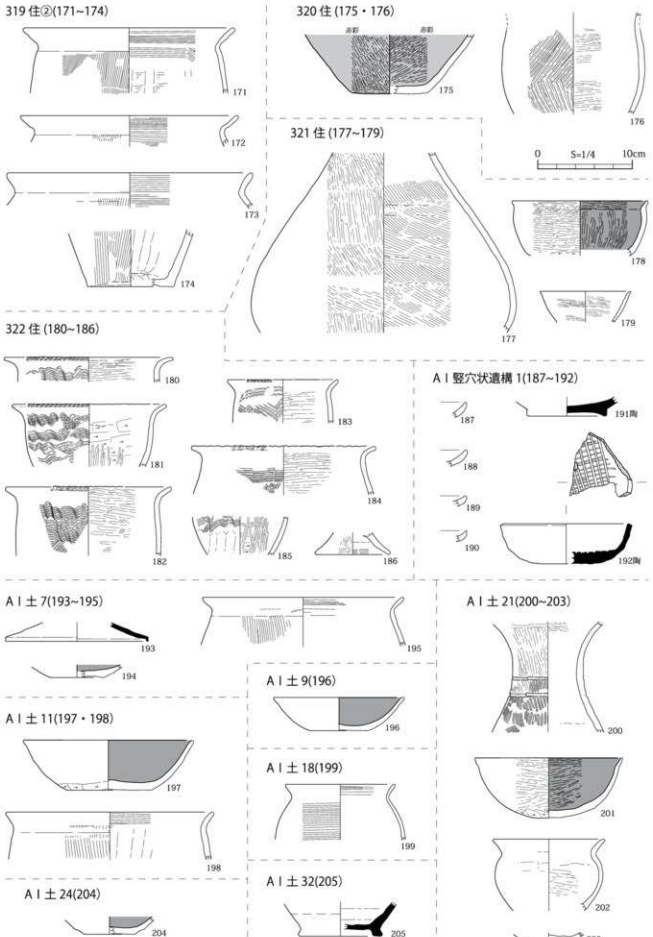


図 26 出土土器陶磁器実測図 6

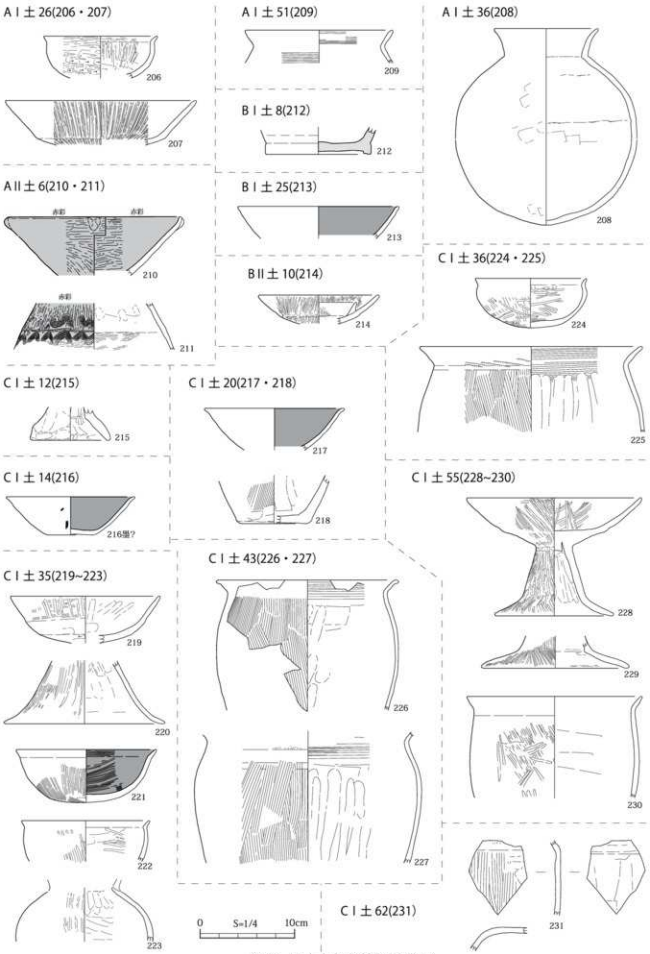


図 27　出土土器陶磁器実測図 7

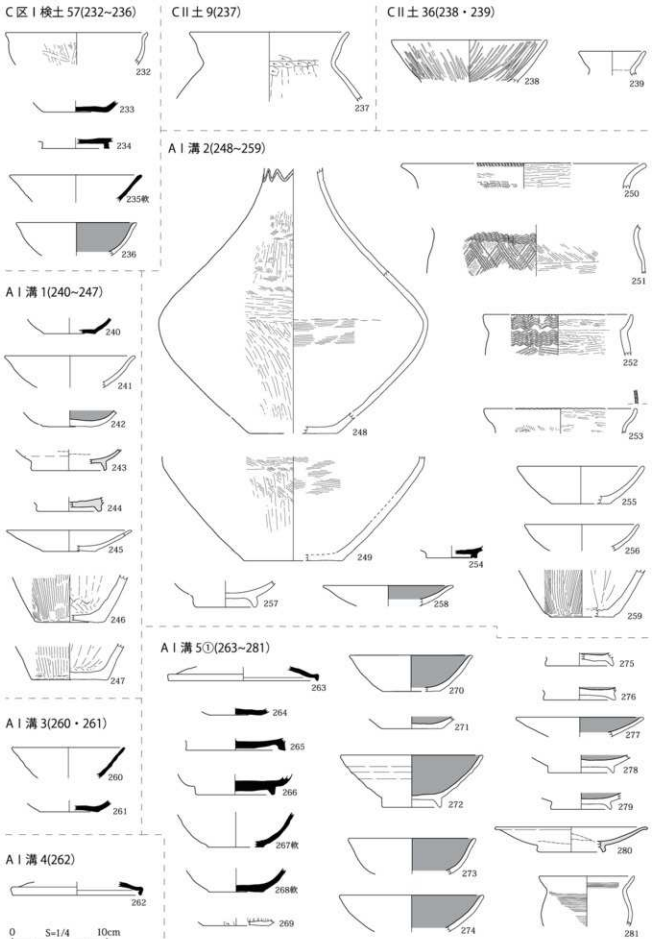


図 28 出土土器陶磁器実測図 8

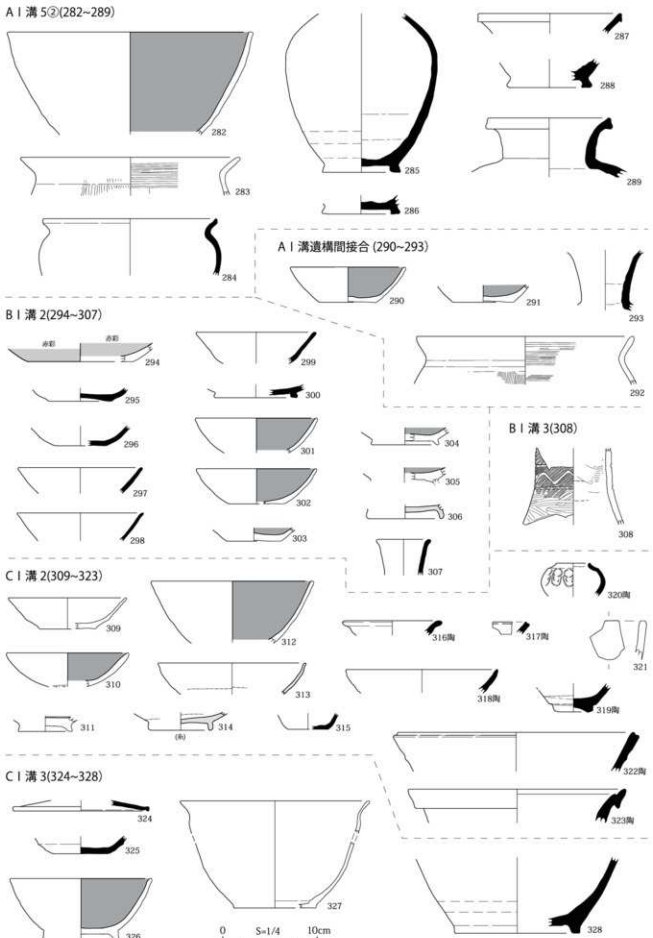


図 29　出土土器陶磁器実測図 9

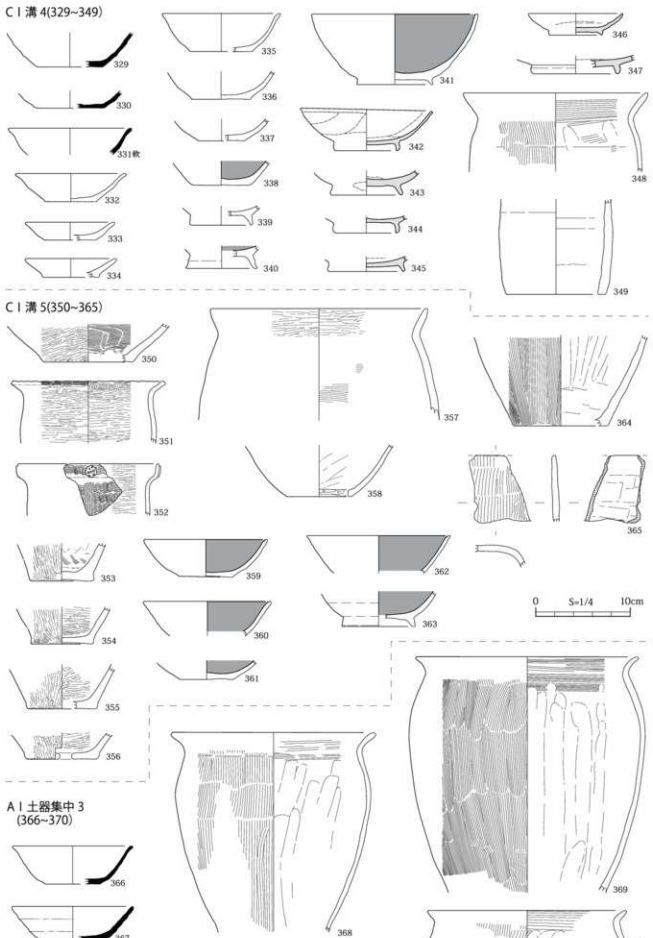


図 30 出土土器陶磁器実測図 10

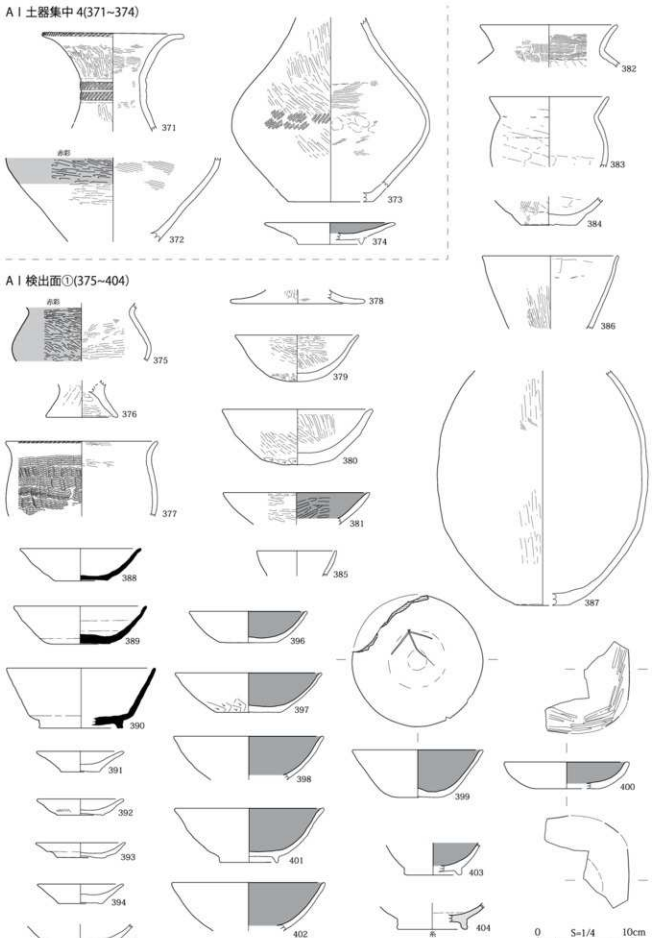


図 31 出土土器陶磁器実測図 11

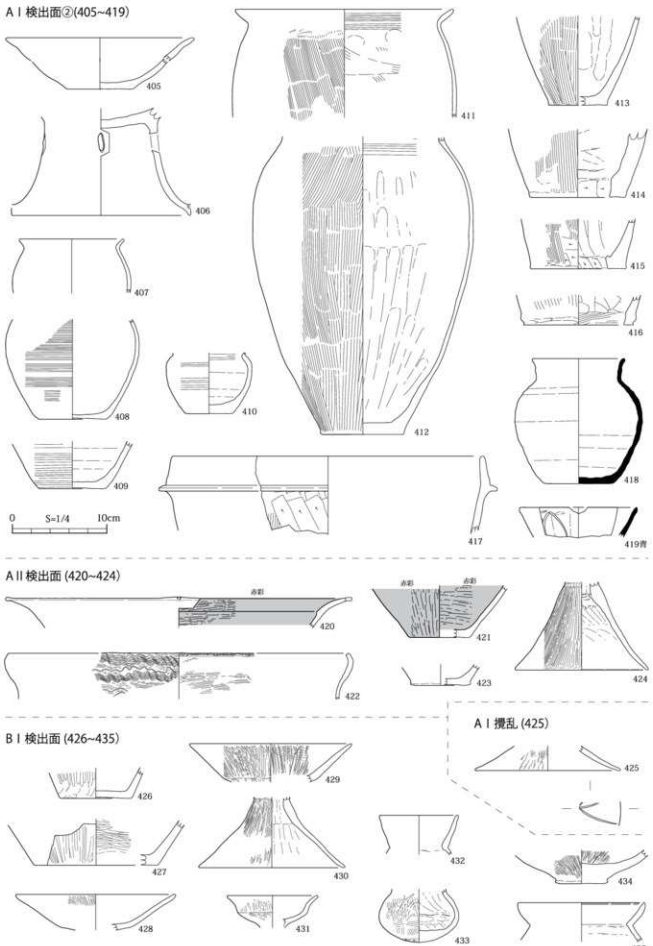


図 32 出土土器陶磁器実測図 12

C Ⅰ検出面①(436~474)

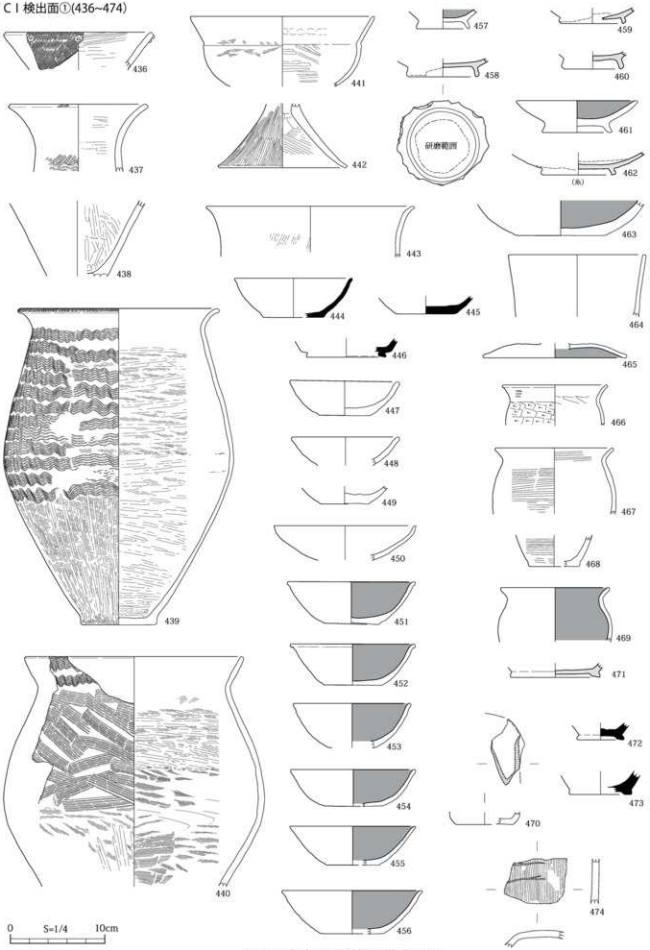


図 33 出土土器陶磁器実測図 13

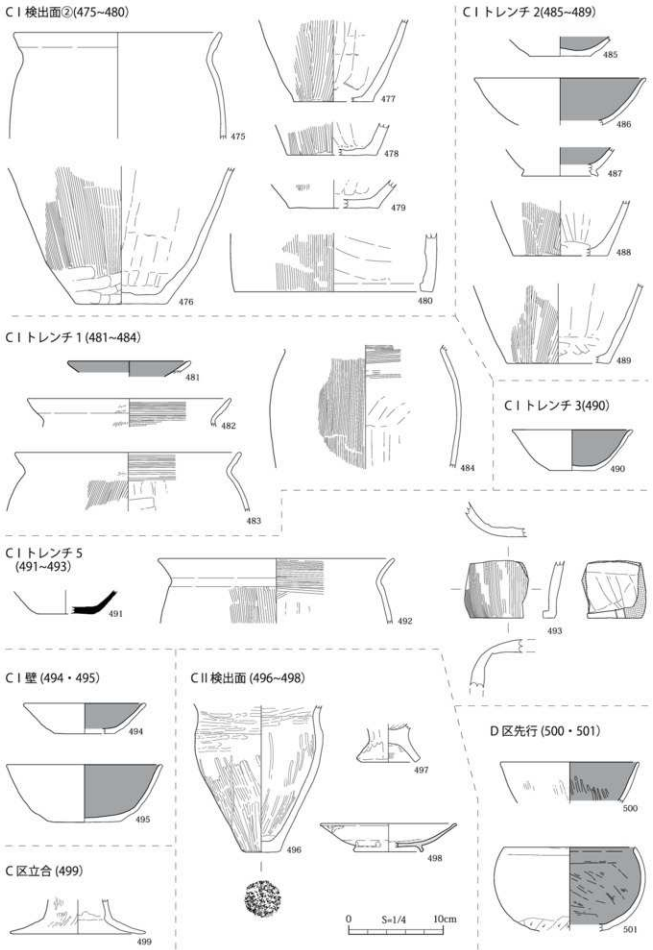


図 34 出土土器陶磁器実測図 14

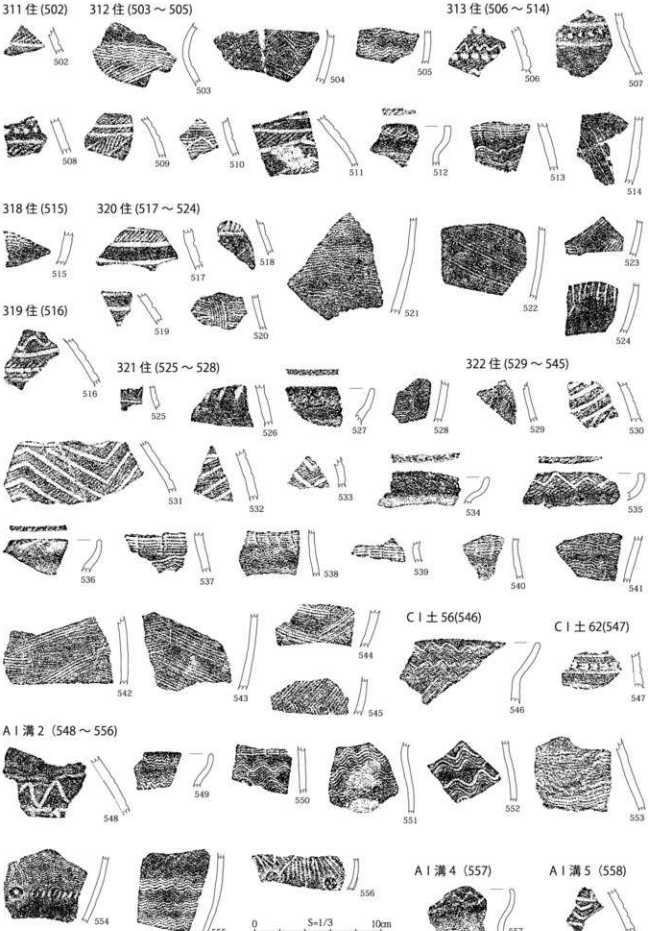

311 住 (502)
312 住 (503 ～ 505)
313 住 (506 ～ 514)
318 住 (515)
320 住 (517 ～ 524)
319 住 (516)
321 住 (525 ～ 528)
322 住 (529 ～ 545)
C Ⅰ土 56(546)
C Ⅰ土 62(547)
A Ⅰ溝 2（548 ～ 556）
A Ⅰ溝 4（557）
A Ⅰ溝 5（558）
S=1/3
10cm

図 35 弥生土器拓影 1

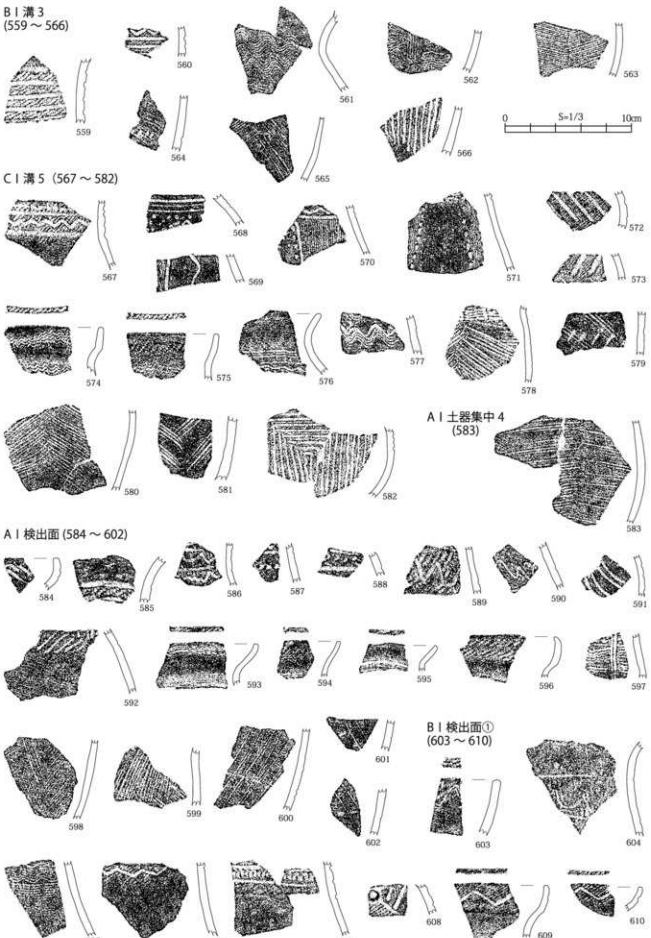

B Ⅰ溝 3
(559～566)
559
560
561
562
563
564
565
566
0
S=1/3
10cm
C Ⅰ溝 5（567～582）
567
568
569
570
571
572
573
574
575
576
577
578
579
580
581
582
A Ⅰ土器集中 4
(583)
583
A Ⅰ検出面 (584～602)
584
585
586
587
588
589
590
591
592
593
594
595
596
597
598
599
600
601
602
B Ⅰ検出面①
(603～610)
603
604
605
606
607
608
609
610

図 36 弥生土器拓影 2

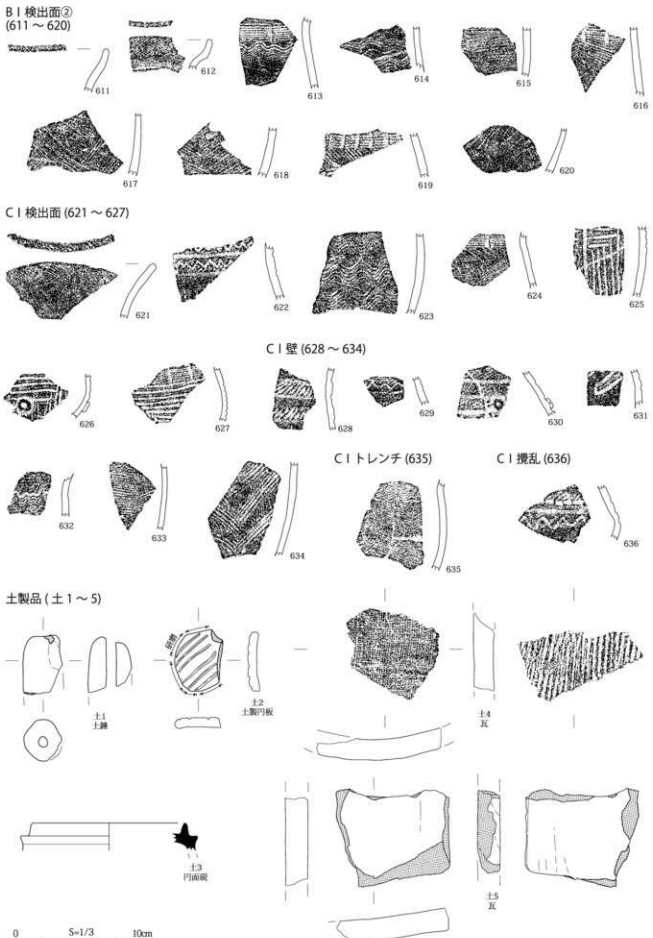


図 37　弥生土器拓影 3・土製品実測図・瓦実測図拓影

3　石器・石製品（表 12、図 38、写真図版 14）

今回の調査で、合計 126 点の石器・石製品が出土した。器種の内訳は、打製石鏃 7 点、磨製石鏃未成品 3 点、小形刃器類 8 点、楔形石器 9 点、二次加工ある剥片 2 点、微細剥離ある剥片 11 点、石核 7 点、勾玉 1 点、管玉 1 点、紡錘車 1 点、石製丸鞆 1 点、砥石 9 点、磨石 1 点、凹石 3 点、硯 2 点、碁石 1 点、剥片 48 点、砕片 9 点、原石 2 点がある。このうち、遺存状態の良い弥生時代～平安時代に帰属すると考えられる定型石器・石製品を中心に 15 点を図示し、その概要を述べる。それ以外のものは一覧表を参照されたい。石器・石製品の帰属する時期は共伴する土器に準じるものと考えられる。

⑴　**打製石鏃（1 ～ 5）**　5 点図示した。いずれも黒曜石製で、5 以外は有茎凹基鏃である。弥生中期に帰属すると考えられるが、弥生遺構からの出土は 3 のみで、他は平安遺構への混入品などである。側縁形状に統一性はなく、内湾するもの（1）、直線的なもの（2）、外湾するもの（3）、上下で角度が異なり飛行機鏃の形状を呈するもの（4）、左右非対称で半月状を呈するもの（5）にそれぞれ分類できる。5 は、剥片に簡易な刃部調整を加えただけの、いわゆる剥片鏃である。

⑵　**磨製石鏃未成品（6 ～ 8）**　出土した 3 点すべてを図化した。いずれもその形状や加工痕跡から未成品と考えられる。6 は、整形加工のための調整剥離痕が刃部に残り、右側面には粗割工程擦切施溝による分割がおこなわれたと考えられる直線的な平坦面も認められるため、表裏面に研磨を施した段階で廃棄されたものと考えられる。7･8 は、調整剥離痕はほぼ見られず、全面研磨された状態である。研磨はある程度進み、無茎凹基鏃の平面形を呈していることがわかる。刃部・基部の作出や穿孔が未完了であり、完成一歩手前で廃棄されている。

本遺跡では、これまでにも未成品の出土が目立ち、特に第 4 ～ 8 次調査では 32 点の未成品と 14 点の完成品が出土している。複数点まとまって出土した住居址が数軒確認されているため、集落の中で製作集団がいた可能性がうかがえる。

⑶　**勾玉・管玉（9・10）**　9 は、蛇紋岩製と考えられる勾玉である。孔はその断面形状から片側穿孔と考えられる。10 は緑色凝灰岩製と考えられ、長さ 11.1mm、最大幅 2.9mm、最小幅 2.6mm を測る細形の管玉である。上面には研磨痕はみられず、内側からの連続した剥離により凸凹している。

⑷　**紡錘車（11）**　凝灰岩製で、断面形が長方形に近い形状を呈する。中心の孔は片側から穿孔されている。

⑸　**丸鞆（12）**　黒曜石の帯飾りは県内で初めての出土になる。全国的にも極めて珍しく、全国の帯飾りを集成した文献 55 に掲載されているもののうち 7 例を数えるのみで、官衙関連の遺跡から出土している事例が多くみられる。第Ⅳ章を参照されたい。断面は台形を呈し、表面の研磨は丁寧に施され、背面は正面・側面と違い艶消しの仕上げになっている。背面の縁は全周に面取り加工がみられる。潜り穴は、左右と中央上部の 3 カ所に縦平行に配列されており、いずれも破損している。

⑹　**砥石（13・14）**　2 点を図示した。13 は、頁岩製で 3 面に砥面がみられる。正面には、逆三角錐状の未貫通の孔が 2 カ所認められる。背面は浅いが溝状研磨痕が確認できる。14 は、粗粒の砂岩製で、全体的に風化が進んでいる。砥面は 1 面のみに認められ、幅 7mm 程の鑿のようなものを研いだ痕跡がみられる。

⑺　**凹石（15）**　15 は、安山岩製で直径 44.9mm、深さ 19.7mm 程の凹みをもつ。製品としては小振りであるが、全体の厚みに対して凹部が深く、搗き臼のような形状をしている。背面は、若干摩耗し平らな面が形成されている。

表 12　石器・石製品一覧

ID	図No.	器種	地区	検出面	遺構	出土地点ほか	石材	長 / 口径 (cm)	幅 (cm)	厚 (cm)	重量 (g)	破損状況	備考
1		礫石	A	I	311 住	№ 22	砂岩	(15.92)	(8.91)	3.61	531.0	1/2 欠	礫面数 2、荒礫、部分的に被熱
2		礫石	A	I	312 住	№ 5	砂岩	13.40	2.99	1.28	70.0	完形	平面：長方形、断面：長方形、礫面数 2、荒礫、手持ち礫石、片面被熱か
3	1	石鏃	A	I	312 住	№ 6	黒曜石	2.87	1.72	0.56	1.5	完形	有茎鏃、鋸歯状
4	5	石鏃	A	I	313 住	北東	黒曜石	1.33	0.99	0.26	0.3	完形	剥片鏃
5		礫石	A	I	314 住	カマド	凝灰岩	5.22	5.16	1.86	62.6	1/3 欠	平面：長方形、断面：長方形、礫面数 2、荒～中礫、線条研磨痕あり
6		小形刃器	A	I	322 住	東西トレ	黒曜石	1.98	1.58	0.39	1.1	完形	削器、刃部 2 側縁
7		石鏃	A	I	310 住・313 住	南北ベルト	チャート	2.15	1.71	0.48	1.6	完形	無茎凹基鏃
8		礫石	A	I	土 7	東	良岩	(4.22)	(1.66)	(0.46)	(3.3)	3/4 以上欠	平面：長方形か、礫面数 1、仕上げ礫、線条研磨痕あり、被熱か
9		凹石	A	I	溝 1	北部	安山岩	16.06	12.92	7.23	1858.0	完形	平面：隅丸形、断面：楕円形、凹み 1 面（φ 6.30cm・深さ 2.04cm）
10	2	石鏃	A	I	溝 2		黒曜石	2.61	1.81	0.37	1.2	完形	有茎鏃
11		櫻形石器	A	I	溝 2		黒曜石	2.03	1.52	1.01	2.1	完形	上下端に打点
12		凹石	A	I	検出面	№ 8	安山岩	15.31	13.07	4.87	1163.0	完形	平面：不整円形、断面：扁平な楕円形、凹み 1 面（φ 5.68cm・深さ 1.14cm）、被熱
13	11	軸錘車	A	I	検出面	№ 15	凝灰岩	4.84	4.49	1.74	58.4	完形	平面：円形、断面：長方形、中央に軸孔（φ 0.80cm・両面穿孔）
14	12	丸鞘	A	I	検出面	№ 20	黒曜石	3.32	2.83	0.58	10.4	完形	個の具鞘とみられる穿孔 3 カ所（長径 0.58cm・短径 0.22cm・深さ 0.31cm / 長径 0.53cm・短径 0.10cm・深さ 0.32cm / 長径 0.52cm・短径 0.19cm・深さ 0.30cm、いずれも研磨具受け部は欠損）、隠岐産の石材使用か
15		小形刃器	A	I	検出面	中央部北側	黒曜石	3.00	2.13	0.72	3.1	完形	削器、刃部 2 側縁
16		礫石	A	I	検出面	中央部南側	砂岩	(4.24)	(3.19)		(15.4)	3/4 以上欠	礫面 1、荒～中礫
17		櫻形石器	A	I	検出面	中央部北東隅	黒曜石	1.94	1.39	0.61	1.1	完形	上下端に打点
18	9	勾玉	B	I	315 住	№ 1	蛇紋岩か	1.51	0.93	0.40	0.7	完形	穿孔 1 カ所（φ 0.20cm・両面穿孔）
19		小形刃器	B	I	古墳包含層		黒曜石	2.82	2.27	0.58	2.8	完形	掻器、刃部 2 側縁
20		碁石	C	I	318 住	ベルト	砂岩	1.74	1.37	0.26	0.8	完形	平面：楕円形、断面：扁平な楕円形、白石
21	6	磨製石鏃未成品	C	I	319 住	トレンチ 3	結晶片岩か	4.78	2.52	0.36	5.4	完形	
22		石核	C	I	319 住近	トレンチ 2	黒曜石	2.23	2.12	1.38	5.5	完形	打面 2
23		櫻形石器	C	I	320 住	東半	チャート	3.26	2.28	1.01	7.7	完形	上下端に打点
24		石核	C	I	320 住	東半	チャート	4.31	3.59	1.30	24.5	完形	打面 2
25		石核	C	I	320 住	東半	黒曜石	2.06	1.96	1.39	3.8	完形	打面 1
26	3	石鏃	C	I	320 住	西半	黒曜石	1.96	1.63	0.56	1.3	完形	有茎鏃
27		石鏃か	C	I	320 住	西半	黒曜石	(1.48)	1.16	0.31	(0.5)	1/3 欠	基部欠、やや湾曲状
28		櫻形石器	C	I	320 住	西半	黒曜石	2.32	1.88	1.22	5.4	完形	上下端に打点
29		櫻形石器	C	I	320 住	西半	黒曜石	2.89	2.41	1.24	6.6	完形	3 カ所に打点
30		小形刃器	C	I	320 住	南北ベルト	黒曜石	4.12	2.42	1.01	7.0	完形	掻器、刃部 1 側縁
31		櫻形石器	C	I	土 55	西	黒曜石	2.06	2.05	0.93	3.5	完形	上下端、左右端に打点
32		櫻形石器	C	I	溝 2	サブトレ 3	黒曜石	2.17	1.91	1.02	4.6	完形	上下端に打点
33		礫石	C	I	溝 2		結晶片岩	20.30	6.49	3.46	711.0	完形	礫面数 1、中～仕上礫、線条研磨痕あり
34		小形刃器	C	I	溝 2		チャート	5.08	3.16	1.16	12.6	完形	削器、刃部 3 側縁
35	13	礫石	C	I	溝 2	サブトレ 3	片岩系	(8.16)	(5.23)	2.30	(120.4)	1/2 欠	平面：長方形か、断面：長方形、礫面数 4、仕上げ礫、上面に穿孔 2 カ所（φ 0.91cm・深さ 0.59cm / φ 0.53cm・深さ 0.17cm）、側面に穿孔 1 カ所（φ 0.32cm・深さ 0.22cm）
36	15	凹石	C	I	溝 4		安山岩	7.23	6.36	4.64	231.0	完形	平面：円形、断面：楕円形、凹み 1 面（φ 4.49cm・深さ 1.97cm）
37		小形刃器	C	I	溝 5		チャート	5.16	2.67	0.70	11.6	完形	削器、刃部 2 側縁
38		小形刃器	C	I	検出面	南西	黒曜石	2.32	1.44	0.43	1.3	完形	削器、刃部 2 側縁、部分的に掻器様の刃部 1 側縁
39		櫻形石器	C	I	検出面	南西	黒曜石	2.47	2.19	1.11	5.7	完形	上下端、左右端に打点
40	7	磨製石鏃未成品	C	I	検出面	南東	結晶片岩か	(3.58)	2.07	0.34	(3.5)	1/3 欠	基部欠
41	14	礫石	C	I	検出面	南東	砂岩	(6.91)	(4.56)	(2.02)	(84.7)	1/2 欠	平面：長方形か、礫面数 1、荒礫、U 字状溝あり、被熱
42	8	磨製石鏃未成品	C	I	検出面	中央	チャート	4.20	2.09	0.28	4.1	完形	無茎凹基鏃
43		敲か	C	I	検出面	スロープ手前	良岩	(1.95)	(1.55)	(0.42)	(2.0)	3/4 以上欠	敲の一部か、別用途に転用の可能性
44		石核	C	I	検出面	南東	黒曜石	2.41	1.57	0.70	2.7	完形	打面 2
45		櫻形石器	C	I	検出面	南端	黒曜石	2.63	1.63	0.89	3.0	完形	上下端に打点
46		石核	C	I	検出面	南端	黒曜石	3.45	2.72	1.58	11.1	完形	打面 2
47		石核	C	I	検出面	南端	黒曜石	2.02	1.87	1.36	6.6	完形	打面 1
48	4	石鏃	C	I	南壁	中央付近	黒曜石	(2.59)	1.34	0.41		茎部折れ	有茎、飛行機鏃、やや湾曲状
49		石核	C	I	南壁	中央付近	黒曜石	2.48	1.80	1.33	3.9	完形	打面 2
50		磨石類	C	I	南壁		安山岩	9.63	9.11	4.47	412.0	完形	平面：円形、断面：扁平な楕円形、磨面 1、磨面平坦
51		小形刃器	C	I	南壁トレンチ	中央付近	黒曜石	2.23	0.68	0.43	0.5	完形	削器、刃部 1 辺縁、石鏃未成品の可能性
52		敲	C	I	掘乱（南壁）	西	千枚岩	(5.18)	(1.35)	(0.85)	(9.5)	3/4 以上欠	海部の掻部分か
53	10	管玉	C	I	掘乱		緑色凝灰岩か	最大幅 0.29	最小幅 0.26	1.11	0.1	完形	穿孔 1 カ所（φ 0.13cm・両面穿孔）
54		礫石か	B	I	検出面	南西部	良岩	(3.23)	(1.54)	(0.32)	(1.7)	3/4 以上欠	礫石の一部か、礫面 1、仕上礫
201		剥片	A	I	311 住	北東	黒曜石	1.94	1.37	0.58	1.0		
202		剥片	A	I	313 住	サブトレ	黒曜石	1.70	1.43	0.75	0.9		
203		剥片	A	I	322 住	ベルト北	黒曜石	2.82	1.48	0.70	2.6		
204		剥片	A	I	310 住・313 住	南北ベルト	黒曜石	2.71	1.42	0.50	1.3		
205		原石	A	I	土 54		水晶か	1.22	1.12	1.09	1.8		
206		剥片	A	I	溝 1	南	黒曜石	1.98	1.55	1.34	2.7		

ID	図版	器種	区	検出面	遺構	出土地点 ほか	石材	長/口径 (cm)	幅 (cm)	厚 (cm)	重量 (g)	破損状況	備考
207		微細剥離ある剥片	A	I	溝1	北	黒曜石	2.30	1.41	0.32	0.9	完形	微細剥離 2 側縁
208		剥片	A	I	溝2		黒曜石	1.93	1.87	0.56	1.5	完形	
209		剥片	A	I	溝2		黒曜石	1.90	1.98	0.44	1.1	完形	
210		剥片	A	I	溝2		黒曜石	2.19	1.10	0.62	0.7	完形	
211		砕片	A	I	溝2		黒曜石	0.91	0.60	0.42	0.2	完形	
212		剥片	A	I	検出面	中央部北側	黒曜石	2.43	2.10	0.83	3.9	完形	
213		微細剥離ある剥片	A	I	検出面	中央部南壁際	黒曜石	4.16	2.18	0.96	5.1	完形	微細剥離 3 側縁
214		剥片	A	I	検出面	中央部北側	黒曜石	1.49	1.20	0.37	0.5	完形	
215		剥片	A	I	検出面	中央部南側	黒曜石	2.02	1.45	0.50	1.0	完形	
216		剥片	B	I	古墳造成層?		黒曜石	1.59	1.28	0.43	1.0	完形	
217		微細剥離ある剥片	B	I	検出面	北側中央部	黒曜石	2.92	1.85	0.55	3.1	完形	微細剥離 2 側縁
218		剥片	B	I	検出面	南端	黒曜石	1.56	1.24	0.38	0.6	完形	
219		剥片	B	I	南壁トレンチ		黒曜石	3.38	1.60	1.48	5.1	完形	
220		剥片	C	I	318 住	ベルト	黒曜石	2.55	1.11	0.40	0.8	完形	
221		微細剥離ある剥片	C	I	319 住近	トレンチ 2	黒曜石	2.71	2.30	0.45	2.4	完形	微細剥離 1 側縁
222		剥片	C	I	319 住近	トレンチ 3	黒曜石	1.40	1.36	0.94	2.0	完形	
223		剥片	C	I	319 住近	トレンチ 6	黒曜石	1.96	1.38	0.81	1.2	完形	
224		剥片	C	I	320 住	西半	黒曜石	2.70	0.91	0.52	1.3	完形	
225		二次加工ある剥片	C	I	320 住	東半	黒曜石	2.55	2.13	0.71	2.7	完形	二次加工 2 側縁
226		微細剥離ある剥片	C	I	320 住	東半	黒曜石	3.03	1.21	1.00	2.7	完形	微細剥離 1 側縁
227		微細剥離ある剥片	C	I	320 住	東半	黒曜石	2.10	1.81	0.38	1.2	完形	微細剥離 3 側縁
228		剥片	C	I	320 住	東半	黒曜石	2.46	1.80	0.40	1.3	完形	
229		剥片	C	I	320 住	東半	黒曜石	2.11	1.51	0.41	1.3	完形	
230		剥片	C	I	320 住	東半	チャート	2.60	2.06	0.36	1.8	完形	
231		剥片	C	I	320 住	東半	チャート	2.86	1.63	0.62	3.2	完形	
232		剥片	C	I	320 住	東半	チャート	2.32	1.46	0.73	2.1	完形	
233		原石	C	I	320 住	東半	鉄石英?	2.82	1.38	1.06	3.8	完形	赤玉
234		微細剥離ある剥片	C	I	321 住	南西	黒曜石	2.63	1.98	0.72	3.3	完形	微細剥離 1 側縁
235		剥片	C	I	321 住	南西	黒曜石	1.77	1.20	0.35	0.9	完形	2 片に分離
236		剥片	C	I	321 住	北東	チャート	2.78	1.96	1.17	4.8	完形	
237		剥片	C	I	土 35	南半	黒曜石	1.56	1.23	0.33	0.6	完形	表面 2 面が非常に緻密で滑らか、表面調整の可能性
238		剥片	C	I	土 48	東半	黒曜石	1.67	1.60	1.32	2.4	完形	
239		剥片	C	I	溝2		黒曜石	2.32	1.66	0.45	1.5	完形	
240		剥片	C	I	溝4		黒曜石	2.08	1.08	0.54	0.9	完形	
241		微細剥離ある剥片	C	I	溝5		黒曜石	2.82	1.69	0.56	2.1	完形	微細剥離 1 側縁
242		剥片	C	I	溝5		チャート	2.98	2.67	0.78	5.6	完形	
243		剥片	C	I	検出面	南	黒曜石	2.13	1.57	0.95	2.1	完形	
244		剥片	C	I	検出面	中央	黒曜石	2.08	1.22	0.56	1.3	完形	1 面折れか
245		微細剥離ある剥片	C	I	検出面	南端	黒曜石	2.65	1.73	0.61	1.9	完形	微細剥離 1 側縁
246		剥片	C	I	検出面	南端	黒曜石	4.08	2.31	1.01	9.6	完形	
247		剥片	C	I	検出面	南端	黒曜石	3.25	1.88	0.86	4.4	完形	
248		剥片	C	I	検出面	南端	黒曜石	3.13	2.37	0.92	5.3	完形	
249		剥片	C	I	検出面	南端	チャート	4.15	2.70	1.03	12.8	完形	
250		剥片	C	I	検出面	南端	チャート	1.82	1.57	0.50	1.1	完形	
251		剥片	C	I	検出面	南端	黒曜石	2.07	1.39	0.86	1.3	完形	
252		微細剥離ある剥片	C	I	検出面	南端	黒曜石	2.67	2.01	0.84	2.7	完形	微細剥離 1 側縁
253		剥片	C	I	検出面	南端	黒曜石	3.10	1.88	0.51	2.3	完形	
254		剥片	C	I	検出面	南端	黒曜石	2.52	1.82	0.90	1.8	完形	
255		剥片	C	I	検出面	南端	黒曜石	2.21	1.35	0.98	2.2	完形	
256		剥片	C	I	検出面	南端	黒曜石	2.12	1.70	0.43	0.9	完形	
257		剥片	C	I	検出面	南端	黒曜石	2.18	1.30	0.42	0.9	完形	
258		二次加工ある剥片	C	I	検出面	南端	黒曜石	2.11	1.32	0.51	1.3	完形	二次加工 1 側縁
259		剥片	C	I	検出面	南端	黒曜石	2.19	1.21	0.45	1.0	完形	
260		剥片	C	I	検出面	南端	黒曜石	1.95	1.23	0.36	0.8	完形	
261		剥片	C	I	検出面	南端	黒曜石	1.66	1.28	0.37	0.7	完形	
262		剥片	C	I	検出面	南端	黒曜石	1.63	1.55	0.87	1.5	完形	
263		砕片	C	I	検出面	南端	黒曜石	1.51	1.15	0.52	0.9	完形	
264		微細剥離ある剥片	C	I	検出面	南端	黒曜石	1.64	1.35	0.30	0.5	完形	微細剥離 1 側縁
265		砕片	C	I	検出面	南端	黒曜石	2.10	0.89	0.22	0.4	完形	
266		砕片	C	I	検出面	南端	黒曜石	1.23	1.17	0.54	0.7	完形	
267		砕片	C	I	検出面	南端	黒曜石	1.72	0.67	0.27	0.2	完形	
268		砕片	C	I	検出面	南端	黒曜石	1.00	0.76	0.30	0.2	完形	
269		砕片	C	I	検出面	南端	チャート	1.50	1.16	0.31	0.5	完形	
270		砕片	C	I	検出面	南端	チャート	1.79	0.54	0.27	0.3	完形	
271		砕片	C	I	東壁トレンチ		チャート	1.32	0.45	0.23	0.1	完形	
272		剥片	C	I	撹乱		チャート	3.77	30.90	0.98	10.5	完形	

※（ ）内数値は、残存値を表す

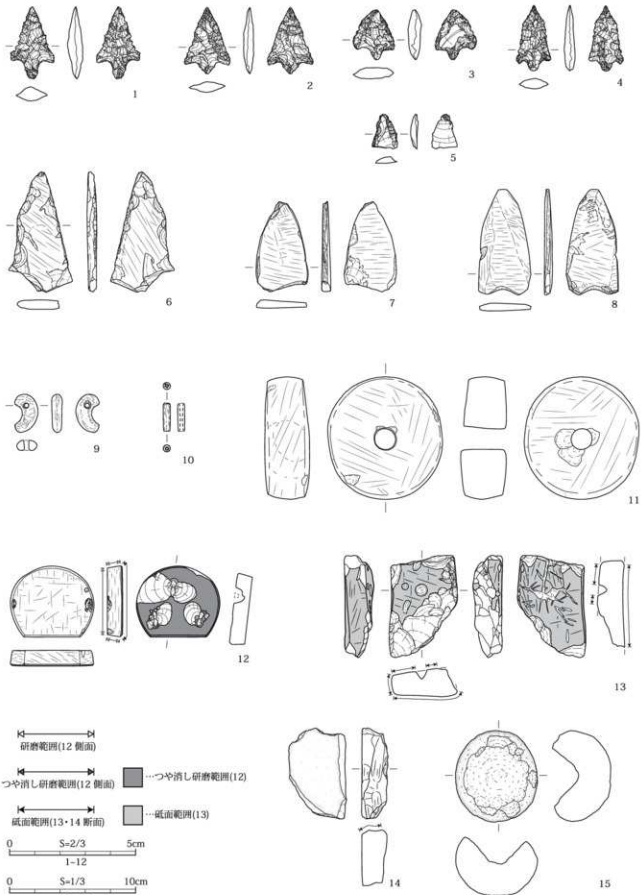

1
2
3
4
5
6
7
8
9
10
11
12
13
14
15
研磨範囲(12 側面)
つや消し研磨範囲(12 側面)
…つや消し研磨範囲(12)
紙面範囲(13・14 断面)
…紙面範囲(13)
0
S=2/3
5cm
1-12
0
S=1/3
10cm
13-15

図 38　石器・石製品

4　金属製品（表 13、図 39、写真図版 15）

⑴　概要

金属製品は 28 点出土した。その内訳は、鉄製品 22 点、銅製品 1 点、銭貨 5 点である。そのほか、鉄滓が 440.9 g 出土している。これらの出土地点・器種・寸法等については一覧表（表 13）を参照されたい。

品種は、鉄製品が釘・刀子・毛抜き型鉄製品・その他不明品、銅製品が不明品である。その中から比較的残存状態が良好なもの、特徴的な形状を持つものを 15 点図示し、写真掲載した（図 39、写真図版 15）。本文における遺物の掲載にあたっては図番号を使用している。鉄製品の分類は小松望氏によるもの（文献 34）に依拠した。また形状についてはＸ線撮影を実施していないため、目視による現状を記載している。

⑵　鉄製品

釘（1 ～ 4）　出土した 4 点を図示している。一部錆化が顕著な 1 、4 を含めいずれも断面方形である。基部上端に鑿を入れ叩き伸ばし、延伸部を折り返していることから 1 はⅥa 類、円形の皿を載せていることから 4 はⅦa 類と推定される。2 と 3 は基部上端が曲げられているものの、錆化や欠損で詳細な判別はできない。Ⅲ類あるいはⅣ類と推定される。

刀子（5 ～ 7）　出土した 5 点のうち 4 点を図示した。5 は 2 点が接合したもので、刃側が緩傾斜になる片関で身部が落ち込む。Ⅰ類と推定される。6 は関部の錆化が著しいが、身部の直線的な減幅などの形状から 6 類と推定される。7 は身部全体の錆化と端部の欠損ゆえに分類はできなかった。6 、7 はいずれも茎部に木質が付着している。

毛抜き型鉄製品（8）　出土した 1 点を図示している。片方の脚部が欠損しているものの、頭部が残存するため毛抜き型鉄製品と判断した。頭部は二つ折りで扁平な形状をとる。

不明品（9 ～ 11）　11 点が出土しており、うち 3 点を図示している。9 は錆化著しいが薄い板状で、両端部を欠くが片端部がわずかに湾曲する。10 は全体が凸状に湾曲し、残存する片端部がその凸側へわずかに外端する。欠損しているもう片方は端部に向かうにつれ太くなるため、釘ではないと判断した。11 は筒状製品で、両端部とも欠損する。片端部に切れ込みがあるため、木質部を挿入することで柄とした鑿などの工具基部である可能性がある。

⑶　銭貨（12 ～ 15）

5 点が出土しており、そのうち近代の十銭硬貨を除いた 4 点を図示している。内訳は景徳元宝、皇宋通宝、富寿神宝がそれぞれ 1 点と、隆平永宝が 1 点である。隆平永宝のみ破片出土で、それ以外は完存している。景徳元宝、皇宋通宝はいずれも宋銭で初鋳年はそれぞれ西暦 1004 年（景徳元宝）、1038 年（皇宋通宝）である。富寿神宝、隆平永宝はいずれも国内で鋳造されたいわゆる皇朝十二銭で、それぞれの初鋳年は 818 年（富寿神宝）、796 年（隆平永宝）である。市内遺跡における皇朝十二銭の出土例は稀で、富寿神宝の出土例は三間左川左岸遺跡第 1 次調査（1 点）、小池遺跡第 1 次調査（1 点）、高畑遺跡第 1 次調査（1 点）に続く 4 例目である。隆平永宝の出土例は県町遺跡第 11 次調査（1 点）のみで、松本市では 2 例目となる。

⑷　鉄滓

今回出土した計 440.9g の鉄滓のうち、最も多く出土した遺構が 311 住で 219.2g、次に多く出土したのがＣ区Ⅰ検溝 2 で 103.7g であった。

表 13　金属製品一覧

ID	図No.	調査区	検出面	遺構	出土地点	器種	最大長(mm)	最大幅(mm)	最大厚(mm)	重量(g)	金属種別	備考
1	6	A	I	310 住	カマド 2 段目 No.1	刀子	121.3	12.8	8.0	20.3	Fe	茎部に木質付着
2		A	I	311 住	No.34	滓	—	—	—	55.9	Fe	
3		A	I	311 住	No.42	滓	—	—	—	57.6	Fe	
4		A	I	311 住	南西部	滓	—	—	—	42.0	Fe	
5		A	I	312 住	No.2	不明	61.1	9.3	8.3	7.8	Fe	棒状製品、片端部に向け徐々に細くなる、先端部欠
6	7	A	I	312 住	No.3	刀子	108.5	16.5	6.8	29.2	Fe	茎部に木質付着
7	1	A	I	土 7	No.2	釘	54.5	8.8	7.5	6.5	Fe	断面方形
8	3	A	I	溝 2	南部	釘	42.5	10.1	7.2	4.5	Fe	断面方形
9	9	A	I	検出面	No.1	不明	69.0	12.3	5.4	4.3	Fe	両端部欠
10	2	A	I	検出面	No.1	釘	35.5	7.8	5.3	3.0	Fe	断面方形
11	8	A	I	検出面	No.9	毛抜き型鉄製品か	156.0	9.7	5.3	12.6	Fe	片端部欠
12	12	A	I	検出面	東部中央	景徳元宝	24.1	23.7	1.0	2.7	Cu	初鋳 西暦 1004 年
13		A	I	検出面	中央部南	刀子か	41.1	11.3	3.2	3.6	Fe	
14	5	C	I	319 住	北部	刀子	56.6	9.3	4.9	6.4	Fe	ID_30 と接合
15	13	C	I	土 32	No.1	皇宋通宝	24.2	23.9	0.9	2.6	Cu	初鋳 西暦 1038 年
16		C	I	溝 2		滓	—	—	—	45.1	Fe	
17		C	I	溝 2		滓	—	—	—	38.8	Fe	
18	4	C	I	溝 4	礫より上層	釘	75.0	19.7	16.6	27.4	Fe	
19	14	C	I	検出面	No.1	富寿神宝	23.4	23.2	1.6	2.9	Cu	初鋳 西暦 818 年
20		C	I	検出面	No.2	不明	17.9	16.5	0.6	1.0	Cu	円板状製品
21	15	C	I	検出面	No.3	隆平永宝	19.2	9.3	1.0	0.4	Cu	全体の 1 / 4、「平」の字の部分のみ残存、初鋳 西暦 796 年
22		C	—	壁面		十銭硬貨	21.7	21.5	1.3	1.2	Al	菊 10 銭、発行年 西暦 1941 年
23		A	I	311 住		滓	—	—	—	19.3	Fe	
24		A	I	311 住	西部 床直上	滓	—	—	—	19.4	Fe	
25		A	I	311 住	南東部	滓	—	—	—	25.0	Fe	
26		A	I	土 1		滓	—	—	—	7.8	Fe	
27		A	I	検出面	カクラン部	不明	18.1	3.3	3.1	0.3	Fe	棒状製品、片端部欠
28		B	I	検出面	北部中央	不明	31.7	5.1	4.7	1.8	Fe	棒状製品、両端部欠
29		B	I	検出面	北東部	滓	—	—	—	23.0	Fe	
30	5	C	I	319 住	北部	刀子	79.1	13.0	6.2	12.2	Fe	ID_14 と接合
31		C	I	土 44	北部	不明	20.6	4.5	4.2	0.6	Fe	棒状製品、両端部欠
32	11	C	I	溝 2		不明	47.2	12.6	12.0	7.2	Fe	筒状製品、片端部に切り込みあり、両端部欠
33		C	I	溝 2		滓	—	—	—	19.8	Fe	
34		C	I	溝 3	暗渠より上層	不明	60.2	58.9	5.8	39.3	Fe	板状製品
35												欠番
36		C	I	検出面	中央部	不明	28.2	5.8	5.2	2.0	Fe	棒状製品、両端部欠
37		C	I	検出面	南東部	釘	80.5	7.1	6.9	4.1	Fe	脚部先端わずかに欠
38		C	I	検出面	南西部	滓	—	—	—	87.2	Fe	
39	10	C	I	検出面		不明	70.3	9.1	7.9	7.2	Fe	全体凸状に湾曲、残存端部外端、片端部欠
40		A	I	312 住	東部	不明	29.9	14.8	3.3	2.4	Fe	板状製品、短辺わずかに湾曲する

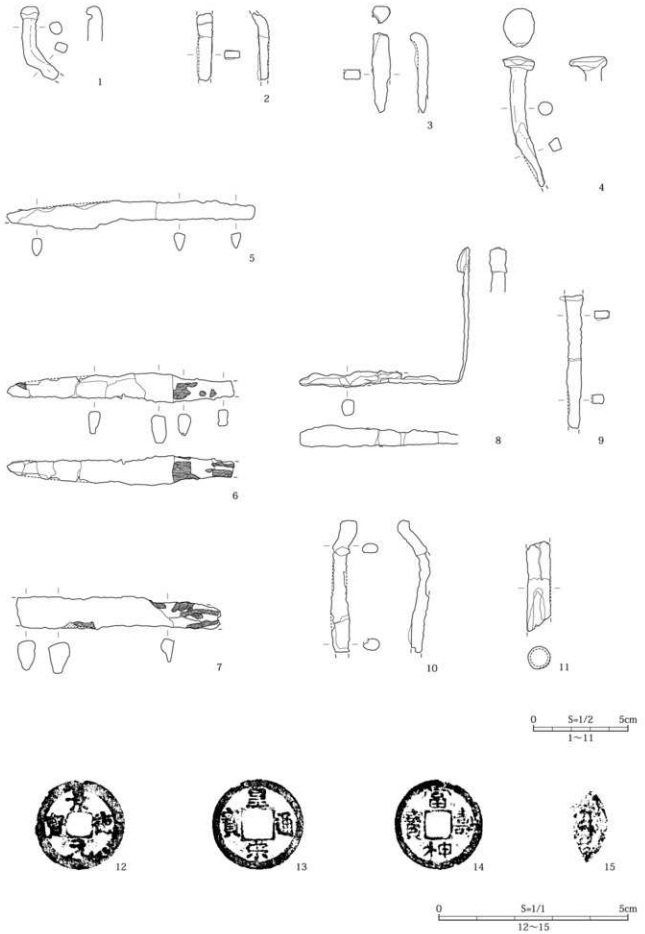


図39　金属製品

第Ⅳ章　松本市県町遺跡出土の黒曜石製丸鞆の原産地

明治大学黒耀石研究センター　池谷信之

1　はじめに

県町遺跡は松本市の東端にそびえる三峯山に源流を求め、犀川に向かって西流する薄川が形成した扇状地上に立地する。ここから律令時代の黒曜石製丸鞆が出土した。三峯山の北東側から南東側の一帯には和田（WD・WO）や諏訪（SWHD）の黒曜石原産地が存在し、旧石器時代や縄文時代にはここから中部・関東地方に大量の黒曜石が供給された。したがってこの丸鞆にはこれら近傍の黒曜石が用いられたことが考えられる。しかしその遺物としての性格を考慮すれば、当時の朝廷の影響力が及んだ地域の原産地の黒曜石が用いられた可能性もある。

その原産地はこの丸鞆の由来やこれを着装した人物の政治的な履歴を考えるうえできわめて重要な情報を提供するため、明治大学黒耀石研究センターに設置されたエネルギー分散型蛍光Ｘ線分析装置（日本電子社製 JSX-3100 Ⅱ）を用いて非破壊分析を実施した。

2　分析方法

測定条件と測定した元素は以下のとおりである。

[測定条件]　電圧：50keV、電流：0.6 ㎂、照射径：3mm、測定時間：300sec、雰囲気：真空、フィルター：なし

[測定元素]　アルミニウム (Al)、ケイ素 (Si)、カリウム (K)、カルシウム (Ca)、チタン (Ti)、マンガン (Mn)、鉄 (Fe)、ルビジウム (Rb)、ストロンチウム (Sr)、イットリウム (Y)、ジルコニウム (Zr)、ニオブ (Nb)、バリウム (Ba)

[判別図と指標]　この方法で得られた元素強度から以下の指標を計算し、２つの判別図（図 40 左・右）を作成して、原産地黒曜石の分布範囲と遺物との照合によって原産地を推定する。

指標１：Rb 分率 =Rb 強度× 100/(Rb 強度 +Sr 強度 +Y 強度 +Zr 強度)

指標２：Mn 強度× 100/Fe 強度

指標３：Sr 分率 =Sr 強度× 100/(Rb 強度 +Sr 強度 +Y 強度 +Zr 強度)

指標４：log(Fe 強度 /K 強度)

[測定した原産地]　判別図には北陸地方・中部地方・関東地方の原産地から採取・測定した黒曜石が反映されているが、今回、新たに隠岐（島後）の次に示す産出地の黒曜石を判別図に加えた。久見丸高（北西海岸）15 点・加茂箕浦（南海岸）９点・加茂岸浜（南海岸）９点・津井男池（南東海岸）11 点。

[測定位置と回数]　丸鞆は全体が研磨による整形が加えられているが、破損して新鮮面が現れている部分が認められる。分析は図 41 に示した場所を対象として、径３㎜の照射範囲の位置を少しずつずらしながら、４回測定しそのすべてを判別図に反映させた。

3　推定結果

図 40 に示したとおり、４回の測定結果はほぼ重複し、いずれも隠岐（津井男池）の判別群と一致したことから、隠岐産黒曜石であると判断した。隠岐の原産地は図 40 右に示すように３つの化学的グループに区分されることが知られているが、判別図上で重なり合う部分があり、その差はわずかである。また今回の測定箇所（図 41）には多少の湾曲と傾斜があり、これに起因する多少の誤差が生じている可能性もあるため、

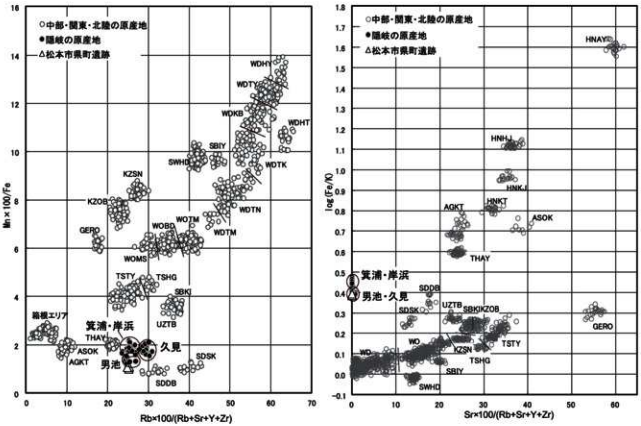


図 40　県町遺跡出土黒曜石製丸鞆の原産地判別図

ここでは大別区分の「隠岐産」とのみ推定しておき、細別については保留する。

図 41　測定箇所

4．推定結果についての検討

蛍光X線分析の結果、この県町遺跡出土の黒曜石製丸鞆の原産地は、島根県隠岐の島にあることが判明した。遺物の破損部分は漆黒で透明感は少なく、強めの光沢があって斑晶はほとんど認められない。手元にある津井男池から採取されたサンプルの石質もこれとほぼ同様であり、判別結果と肉眼による石質観察も矛盾しない。

隠岐産黒曜石の化学的特徴は、ストロンチウム（Sr）がほとんど含まれない点にある。こうした特徴を示す黒曜石は、国内では隠岐の他に、青森県深浦・長崎県壱岐がある。これらの黒曜石は、いずれも日本海側に存在し、大陸内型の火山活動によって形成されたアルカリ流紋岩に起源すると考えられている（隅田ほか 2018）。したがってこれらの黒曜石との判別には慎重を期する必要がある。

ただし、今回分析に用いた JSX-3100 Ⅱによる明治大学黒耀石研究センターの判別図では、深浦の log（Fe/K）の指標は、0.55 付近を示し、図 40 左側に相当する判別図においても異なった場所にプロットされている。また壱岐の黒曜石については、明治大学古文化材研究所（2009）の作成した図 40 右側に相当する判別図上では重複する部分があるものの、図 40 左側に相当する判別図では、隠岐の判別群の右側上方にプロットされており、誤判別される可能性は少ないと考えられる。

隅田祥光・亀井淳志・川道寛・及川穣・稲田陽介・栗野翔太 2018『長崎県壱岐と島根県隠岐島後の黒曜石の化学的特徴の類似性と原産地判別法についての検討』『旧石器研究』14 pp.91-101

明治大学古文化材研究所 2009『蛍光 X 線分析装置による黒曜石製遺物の原産地推定 －基礎データ集〈1〉－』（55. 勝毛遺跡 pp.291-292）

第Ⅴ章　調査のまとめ

第１節　県町遺跡出土の特殊遺物について

1　皇朝十二銭

今回の県町 22 次調査で出土した２点を含めると、松本市内の遺跡で出土した皇朝十二銭の総数は 26 点であり、うち県町遺跡出土のものは４点である。松本市内出土品を含めた長野県内出土皇朝十二銭の包括的な研究には、西山克己氏によるものがある（西山 2011・2020）。西山氏は皇朝十二銭の出土地点が東山道やその支路に沿うこと、千曲川流域では和同開珎の出土例が多く、松本平ではそれ以降の皇朝十二銭が多くなるという出土状況の推移が、屋代遺跡出土木簡研究等を踏まえた国府所在地の推移（８世紀前半に埴科郡矢代地域→８世紀中ごろから９世紀ごろに小県郡→９世紀以降に筑摩郡）と連動していることを指摘している。これを踏まえれば、出土数は決して多くない皇朝十二銭が、従来から信濃国府との関連が指摘されている県町遺跡の性格に迫るための重要な手掛かりの一つであるといえる。そこで本稿では県町遺跡から出土した４点の皇朝十二銭が有する特徴について、ほかの松本市内遺跡出土銭との比較の中で述べるとともに、長野県内全体での出土例の中で、どのように位置づけられるのかを検討する。

表 14　富本銭と皇朝十二銭（西山 2011）

銭文（銭種）	初鋳年	天皇	典拠
富本銭（銅銭）	天武 12（683）年以降	天武天皇	日本書紀
和同開珎（銀銭）	和銅元（708）年	元明天皇	続日本紀
和同開珎（銅銭）	和銅元（708）年	元明天皇	続日本紀
萬年通宝（銅銭）	天平宝字４（760）年	淳仁天皇	続日本紀
大平元宝（銀銭）	天平宝字４（760）年	淳仁天皇	続日本紀
開基勝宝（金銭）	天平宝字４（760）年	淳仁天皇	続日本紀
神功開宝（銅銭）	天平神護元（765）年	称徳天皇	続日本紀
隆平永宝（銅銭）	延暦 15（796）年	桓武天皇	日本後紀
富壽神宝（銅銭）	弘仁９（818）年	嵯峨天皇	日本紀略
承和昌宝（銅銭）	承和２（835）年	仁明天皇	続日本後紀
長年大宝（銅銭）	嘉祥元（848）年	仁明天皇	続日本後紀
饒益神宝（銅銭）	貞観元（859）年	清和天皇	三代実録
貞観永宝（銅銭）	貞観 12（870）年	清和天皇	三代実録
寛平大宝（銅銭）	寛平２（890）年	宇多天皇	日本紀略
延喜通宝（銅銭）	延喜７（907）年	醍醐天皇	日本紀略
乾元大宝（銅銭）	天徳２（958）年	村上天皇	日本紀略

表 15 は、松本平の遺跡から出土した皇朝十二銭を示したものである。出土遺跡の場所は図 42 で示した。松本市内の遺跡から出土したものについて個別の出土状況を見ていくと、住居址が９点、土坑が 10 点、溝が３点、検出面や包含層など、遺構に伴わないものが４点である。県町遺跡出土の皇朝十二銭は、４点いずれもが遺構に伴っておらず、市内で出土した皇朝十二銭 26 点のうち、遺構に伴わない形で出土した４点すべてが県町遺跡出土ということになる。意図的な埋納をうかがわせる下神遺跡土坑 490 や高畑遺跡第 124 号住居址と比較し、県町遺跡では意図的な埋納を伴わなかったと解釈することも可能ではある。しかし出土例が４点と少ないことを踏まえ、このことに積極的な意義を見出すことは現時点では避けたい。

続いて県町遺跡出土の皇朝十二銭についてその初鋳年に着目すると、既報告の隆平永宝、延喜通宝の初鋳年が 796 年、907 年であり、今回の調査で新たに出土した富寿神宝の初鋳年が 818 年である。９世紀中ごろを初鋳年とする銭貨、すなわち承和昌宝、長年大宝、饒益神宝、貞観永宝が出土していないため、県町遺跡では８世紀後半～９世紀初頭と９世紀末～ 10 世紀初頭の二時期の皇朝十二銭が出土するという状況がうかがえる。こうした状況は松本市内で出土した皇朝十二銭にも同様にみられる傾向であり、出土状況で述べたような出土数が少ないゆえの単なる偏りではないと考えられる。なお市内出土の皇朝十二銭で初鋳年が最

も古いものは、下神遺跡で出土した初鋳年が760年の萬年通宝と神功開宝である。

以上、県町遺跡から出土した皇朝十二銭について、松本市内遺跡出土銭との比較の中で概観した。今回の第22次調査で新たに出土した2点の銭貨は、初鋳年・出土状況いずれにおいても既報告の県町遺跡出土銭2点と近似しており、県町遺跡ひいては松本市内遺跡における皇朝十二銭出土状況に対する従来の理解を補強するものであった。それを踏まえて県町遺跡出土の皇朝十二銭について注目すべきことは、萬年通宝・神功開宝より初鋳年が古い銭貨、すなわち初鋳年が8世紀後半以前の銭貨が出土していないという点と、承和昌宝から貞観永宝までの銭貨、すなわち初鋳年が9世紀中ごろの銭貨が出土していないという点である。これは松本市内遺跡出土皇朝十二銭全体の傾向であると先に述べたが、塩尻市や安曇野市での出土例を加え、松本平全体で見て（表15、図42）も、同様に8世紀後半以前の銭貨出土数が少なく、9世紀中ごろのものが空白となる。前者については、西山氏が述べているように、国府の筑摩郡移転に伴う都との往来の活発化が起こるまで、銭貨の流通が少なかったことが原因であると考えられる。一方後者について、現段階でその理由を明確にすることはできないが、松本地域における何らかの社会変化を反映したものと推測できる。松本地域においては9世紀後半から10世紀初頭の古代集落遺跡について、それまでの有力集落が複数、急速に縮小・衰退するという指摘がなされている（文献23・46）。遺構に伴って出土した市内遺跡出土銭の初鋳年はいずれも共伴する土器の編年と比べ半世紀ほど古いため、9世紀中ごろの銭貨の不在は、丁度この9世紀後半～10世紀初頭という時期の遺構に銭貨が伴わないことを示している。またこうした出土銭の偏りは、県内他地域と比較して松本地域でより顕著に見られるものである（注1）。既存の有力集落を衰退させるほどの政治的・経済的な周辺社会の変化が松本地域に生じ、銭貨の流通、およびその利用も低調になった可能性も考えたい。

このように県町遺跡出土の皇朝十二銭は、遺構に伴う出土例が存在しないために、現時点では銭貨利用の観点から県町遺跡を位置づけるものではない。しかし出土種別において松本地域全体における出土品と同様の傾向をもっており、それ故に国府の筑摩郡移転に伴う、松本地域における都との往来の活発化の様子、及び9世紀後半から10世紀初頭にかけての地域社会の変動の様子を示すものと位置づけられる。上記した推測を否定する、初鋳年が9世紀中ごろの皇朝十二銭が新たに出土するかも含め、市内遺跡での今後の出土例増加を注視していきたい。

注1

県内他地域での出土例を見ていくと、承和昌宝以前の銭貨の出土が主である佐久地域では聖原遺跡・深掘遺跡での長年大宝や、根岸遺跡での饒益神宝等が例示できる。また松本地域同様初鋳年が9世紀以降の銭貨が主に出土する長野市域でも、榎田遺跡での饒益神宝や長年大宝、松原遺跡での貞観永宝等が例示できる。

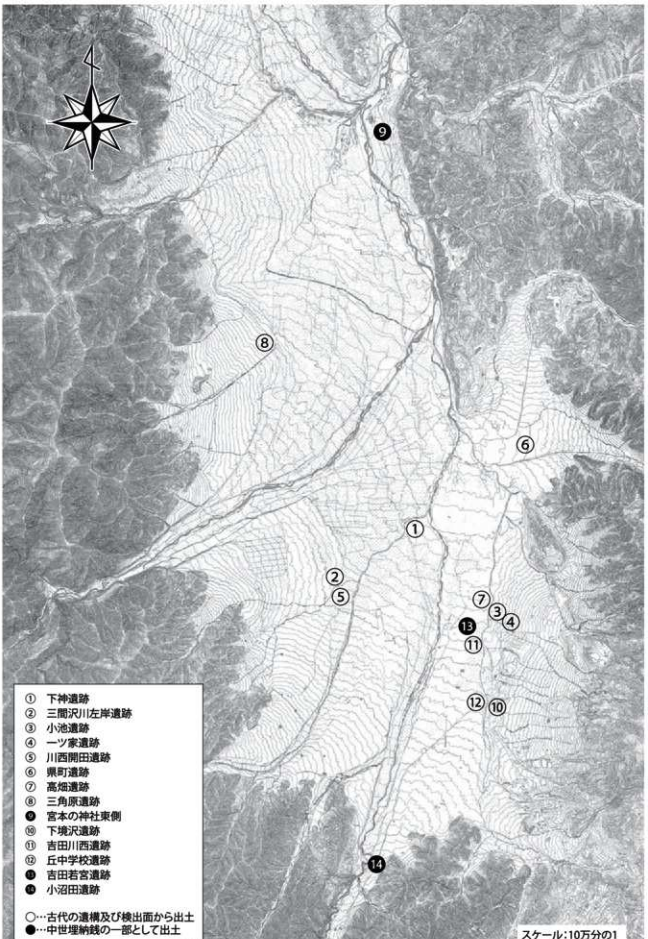


図 42　松本平における皇朝十二銭出土遺跡位置図

表 15　松本平出土の皇朝十二銭一覧

No.	位置図No.	遺跡	調査次	所在地	遺構	出土遺構帰属年代（小平 1990 による）	調査年	参考文献	銭種	初鋳年	備考
1	①	下神遺跡	県理文	松本市神林	SK490（上 490）	5 期	S60(1985)	文献 37	萬年通宝	760	1～9は同時理納。土坑490は住居址 SB126と隣接している。この住居址の建築あるいは集落の造営に際した地鎮として の理納と推測される。なお土抗 490 についての報告書の記載は、遺構説明と遺物説明とで記述に混乱が見られる。本稿では出土状況図に即した記述をとる遺構説明の記載に準じた。
2	①	下神遺跡	県理文	松本市神林	SK490（上 490）	5 期	S60(1985)	文献 37	萬年通宝	760	
3	①	下神遺跡	県理文	松本市神林	SK490（上 490）	5 期	S60(1985)	文献 37	萬年通宝	760	
4	①	下神遺跡	県理文	松本市神林	SK490（上 490）	5 期	S60(1985)	文献 37	萬年通宝	765	
5	①	下神遺跡	県理文	松本市神林	SK490（上 490）	5 期	S60(1985)	文献 37	神功開宝	765	
6	①	下神遺跡	県理文	松本市神林	SK490（上 490）	5 期	S60(1985)	文献 37	神功開宝	765	
7	①	下神遺跡	県理文	松本市神林	SK490（上 490）	5 期	S60(1985)	文献 37	神功開宝	765	
8	①	下神遺跡	県理文	松本市神林	SK490（上 490）	5 期	S60(1985)	文献 37	不明	－	
9	①	下神遺跡	県理文	松本市神林	SK490（上 490）	5 期	S60(1985)	文献 37	不明	－	
10	①	下神遺跡	県理文	松本市神林	SK554（上 554）	7 期	S60(1985)	文献 37	萬年通宝	760	
11	①	下神遺跡	県理文	松本市神林	SD108（溝 108）	4～7 期（銭出土層は 5 期）	S60(1985)	文献 37	神功開宝	765	
12	②	三間沢川左岸遺跡 三間沢川左岸遺跡	1	松本市和田	16 住	7 期	S62(1987)	文献 23	富寿神宝	818	住居址内北壁中央直下のくぼみから遺方とともに出土。
13	②	三間沢川左岸遺跡	1	松本市和田	55 住	9 期	S62(1987)	文献 23	不明	－	文字不明、古代銭貨の可能性高い。
14	②	三間沢川左岸遺跡	2	松本市和田	161 住	10 期	S63(1988)	文献 23	延喜通宝	907	14～18は溶着。発見時には6枚の溶着としていたが、報告書作成までの間に1枚ずつに分離されてからは5枚として保管されていた。その内の1枚にもう1枚分の残片らしきものが付着していることから、それを6枚目と数えていた可能性がある。
15	②	三間沢川左岸遺跡	2	松本市和田	161 住	10 期	S63(1988)	文献 23	延喜通宝	907	
16	②	三間沢川左岸遺跡	2	松本市和田	161 住	10 期	S63(1988)	文献 23	延喜通宝か	907	
17	②	三間沢川左岸遺跡	2	松本市和田	161 住	10 期	S63(1988)	文献 23	延喜通宝か	907	
18	②	三間沢川左岸遺跡	2	松本市和田	161 住	10 期	S63(1988)	文献 23	延喜通宝か	907	
19	③	小池遺跡	1	松本市寿小池	59 住	不明	H2(1990)	文献 13	富寿神宝	818	
20	④	一ツ家遺跡	1	松本市内田	溝 2	中世	H6(1994)	文献 13	寛平大宝	890	周辺整地土からの混入可能性大
21	⑤	川西開田遺跡	2	松本市神林	溝 9	9 期	H7(1995)	文献 15	延喜通宝	907	
22	⑦	高畑遺跡	6	松本市芳川	124 住	7～8 期	H27(2015)	文献 25	富寿神宝	818	西壁際の壁柱穴から立つように出土。地鎮か。
23	⑥	県町遺跡	11	松本市県	検出面	－	H8(1996)	文献 14	隆平永宝	796	
24	⑥	県町遺跡	21	松本市県	包含層	－	R2(2020)	文献 26	延喜通宝	907	
25	⑥	県町遺跡	22	松本市県	検出面	－	R2(2020)	本次調査	富寿神宝	818	
26	⑥	県町遺跡	22	松本市県	検出面	－	R2(2020)	本次調査	隆平永宝	796	全体の1/4、「平」の字の部分のみ残存。
27	⑧	三角原遺跡	1	安曇野市温	34 住	11～12 期	H15(2003)	文献 55	延喜通宝	907	
28	❾	宮本の神社東側	－	安曇野市宮本	－	（中世）	－	文献 30	和同開珎（銭銭）	708	宋銭（太平通宝等）と共伴。中世の理納銭か。
29	⑩	下堺尻遺跡	1	塩尻市片丘南内田	21 住	7～8 期	H8-9(1996-1997)	文献 49	隆平永寶	796	
30	⑪	吉田川西遺跡	県理文	塩尻市広丘吉田	SB159（159 住）	9 期	S59-60(1984-1985)	文献 35	富壽神寶	818	
31	⑫	丘中学校遺跡	－	塩尻市広丘野村	排土	－	S53(1978)	文献 46	隆平永寶	796	
32	❶	吉田若宮遺跡	－	塩尻市広丘吉田	－	（中世）	S56(1981)	文献 29	和同開珎（銭銭）	708	常滑大甕内から中国銭と共伴。中世の理納銭。
33	❶	吉田若宮遺跡	－	塩尻市広丘吉田	－	（中世）	S56(1981)	文献 29	富壽神寶	818	
34	❹	小沼田遺跡	－	塩尻市宗賀洗馬	－	（中世）	M17(1884)	文献 45	萬年通寶	760	常滑系甕内から北宋銭等と共伴。中世の理納銭。

2　帯飾り

(1)　帯飾りについて

8 世紀以降になると金属や石製品の飾りをつけた腰帯を着用し、官人の身分を表示するようになる。腰帯の飾りは、バックルにあたる銙具や、銙具に差込むための帯先金具である鉈尾のほかに、帯の表面を飾る巡方・丸鞆といった銙板がある。ここではそれらを総称して帯飾りとして扱うこととする。銙帯研究の中に帯飾りの大きさや材質、色調などと、それを着用する官人の位階との関連やその変遷などについて論じているものが多くみられるが、ここでは本市出土品を集成し、その概要を述べる。

(2)　市内出土品の概要

これまで市内で、20 遺跡から 48 点が出土している。そのうち複数個出土している遺跡は 9 遺跡挙げられる。最多は三間沢川左岸遺跡で 10 点が認められる。次に多いのが県町遺跡で 7 点、北栗遺跡で 6 点の出土がある。同一遺構での出土数をみると、南栗遺跡の 10 住（9 世紀前～中期）から 3 点出土しており最多である。

出土遺跡の特徴としては、その地域の中心的な大規模集落であったり、特殊遺物（緑釉、陶硯、皇朝銭など）の出土が伴ったり、または東山道の推定沿線沿いの集落であったり、いわゆる重要集落と考えられている遺跡から帯飾りが出土していることがうかがえる。出土遺構の時期は、概ね 8 世紀中期から 11 世紀に帰属される。出土時期は材質によって若干異なり、石製品に関しては 9 世紀以降に限られる。

(3)　種類別の帯飾りについて

市内で出土した帯飾りは表 18 のとおりで、総数 48 点のうち金属製品が 32 点、石製品 16 点と、金属製品が 6 割以上を占める。それぞれの概要は下記のとおりである。

金属製巡方　12 点出土しており、すべて銅製品である。出土品のほとんどが 8 世紀中期から 10 世紀前期に帰属する。平面形状をみると、辺がやや外湾するものも認められる。すべての出土品は垂孔を有している。

金属製丸鞆　8 点出土しており、すべて銅製品である。帰属時期は巡方とほとんど同じ傾向がみられる。平面形状別にみると、楕円の一端を切り底面としたものが 6 点、山形に近い形状のものが 2 点確認できた。また、下神遺跡出土品は、前者に分類できると思われるが、やや五角形を呈しており金属製品の中で唯一垂孔を有していない。

金属製銙具　C 字形金具の一部である銙具は 7 点出土し、鉄製の 1 点を除き他はすべて銅製品である。帰属時期は、4 点は 9 世紀前～中期に、1 点は 11 世紀である。南栗遺跡出土の鉄製銙具は、馬具である可能性は残るが、ここでは報告内容に従って銙具と扱うこととする。

金属製鉈尾　5 点出土し、9 世紀前期から 10 世紀前期に帰属する。三間沢川左岸遺跡の出土品うち 1 点は、帯への取り付け穴が貫通していることが認められる。

表 16　帯飾りの材質と種類

	鉄	銅	石	小計
巡方		12	11	23
丸鞆		8	4	12
銙具	1	6		7
鉈尾		5	1	6
計	1	31	16	48

表 17　石製帯飾りのサイズ一覧

	巡方		丸鞆		鉈尾	
	横	縦	横	縦	横	縦
2.1						
2.2				1		
2.3						
2.4				1		
2.5			1			
2.6						
2.7						
2.8				1		
2.9						
3.0						
3.1		1		1		
3.2						
3.3			1			
3.4		2				
3.5	2	1				
3.6			1			
3.7		1				
3.8	1	2				
3.9	2					
4.0						
4.1	1					
4.2			1			
4.3						1
4.4						
4.5						
4.6						
4.7						
4.8		1				
4.9						
5.0	2	1				
5.0 <						

石製巡方　11 点出土している。石製品の中で最も多い種類である。ほとんどが 9 世紀中期から 10 世紀後期に帰属する。横 / 縦比がの平均が 0.95 と正方形に近いのが特徴である。大きさは中二子遺跡出土品が長さ・幅が 5cm程度と他より一回り大きいが、他は概ね 3cm大に収まる。

石製丸鞆　4 点出土している。うち出土時期がわかる 2 点は 9 世紀中～後期に帰属する。形状的にはいずれも楕円の一端を切り、底辺としたもので、上辺部だけ丸みをもつ山形は認められない。縦横比は 0.67 ～ 0.88 と幅がある。赤木山遺跡出土品は 0.67 と、最も扁平な形状を呈する。大きさは縦 2.2 ～ 3.0cm、横 2.5 ～ 4.2cmの間におさまる。資料数が少なく、傾向を求めることはできない。

石製銙尾　1 点出土し、9 世紀前期に帰属する。欠損品であり横 / 縦比は求められないが、縦の大きさがが 4.3cmを測る。

2　石製帯飾りについて

(1)　潜り穴について

石製帯飾りの裏面には、潜り穴が設けられており、その数や配置にはいくつかのパターンが認められた。巡方には、四隅に 4 箇所の潜り穴がつけられるが、縦または横に配列するものと放射状に配列するもの、不規則な配列の 3 パターンがある。不規則な配列ものは、神戸遺跡出土品で欠損率が大きいが、上側 2 箇所は横に配列し、下側 2 箇所は放射状に配列している。丸鞆では、3 箇所の潜り穴がつけられ、放射状に配列するものと不規則な配列のものの 2 パターンがある。不規則な配列のものは、県町遺跡第 14 次調査出土品で、縦配列だったものを上側と右下側の 2 箇所の潜り穴を付け替え、横配列としている。

(2)　色調について

個々の色調をみると、不明品を除くと黒・白＋黒斑・白・暗緑・紫の 5 種類が確認できる。その比率は、黒 41.2%、白＋黒斑 17.6%、白 17.6%、暗緑 5.9%、紫 5.9%である。使用されている石材についてもバリエーションが多くみられ、大理石や紫水晶、黒曜石のような希少な石材も使われている一方、粘板岩や安山岩のような広域で産出するような石材も含まれている。

3　県町出土の帯飾り

(1)　概要

本遺跡において、7 点の帯飾りが出土しており、そのうち金属製が 3 点、石製が 4 点と、石製の出土点数がやや優位にある。石製品優位は、出土品の帰属時期がいずれも帯飾りの材質の変化が起きる 9 世紀以降ということが関係していると考えられる。石製品 4 点のうち、巡方が 2 点、丸鞆が 2 点である。使用されている石材は、ガラス質火成岩や黒曜石といった黒系と白系の石英閃緑岩、紫系の紫水晶である。そのうち黒曜石製は極めて希少な事例ということがわかった。仕上げ研磨の観察から、高度な技術や質の高いの道具を用いられて作られたことがわかる。第Ⅳ章で述べたように、産地分析の結果、隠岐の島で採取された黒曜石が使われていることが判明したため、隠岐の島周辺や平安京内の職人によってつくられ、何らかの理由により信濃国までもたらされたと考えられる。

(2)　黒曜石製帯飾り

黒曜石製の石製帯飾りは、全国的に出土点数が極めて限られる。全国の帯飾りを集成した文献 55 で確認できる点数は 7 点で、表 19 のとおり九州地方から東北地方まで出土が確認できる。出土した遺跡をみると、官衙もしくは官衙に関連する遺跡が目立ち、その他は地域の拠点的な大集落であったり寺院跡と比定されて

いる。

黒曜石の評価については、まだ課題が多く論じることは難しいが、今回産地分析をすることができたため、その結果を基に少し述べたい。全国的に黒曜石の利用は先史時代に終焉を迎えていることが多い中、隠岐では規模は小さくなるが近現代まで続いていることが確認されている（文献 60）。古代の帯飾りに黒曜石を利用するにあたり、利用できる産出場所の選択肢は少なかったと考えられる。帯飾りの職人が集まる都城付近に、原材料も集まると考えれば、古代においても黒曜石を採掘していた近い場所であることから隠岐の島が選ばれたものと考えることができる。今後の課題として、他地域出土の黒曜石についても産地分析が必要であろう。

また、石製帯飾りとして黒曜石に特別な意味があったのかどうかについて、確信的なことは言えないが、単に色調が黒色の帯飾りとして一括りにしていいのかやや疑問が残る。ガラス質である黒曜石を光沢が出るまで研磨するという行為は、他石材に比べ高度な技術・研磨剤が必要と思われ、さらに石材自体の珍重性を考えると、黒曜石を用いる行為になんらかの特別な意味合いがあったとの推測も可能であろう。

表 18　市内出土帯飾り一覧

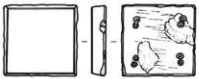
No.	No.	遺跡名	次数	調査年	遺構	材質1	材質2	色調	種類	縦	横	横/縦	厚	出土遺構の時期	備考	報告書
1	1	福倉和田	1	1993	6 号住	石	粘板岩	黒	巡方	3.78	3.90	0.97	0.76	9c 後～ 10c 前		文献 12
	2	岡田町	1	1991	B 区 1014 号住	銅			鉈尾	3.00	4.10	1.37	0.40	9c 後～ 10c 前		文献 10
	3	大村	1	1987	1 号住	銅			丸鞆	2.30	3.80	1.65	0.15	古代		
	4	大村	2	1987	2 号住	銅			鉈尾	3.10	4.10	1.32	0.30	古代		
	5	大輔原	8	1997	37 号住	銅			巡方	2.60	(3.10)		0.20	8c 中～後		文献 17
	6	堀の内 5/ 兎川寺 2		2021	159 号住	銅			鈴具	(2.20)	(2.35)	1.07	0.50	11c 中	緑釉陶器共伴、祭祀か出土住居址	
2	7	県町	4	1987	2 区 検出面	石	石英閃緑岩	白＋斑点	巡方	(2.36)	(3.42)		0.60	9c ～ 12c		文献 6
3	8	県町	12	2001	129 号住	石	紫水晶	紫	巡方	3.44	(3.05)		0.95	9c 中		文献 20
12	9	県町	14	2005	C 区上 129	石	(火成岩)	黒	丸鞆	3.00	4.20	0.71	0.70	9c 中～後	井戸の可能性あり	文献 21
	10	県町	16	2010・11	1 検　190 住	銅			丸鞆	22.9	17.2	1.33	0.42	9c 中		
	11	県町	16	2010・11	1 検　193 住	銅			巡方	32.5	23.5	1.38	0.44	9c 前～中		
	12	県町	16	2010・11	1 検　土 63	銅			巡方	30.9	29.6	1.04	0.27	9c		
13	13	県町	22	2020・21	A 区 古代包含層	石	黒曜石 (隠岐の島)	黒	丸鞆	2.83	3.32	0.85	0.58	9c 中～後		本次調査
4	14	理橋			不明	石	不明	不明	巡方	3.40	3.50	0.97	0.50	-		文献 28
5	15	三の宮	-	1985~86	SB34	石	球状石灰岩	白	巡方	3.50	3.80	0.92	0.80	9c 中	黒漆付着か	文献 40
	16	北梁	2	1984	5 号住	銅			丸鞆	2.40	3.90	1.63	0.80	8c 中～後		文献 4
	17	北梁	1	1984	2 号住	銅			巡方	1.55	3.30	2.13	0.45	11c 中		文献 4
	18	北梁	1	1984	61 号住	銅			巡方	3.45	3.70	1.07	0.65	9c 中～後		文献 4
	19	北梁	-	1985~86	SB72	鉄			鈴具	3.60	5.60	1.56	0.90	11c 中	馬具の可能性あり	文献 39
	20	北梁	5	1988	37 号住	銅			丸鞆	2.10	3.30	1.57	0.50	9c 後～ 10c 前		文献 7
	21	北梁	5	1988	37 号住	銅			巡方	(1.80)	(1.65)		0.40	9c 後～ 10c 前		文献 7
	22	南梁	3	1985	10 号住	銅			鈴具	(1.35)	(2.55)		0.50	9c 前～中		文献 5
	23	南梁	3	1985	10 号住	銅			鈴具	(2.60)	(2.20)		0.55	9c 前～中		文献 5
	24	南梁	3	1985	10 号住	銅			鉈尾	(2.70)	(3.50)		0.40	9c 前～中	巡方の可能性あり	文献 5
	25	安塚 8 号墳		1978	8 号古墳石室	銅			丸鞆	2.30	3.70	1.61	0.70	8c 前か		文献 1

No.	No.	遺跡名	支数	調査年	遺構	材質1	材質2	色調	種類	縦	横	横/縦	厚	出土遺構の時期	備考	報告書番号
	26	下神	-	1985~86	SB25	銅			丸鞆	(2.40)	(3.00)		-	8c 初～ 9c 後	山形、垂孔なし、黒漆付着、皇朝銭共伴	文献 37
	27	下神	-	1985~86	SD109	銅			巡方	2.70	2.60	0.96	-	8c 後～ 9c 前	銀金、皇朝銭共伴	文献 37
	28	下神	1	1983	6 号住	銅			巡方	2.40	2.70	1.13	0.60	9c ～ 10c		文献 3
14	29	下神	-	1985~86	SB34	石	柱状石灰岩	白	丸鞆	2.20	2.50	0.88	0.50	8c 中	黒漆付着か、皇朝銭共伴	文献 37
6	30	中二子	-	1985	SK6	石	粘板岩	黒	巡方	4.80	5.00	0.96	-	10c 後		文献 36
7	31	中二子	-	1985	SK6	石	粒状結晶質石灰岩	白	巡方	5.00	5.00	1.00	-	10c 後		文献 36
15	32	向原	1	1997	5 号住	石	安山岩系（緻密な噴出岩）	黒	鉈尾	4.30	(5.50)		0.70	9c 前		文献 16
	33	小原	1	1989	1 区　3 号住	銅			巡方	(1.40)	2.40		0.15	8c 末～ 9c		文献 8
	34	小原	2	1992	39 号	銅			鈴具	0.26	0.26	1.00	0.30	9c 前		文献 11
	35	小池	1	1990	25 号住	銅			鈴具	4.25	4.05	0.95	0.70	8c 末～ 9c 前	馬具の可能性あり	文献 9
	36	赤木山	3	1988	5 号住	石		暗緑	丸鞆	2.40	3.60	0.67	0.63			
8	37	神戸	-	1984	SB10	石	粘板岩	黒	巡方	(2.30)	(2.30)		0.80	9c 後～ 10c 後		文献 36
	38	三間沢川左岸	1	1987	16 号住	銅			巡方	3.10	3.20	1.03	0.35	9c 中	富寿神宝出土	文献 23
	39	三間沢川左岸	1	1987	43 号住	銅			鈴具	4.40	4.30	0.98	0.73	9c 前	床面出土	文献 23
9	40	三間沢川左岸	2	1988	111 号住	石	大理石	白＋斑点	巡方	3.70	3.90	0.95	0.70	9c 中	土器多い	文献 23
	41	三間沢川左岸	1	1987	110 号住	銅			鉈尾	3.50	3.70	1.06	0.42	9c 中	取付穴貫通、土器多い	文献 23
	42	三間沢川左岸	1	1987	110 号住	銅			鉈尾	3.50	3.80	1.09	0.34	9c 中	土器多い	文献 23
	43	三間沢川左岸	2	1988	126 号住	銅			巡方	2.90	3.10	1.07	0.30	9c 中		文献 23
10	44	三間沢川左岸	2	1988	133 号住	石	大理石	白＋斑点	巡方	3.80	4.10	0.93	0.65	9c 後		文献 23
	45	三間沢川左岸	2	1988	175 号住	銅			巡方	2.40	2.80	1.17	0.55	9c 後	遺物多量	文献 23
	46	三間沢川左岸	3	1988	包含層	銅			丸鞆	(1.80)	(2.00)		0.11	8c 後～ 9c	山形	文献 18
	47	三間沢川左岸	5	2011	287 号住	銅			丸鞆	2.77	1.78	0.64	3.40	9c 前	山形	文献 23
11	48	川西開田	3	1998	39 号住	石	黒色緻密安山岩	黒	巡方	3.10	3.50	0.89	0.64	10c 中		文献 19

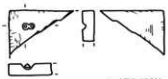
表 19　黒曜石製帯飾り出土一覧

	所在地	遺跡名	種類	長さ（cm）	幅（cm）	厚み（cm）	遺跡の性格	報告書
1	仙台市	中田南遺跡	丸鞆	1.90	3.20	0.60	奈良時代前半に計画的に造られた大集落が出現する。この集落は当時の役所と関連を持った人々が住んでいたと考えられているが、その後急速に衰退し、平安時代前半には小規模な集落となって 10 世紀には一時断絶する。	文献 44
2	高崎市	融通寺遺跡	巡方	1.90～	1.80～	0.60	7 世紀末から 8 世紀初頭までに出現した集落。度量衡遺物が出土し、寺院が想定される。	文献 42
3	小田原市	三ツ俣遺跡	丸鞆	3.00	4.95	0.90	大規模集落で、国府津（公的な外港）の可能性が示唆される。	文献 32
4	**松本市**	**県町遺跡**	**丸鞆**	**2.81**	**3.31**	**0.73**	**信濃国府推定地域の一つ**	**本次調査**
5	京都市	平安京左京八条三坊	巡方				平安京	文献 31
6	津市	替田遺跡	巡方	3.30	3.19	0.72	一般集落	文献 50
7	太宰府市	太宰府史跡（観世音寺跡）	丸鞆	2.20	3.40	0.70	第 119 次調査、太宰府政庁跡の東にあり、太宰府によって建立された寺院である。	文献 41
8	熊本市	二本木遺跡群	鉈尾			0.80	第 8 次調査、飽田国府推定地	文献 45

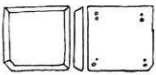
石製巡方



1（稲倉和田遺跡）

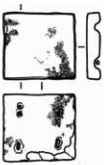


2（県町遺跡）

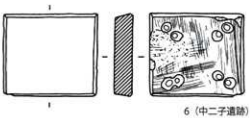


4（埋橋遺跡）

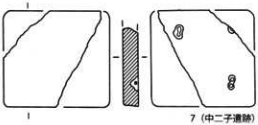
3（県町遺跡）



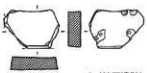
5（三の宮遺跡）



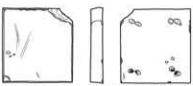
6（中二子遺跡）



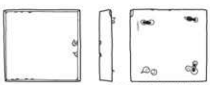
7（中二子遺跡）



8（神戸遺跡）



9（三間沢川左岸遺跡）



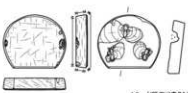
10（三間沢川左岸遺跡）

11（川西開田遺跡）

針金

石製丸鞆

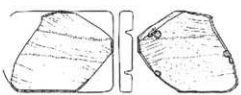
12（県町遺跡）



13（県町遺跡）

14（下神遺跡）

石製蛇尾

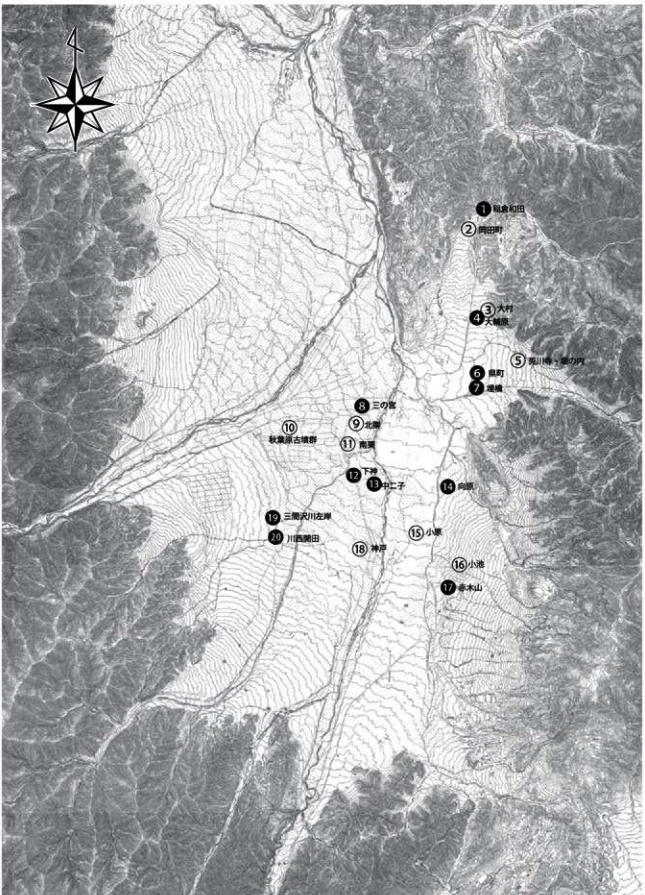


15（向原遺跡）

0　5cm

石器（1/2）

図 43　市内出土の石製帯飾り



スケール＝10 万分の 1

○に数字…金属製帯飾りのみ出土している遺跡　　●に数字…石製帯飾りも / のみ出土している遺跡

図 44　市内における帯飾り出土遺跡位置図

第２節　県町遺跡における集落の変遷について

1　集落の概観

本遺跡の中で報告書が既刊あるいは整理がある程度進んでいる調査について住居址、掘立柱建物跡、墓址、特殊遺構の遺構の帰属時期を整理した。弥生時代中期から中世に至るまでの間、遺構数の増減が大きく認められるものの、集落自体は継続的に維持していたことがわかった。

2　竪穴住居棟数の時期別変遷

集落の主体である竪穴住居址について、検出された数は合計 279 軒を数え、そのうち時期がある程度特定できる 205 軒について時期別推移をグラフ化することができた。図 45 を参照されたい。

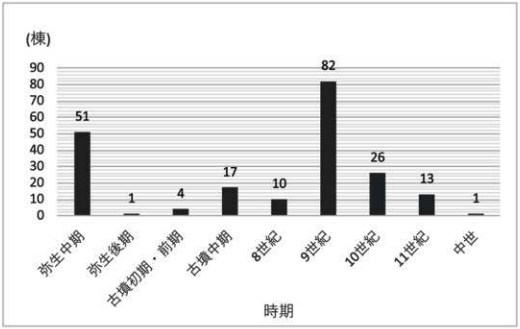


図 45　時期別住居址数

3　各期の様相と集落の変遷

(1)　弥生時代（図 46）

弥生時代に帰属する住居址は 52 軒を数え、そのうち 51 軒が中期後半で、後期は 1 軒のみであった。遺構の大多数は、北側（第 16 次調査地）と南東側（第 2･3 次調査地とその周辺）に集落が大きく二分される。集落の中央部分（第 17 次調査地）において礫床木棺墓や土坑墓が集中した墓域がみられ、その位置関係から南側の集落と関係すると考えられる。北側の集落についても後期初頭ではあるが、土器棺や木炭棺といった埋葬施設がみられる。

(2)　古墳時代（図 47）

検出された住居址数は弥生時代と比べて半分以下に減る。時期別にみると、初期・前期は 4 軒のみしか検出されなかったのに対し、中期になると 17 軒と増加する。住居址の分布は前時代と異なり、遺跡の南半でしか検出されていない。特に、第 5 次調査地と第 20 次調査地の間でまとまっており、第 21・22 次調査地において小規模なまとまりがみえる。後期では、住居址の検出は認められず、わずかに土坑やピットと共

に遺物が確認されているのみである。集落自体は途絶えてはいないものの、その規模は極めて縮小されてしまったと考えられる。

(3) 奈良・平安時代（図 48 ～ 50）

8 世紀では、10 軒の住居址しか検出されなかったが、9 世紀に入るとその数が激増し、82 軒を数えるまでになる。集落の範囲も合わせて広がりを見せる。第 5 次調査地を中心にまとまっていた住居址が、北及び東西方向に増加していることがわかる。細かい帰属時期まで特定できない住居址が多く、図 49 では反映できなかったが、9 世紀後半から住居址数が減少する傾向がみられ、10 世紀に入るとその数が 1/3 以下になる。10 世紀の住居址の分布傾向はほとんど変わらず、密度が低くなる。

(4) 中世（図 51）

10 世紀以降に始まった住居址の減少はさらに進み、中世に入るとわずかに遺構・遺物がみられるのみとなる。中世の遺構分布は遺跡範囲の東側と西側に分かれる。

4 古代集落としての県町遺跡

(1) 県町遺跡の変遷

本遺跡は、これまでの調査で弥生時代から遺構・遺物が確認されており、市内においては「伝統的な集落」の一つとして考えられている。調査数が増え、記録物の整理が進んでくるにつれ、上記に記したように「伝統的な集落」の実態がある程度みえてきた。集落の盛衰がはっきりと捉えられ、弥生時代中期と 9 世紀に帰属する住居址だけで全体の半分近くを占めるの対し、それ以外の時期では 10 世紀を除き 1 割に満たない。

(2) 松本市域の中の県町遺跡

松本市域全体に目を向けてみると、長期間集落が維持されている地域もあれば繁栄と衰退を繰り返す地域もみられる。文献 23 によると、古墳時代前期の 5 ～ 6 世紀において、女鳥羽川・薄川・田川（出川地域一帯以外は右岸のみ）流域と、市東部に遺構・遺物がみられ、これらが「伝統的な地域」である。7 世紀になると、島立地域周辺に集落が形成され始め、8 世紀には集落域がさらに西・南に拡大し、田川・奈良井川間エリア、東山山麓エリア、鎖川・奈良井川間エリアで次々と人が移り住む。9 世紀になると、市西部の三間沢川下流域にもいくつかの集落がつくられはじめ、「伝統的な地域」においても集落数が増加する。この時期が松本市域で遺跡数が最も多くなり、最も繁栄したとみることができる。9 世紀後半から 10 世紀にかけて、近隣での須恵器生産量が減少し、集落が衰退しはじめ、出川地域一帯、神林地域一帯、寿地域一帯では集落が途絶え、岡田地域北部や島立地域一帯でも減少が著しくなる。11 世紀になると、三間沢川下流域では集落がほぼ途絶え、逆に田川・奈良井川間エリアでは集落が増加する。この 10 ～ 11 世紀の間、「伝統的な地域」では状況を概ね維持しているが、10 世紀に途絶えた後に、10 世紀末～ 11 世紀に至って再び形成される集落もある。

このような市内遺跡の動向に本遺跡を当てはめてみると、弥生時代中期後半から人が住み始め集落を形成し、その後奈良時代まで集落の規模が縮小したが途切れなく続く。古墳時代においては、中期に向けて集落の規模が大きくなったが、後期に入ると集落としての形態を何とか維持していたものと考えられる。奈良・平安時代では、9 世紀に前半にかけて繁栄し、9 世紀後半から遺構数が減少するものの集落自体は細々と存続し中世に至ることがわかった。県町遺跡においては、弥生時代以降、集落の盛衰は見られるものの、中世まで継続的に存在していたことがわかる。

表 20　県町遺跡における竪穴住居址一覧

No.	調査次	平面形	主軸方向	規模 主軸(m)	規模 直行軸(m)	規模 現存床面積(㎡)	規模 推定床面積(㎡)	深さ(m)	床精度(m)	カマド 位置	カマド 形態	時期	備考
1	1	隅丸方形	不明	(4.60)	(4.40)			0.75	不明	中央か	地床炉か	古生中期末	焼失住居か
2	1	不明	不明					1.00	不明	不明	地床炉か	古生中期末	
3	1	長方形	不明	4.20	3.00	16.30		0.36	不明	東壁中央北寄り	石組	古代 7～13 期	
4	2	楕円形か	東西	(4.20)	4.30	11.90	24.30	0.04	60.6	不明		古生中期末	
5	2	楕円形か	N20° E	(5.90)	5.10	22.70		0.08	60.9	中央	石囲炉	古生中期末	
6	2	楕円形	N90° E	7.00	(3.20)		33.70	0.08	60.9	不明		古生中期末	
7	2	楕円形	N90° E	7.00	4.60	25.60		0.16	60.6	中央か		古生中期末	焼失住居か
8	2	楕円形	N70° E	6.90	4.80	22.20	25.30	0.20	60.6	中央	石囲炉	古生中期末	焼失住居
9	2	長方形	N60° W	6.00	5.00	25.50		0.32	60.4	中央西村字園	埋設炉	古墳初期	
10	2	不明	不明	(4.60)	(0.80)	5.70		0.24	60.5	不明		古墳初期	
11	2	不整方形	N85° E	5.00	5.00	20.40		0.24	60.1	なし		古生中期末	
12	2	隅丸方形	N 0°	5.70	5.40	23.80	29.20	0.48	60.1	中央北村字園	埋設炉	古墳初期	
13	2	隅丸長方形	N25° W	6.70	5.40	(7.00	35.50	0.40	60.1	中央	地床炉	古生中期末	12 住以より平瓶
14	2	隅丸長方形	N 0° E	(6.30)	5.50	2.60	29.70	0.28	60.2	中央	地床炉	古生中期末	柱穴は全体の 1/10 程度か
15	2	隅丸長方形	N85° W	5.30	(4.80)	21.90		0.24	60.1	なし		古生中期末	
16	2	楕円形	N60° E	(10.50)	8.40	50.30	94.30	0.36	60.4	不明		古生中期末	焼失住居
17	2	楕円形	N75° W	(5.00)	(4.60)	13.30	22.00	0.24	60.5	中央	地床炉	古生中期末	
18	2	楕円形	N20° E	5.90	4.50	12.30	22.30	0.32	60.4	不明		古生中期末	焼失住居
19	2	楕円形	N90° E	(5.70)	(6.50)	12.80		0.16	60.5	不明		古生中期末	
20	2	隅丸方形か	不明	(5.70)	(3.10)	8.50		0.08	60.5	中央か	地床炉	古生中期末	
21	欠番												
22	3	不明	不明							不明		古代 11 期	多数の土器が出土したため住居址と推定
23	3	隅丸方形	N10° E	5.20	4.90	19.30	22.50	0.12	60.7	中央北東寄	地床炉	古生中期末	
24	3	隅丸方形	N 0°	4.90	4.60	19.10		0.24	60.8	中央	地床炉	古生中期末	
25	3	不明	不明	4.40	(1.40)	4.10		0.08	60.7	不明		古生中期末～末	
26	3	長方形か	不明	(3.20)	(3.50)	3.00		0.16	60.7	不明		古生中期末	
27	3	不明	不明	(4.20)	(2.00)	11.10		0.08	60.7	不明		古生中期末	
28	3	楕円形か	N50° E	(6.20)	(4.00)	12.50	18.80	0.32	60.9	中央	地床炉	古生中期末	
29	3	隅丸方形か	N75° W	5.00	(4.40)	5.30	17.80	0.20	60.5	不明		古生中期末	
30	3	不明	不明	(1.70)	(0.80)	0.60		0.12	60.4	不明		古生後期か	
31	3	隅丸長方形	N65° E	(5.30)	4.60	17.60	21.50	0.20	60.3	西村字園	地床炉	古墳初期	
32	3	不明	不明	(2.10)	(1.20)	1.50		0.16	60.3	不明		古生中期末	
33	3	不明	不明	(3.40)	(1.10)	3.30		0.12	60.4	不明		古生中期末	
34	3	不明	不明	(4.90)	(1.80)	5.90		0.44	60.3	不明		古生中期末	
35	3	不明	不明	(1.90)	(0.80)	1.00		0.64	60.0	不明		古生中期末	
36	3	不明	不明	(3.20)	(3.10)	7.10		0.52	60.7	不明		古生中期末か新	
37	3	不明	不明						60.6	不明		古生中期末	調査区東壁セクションで確認
38	3	不明	不明						60.0	不明		古生中期末	調査区東壁セクションで確認
39	3	不明	不明	(3.60)	(1.40)	4.70		0.08	60.5	不明		古生中期末より古	
40	3	不明	不明							不明		古生中期末	遺物出土する板面まで堀らず
41	3	不明	不明							不明		古生中期末	遺物出土する板面まで堀らず
42	3	長方形か	N85° W	4.20	(3.70)	9.90	14.40	0.28	60.0.8	不明		古生中期末	焼失住居
43	3	長方形か	N90° E	(7.00)	4.80				60.0	東壁北寄	埋設炉	古墳初期	1/3 程検出のみ
44	4	方形	N10° E	4.30	4.00	15.30		0.48	60.8	北壁西寄	カマド	古代 9 期	
45	4	隅丸長方形か	不明	2.00	6.00	10.80		0.32	60.9	不明		古代 8～10 期	
46	4	方形か	不明	2.10	4.70	9.30		0.32	60.0	不明		古代 7～8 期か	
47	4	方形か	不明	3.90	5.20	18.50		0.32	60.2	不明		古代 11～12 期	
48	4	不整方形か	N15° E	5.40	5.40	18.50	26.80	0.24	60.2	不明		古代 11・12 期	
49	4	長方形か	N15° E	5.60	4.30	14.60		0.16	60.2	不明		古代 13・14 期	
50	4	長方形か	不明	(5.30)	(4.70)	16.00		0.52	60.4	不明		古代 7 期と 15 期	遺物はまとまりなく、時期を決めかねる
51	4	方形か	N90° E	(2.40)	3.90	8.60	13.40	0.24	60.4	東壁北寄	カマド	古代 14 期	
52	4	隅丸長方形か	不明	(3.80)	3.70	8.60		0.12	60.2	不明		古代 13・14 期か	
53	4	不明	不明	(2.80)	(1.10)	2.40		0.60	60.0	不明		古代 11 期か	
54	4	不明	不明	(1.90)		1.50		0.20	60.1	不明		古代 11 期か	
55	4	不明	不明						60.0	不明		古代 7 期	広げ 4×1 m の範囲で確認されたのみ
56	4	不明	不明	(3.20)	(1.20)	3.20		0.28	60.0	不明		平安	遺物少量だが、縄文かも不安と推定
57	5	方形	N25° E	3.10	2.80	7.80		0.12	60.0	北壁中央東寄	カマド	古代 7 期	
58	5	方形	N1 ·10° E	4.10	3.80	14.20		0.36	60.9	東壁中央	カマド	古代 7 期	
59	5	方形	N70° W	3.30	(3.50)	9.90	10.50	0.20	60.2	不明（内壁か）		古代 3 期か	
60	5	方形か	不明	5.30	5.40	16.20		0.60	60.3	不明		古代 7・8 期か	
61	5	隅丸方形か	不明	5.40	(2.80)	12.00	23.70	0.24	60.1	不明		古墳中期	
62	5	長方形	N10° E	3.90	(3.30)	11.40		0.12	60.2	なし		古代 8 期	
63	5	隅丸方形か	不明	4.50	1.40	5.30	19.10	0.40	60.7	不明		古墳中期か	
64	5	隅丸長方形	N80° W	5.40	4.80	18.20	23.00	0.52	60.8	西壁中央	カマド	古墳中期	
65	5	方形か	N85° W	(4.70)	5.20	19.50		0.12	60.2.4	不明		古代 2・3 期	
66	5	不明	不明	(0.90)	(2.00)	1.30		0.14	60.2.2	不明		弥生平安	全体の 1/36 程度の検出
67	5	不整方形	N70° W	3.70	3.80	12.10		0.28	60.2.2	なし		古代 5 期	
68	5	方形	N1 ·15° E	(4.90)	5.00	12.10	21.70	0.40	60.2.1	東壁中央南寄	カマド	古代 6・7 期	
69	5	方形か	N90° E	5.20	5.70	27.90	29.80	0.48	60.2.0	東壁中央南寄	カマド	古代 3・4 期	
70	5	方形	N80° W	3.10	3.00	8.80		0.32	60.0.9	西壁中央南寄	カマド	古代 6・7 期	
71	5	隅丸方形か	不明	6.10	(2.20)	12.20	48.80	0.44	60.2.3	不明		古墳中期か	
72	5	方形	N100° E	4.00	3.80	12.20		0.52	60.1.8	東壁中央	カマド	古代 6・7 期	
73	5	方形	N100° E	4.80	4.70	16.70	19.40	0.44	60.2.1	東壁中央北寄	カマド	古代 7・8 期	
74	5	隅丸方形か	N70° W	5.00	(4.20)	18.10		0.52	60.2.6	西壁中央	カマド	古代 10・11 期	
75	5	不明	不明	(2.00)	(1.80)	6.50		0.20	60.2.3	不明		古代 7・8 期	
76	5	長方形か	N10° E	5.10	5.40	25.40	25.60	0.48	60.2.0	東壁中央南寄	カマド	古代 7 期	
77	5	不明	不明	(3.90)	(1.70)	5.10		0.28	60.2.3	不明		古代 3～5 期か	
78	5	不明	不明	(1.80)	(1.30)	1.70		0.08	60.2.4	不明		古生中期末	北東部のみ検出
79	5	不明	不明	(4.50)	(4.10)	16.40		0.40	60.0.6	不明		古生中期末	
80	5	不明	不明	(4.50)		2.80		0.15	60.2.1	不明		古代 8 期か	
81	5	不明	不明	(5.00)	(2.00)	9.60		0.56	60.1.6	不明		古代 7 期	
82	5	不明	不明	(2.30)		2.20		0.24	60.2.0	不明		古代 9 期	
83	5	長方形	不明	(3.20)	3.50	9.20		0.36	60.1.9	不明		古代 5 期か	
84	6	不明	不明	(3.80)	(1.30)	3.50		0.12	60.3.2	不明		古代 14 期	
85	6	不明	不明	(3.20)		1.00		0.15	60.3.1	不明		古代 9 期か	
86	7	不明	不明	(1.30)	(1.20)	0.90		0.29	59.8	不明		古代 6 期	
87	7	不明	N90° E	不明	(1.40)	2.00		0.35	不明	東壁	カマド	古代 8 期	土師方面はカマドの袋部から推定
88	8	不明	不明	3.10	(1.50)	3.60		0.21	60.3.2	不明		古代 8 期	
89	8	不明	不明		(0.60)	0.50		0.15	60.3.1	不明		古代 5～7 期か	
90～94　欠番													
95	11	隅丸方形	N85° E	5.08	4.36	19.10		0.20	59.1	東壁中央	石組	古代 9 期	
96	11	隅丸方形	N2° W	4.16	3.84	12.60		0.24	59.9	なし		古代 7・8 期	
97	11	隅丸方形	N80° E	(3.64)	(2.92)	7.90		0.26	59.1	東壁中央	不明	古代 8 期	
98	11	不明	不明	3.72	(1.08)	2.20		0.22	59.0	不明		不明	
99	12	隅丸方形か	N7° E	2.72	(1.12)	1.50		0.22	60.3.2	不明		古代 7 期	
100	12	不明	不明	(3.64)	(1.96)	5.44		0.32	60.3.0	不明		古代 6 期	

No.	調査次	平面形	主軸方向	遺構			規模		カマド		時期	備考
				主軸(m)	西行軸(m)	残存床面積(㎡)	推定床面積(㎡)	深さ(m)	床標高(m)	位置	形態		
101	12	隅丸方形	N1°E	3.06	2.80	6.64		0.16	603.4	なし		弥生中期末	住居址ではない可能性有
102	12	方形か	N85°W	4.32	(4.02)	15.14		0.37	603.2	不明	-	古代 8 期	
103	12	不明	N5°W	3.02	(1.08)	2.47		0.05	603.3	不明	-	古代 7 期	
104	12	長方形か	N103°E	(3.48)	2.85	7.20		0.12	603.0	東壁中央	石組粘土	古代 7 期	
105	12	方形か	N89°W	4.00	(3.60)	8.85		0.16	603.2	西壁中央	粘土	古代 7 期	
106	12	方形か	N75°W	(1.64)	(1.05)	0.82		0.05	603.4	不明	不明	古代 7 期以降	
107	12	長方形	N5°W	2.72	2.52	5.08		0.11	603.4	なし		古代 13 期	
108	欠番												
109	12	長方形	N67°W	4.36	3.18	10.23		0.24	603.5	北西隅	石組粘土	古代 8 期	
110	12	方形	N100°E	3.76	3.44	9.82		0.16	603.3	東壁中央	石組粘土	古代 7 期	
111	12	方形	N67°W	3.94	3.72	11.45		0.18	603.4	西壁中央	粘土	古代 7 期	
112	欠番												
113	12	長方形か	N104°E	2.56	(1.56)	5.78		0.15	603.2	東壁中央	不明	古代 7 期	
114	12	方形	N102°E	3.96	3.48	10.61		0.13	603.4	東壁中央	石組粘土	古代 7 期	
115	欠番												
116	12	長方形か	N111°E	4.88	(1.84)	4.66		0.10	603.6	東壁か	不明	古代 8 期	
117	12	方形	N111°E	4.70	4.56	15.23		0.21	603.6	東壁中央	石組粘土	古代 7 期	
118	12	方形	N111°E	4.16	3.88		12.03	0.20	603.5	東壁中央	粘土か	古代 7 期	
119	12	方形	N13°E	3.70	3.48		11.84	0.08	603.5	なし	-	古代 14 期前後	
120	12	長方形	N5°E	2.54	2.12	4.32		0.05	603.6	なし	-	不明	
121	12	方形	N104°E	4.02	3.88	13.12		0.08	603.7	北側隅	粘土	古代 13 期	
122	12	方形か	N22°E	3.88	(2.80)	6.31		0.24	603.2	東壁中央	石組粘土	古代 7 期	
123	12	方形	N71°W	4.26	4.22		14.84	0.23	603.1	西壁中央	石組粘土	古代 7 期	
124	12	方形か	N16°E	(3.44)	(1.52)	2.30		0.14	603.4	不明	-	不明	
125	12	不明	不明	(1.92)	(0.60)	0.42		0.13	603.3	不明	-	古代 7・8 期	
126	12	長方形	N15°E	3.54	2.88	9.37		0.10	603.4	なし	-	古代 8 期	
127	12	隅丸方形か	N20°E	4.16	(2.12)		5.86	0.06	603.2	不明	-	古代 8 期	
128	12	長方形か	N23°E	3.24	2.92	8.04		0.14	603.6	なし	-	古代 8 期	
129	12	方形か	N113°E	4.68	3.84		15.22	0.04	603.8	東壁中央	石組粘土	古代 7 期	
130	12	方形	N18°E	3.66	3.54	10.86		0.11	603.6	不明	-	中世か	
131	12	長方形	N17°E	3.90	3.24		10.79	0.36	603.7	不明	-	不明	
132	12	方形か	N15°E	(2.76)	(0.80)	1.49		0.11	603.8	不明	-	不明	
133	12	方形か	N3°E	3.28	(0.88)	1.43		0.16	603.2	不明	-	不明	
134	12	隅丸方形か	N30°E	3.56	(3.04)	6.39		0.09	603.6	不明	-	不明	
135	12	隅丸方形か	N18°E	2.66	(1.5)	2.29		0.22	603.5	不明	-	古代 14 期前後	
136	12	不明	N72°E	(3.42)		1.34		0.16	不明	西壁中央	石組粘土	不明	
137	12	不明	不明	(1.16)	(0.62)	0.82		0.08	603.3	不明	-	不明	
138	欠番												
139	14	方形	N87°W	(5.20)	5.00	19.83		0.25	596.3	西壁中央	はりだし石組	古代 6 期	
140	14	不明	不明	(3.20)	(1.94)	5.43		0.35	596.3	不明	-	古代 6・7 期	
141	14	隅丸方形か	N86°W	4.88	(4.16)	11.55		0.10	596.3	西壁	壁溝か	古代 5・6 期	
142	14	隅丸方形か	N85°W	(1.52)	(4.88)	2.23		0.40	596.2	西壁中央付近	不明	古代 5・6 期	
143	欠番												
144	14	隅丸方形	N10°E	3.60	(1.56)	4.39		0.40	596.3	不明	-	古代 8 期以降	
145	14	不整方形か	N12°E	(2.56)	3.02	3.91		0.16	596.2	不明	-	古代 5～8 期	
146	14	隅丸方形	N4°E	3.50	(1.82)	4.46		0.40	596.2	不明	-	古代 8 期	
147	14	長方形か	N87°W	(2.38)	(0.88)	1.28		0.24	596.4	不明	-	不明	
148	14	隅丸方形か	N68°W	(3.84)	3.80	7.20		0.24	596.2	不明	-	古代 8・9 期	
149	14	不明	不明	(2.40)	(1.57)	1.58		0.18	596.3	不明	-	古代 8・9 期	
150	14	不明	N12°E	4.72	(4.08)	11.70		0.25	596.2	不明	-	古代 7・8 期	
151	14	不明	不明	(1.16)	(2.88)	1.39		不明	不明	不明	-	古代 14 期前後	
152	14	不明	不明	(1.48)	(2.12)	2.36		0.18	596.2	不明	-	古代 7・8 期	
153	14	隅丸方形か	N80°W	(3.36)	(3.12)	7.25		0.20	596.4	西壁か	不明	古代 6 期	
154	14	隅丸方形か	N6°W	4.60	(4.52)	22.67		0.25	596.2	北壁中央	石組粘土	古代 6 期前後	
155	14	長方形か	N8°W	(3.20)	(5.36)	10.78		0.30	596.3	東壁床面	不明	古代 8 期	
156	14	隅丸方形	N88°W	3.64	4.04	8.80		0.24	596.4	西壁中央	石組	古代 10・11 期	
157	14	不明	不明	(2.94)	(3.36)	5.23		0.16	596.3	北側面	-	古代 7・8 期	
158	14	不明	不明	3.18	(1.22)	2.12		0.20	596.3	中央	-	古代 8・9 期	
159	14	不明	N3°W	(2.53)	(1.56)	3.48		0.16	596.5	不明	-	古代 6・7 期	
160	14	長方形か	N9°W	(3.16)	(1.73)	3.56		0.12	596.2	北壁付近か	不明	古代 8・9 期	
161	15	隅丸方形か	N81°W	4.20	4.50	16.39		0.12	604.5	東壁中央	石組か	6c 後	
162	15	隅丸方形か	N13°E	3.30	3.00	8.41		0.26	604.3	なし	-	6c 中葉～後半	
163	16	方形	N91°E	3.36	3.30	8.58		0.21	-	東壁中央	石組	古代 7 前～8 古期	
164	16	不整長方形	N2°E	6.50	5.48	21.91		0.34	-	なし	-	古代 8・9 期前	
165	16	方形	N10°W	4.36	4.32	14.73		0.19	-	なし	-	古代 7 期	
166	16	不整形	N7°E	4.50	2.80	9.78		0.20	-	なし	-	古代 7・9 期	大型土坑の切り合いか？
167	16	隅丸長方形か	N11°E	5.03	4.56	16.80		0.16	-	なし	-	古代 12 期	
168	16	方形か	N4°E	3.75	(1.08)	6.36		0.16	-	不明	-	古代 8 前～9 期	
169	16	不整長方形か	N94°E	6.42	5.54	23.14		0.41	-	東壁	不明	古代 9 前～10 古期	
170	16	不整方形か	N13°W	2.24	(2.44)	4.24		0.32	-	不明	-	古代 8 期	
171	16	方形か	N2°E	3.78	(2.88)	9.69		0.24	-	不明	-	古代 7 前～8 古・9 新期	
172	16	不整方形	N28°E	5.45	4.48		16.68	0.30	-	なし	-	古代 9 期	
173	16	隅丸長方形か	N10°E	(4.20)	4.02	12.34		0.24	-	不明	-	古代 11 期	
174	16	方形	N4°E	4.47	3.64		15.72	0.08	-	不明	-	古代 10 古・11 期	
175	16	方形か	N5°E	5.50	(2.62)	10.99		0.22	-	北壁中央	石組	古代 7・9 前～10 古期	
176	16	不整方形	N3°E	2.98	2.75	6.28		0.11	-	なし	-	古代 8 期古・10 期	
177	16	方形か	N2°E	5.36	(3.38)	5.80		0.32	-	不明	-	古代 7 前～8 古期	
178	16	長方形か	N4°E	(5.47)	4.02	16.30		0.26	-	不明	-	古代 7 前～8 古期	
179	16	方形	N44°E	3.08	3.04	7.20		0.28	-	北東隅	石組	古代 7 前期	
180	16	方形か	N2°E	3.36	(1.64)	4.08		0.24	-	不明	-	古代 8 期	
181	16	方形か	N10°W	4.18	(2.16)	7.12		0.14	-	不明	-	古代 10 期	
182	16	長方形か	N5°E	5.40	(4.54)	17.43		0.40	-	なし	-	古代 9 期	
183	16	方形	N6°E	5.58	(3.53)		25.87	0.24	-	なし	-	古代 10 期・7 新期混ざる	
184	16	方形か	不明	不明	不明	-	-	不明	-	不明	-	古代 8 古期・13 期混ざる	
185	16	不明	不明	不明	不明	-	-	不明	-	不明	-	古代 8・9 期	
186	16	方形	N53°W	4.87	4.53		17.80	不明	-	北西隅	石組	古代 10 期	
187	16	不明	不明	不明	不明	-	-	不明	-	不明	-	不明	
188・189	欠番												
190	16	方形	N5°E	(3.02)	(2.15)	7.32		0.34	-	不明	-	古代 7 古期	
191	16	不整方形か	N46°E	3.64	(2.47)	6.44		0.19	-	北東隅か	不明	古代 8 新期	
192	16	不明	N16°W	4.92	(1.95)	8.73		0.08	-	不明	-	古代 7 期	
193	16	方形か	N3°E	(3.97)	(3.82)	10.52		0.53	-	不明	-	古代 6 古・7 新期	
194	16	方形か	N86°E	(3.60)	4.24	12.66		0.32	-	東壁中央	石組	古代 8 期	
195	16	方形か	N90°E	(3.35)	4.13	10.90		0.28	-	東壁中央	石組	古代 12 期	
196	16	方形か	N9°W	6.05	(5.15)		25.26	0.46	-	不明	-	古代 11・12 期以降	
197	16	不整方形か	N53°E	5.60	(4.68)	17.75		0.25	-	北東隅	不明	古代 14 期	
198	16	不明	N8°E	3.75	(2.71)	3.49		0.40	-	不明	-	古代 9 期	
199	16	方形か	N5°E	(2.34)	(1.87)	3.07		0.23	-	不明	-	古代 7 期	
200	16	方形か	N8°E	6.48	(4.30)	18.59		0.19	-	不明	-	古代 7 新期	

No.	調査次	平面形	土師内面	土師外面	遺存率(%)	残存床面積(㎡)	推定床面積(㎡)	深さ(m)	床標高(m)	カマド 位置	形態	時期	備考
201	16	長方形か	N14°E	(2.44)	(2.14)	3.98		0.60	-	不明	-	古代？古～前期	
202	16	方形か	N126°E	5.98	(4.58)	23.33		0.48	-	南東壁	石組	古代 8 前期前段・9 前～10 期	
203	16	方形か	N3°E	2.28	1.16	2.04		不明	-	不明	-	古代 8 前～9 期	
204	16	方形か	N0°E	5.84	(3.00)	13.06		0.56	-	不明	-	古代 8 前～9 ②土 10 期前後	
205	16	方形か	N1°E	(3.21)	(2.06)	9.41		不明	-	北壁中央	石組	古代 7・9 期	
206	16	長方形	N145°W	4.80	(3.35)		14.97	0.44	-	不明	-	202 ①土 9 前	
207	16	方形	N5°W	5.28	(4.93)		22.91	0.17	-	不明	-	古代 13 期以降	
208	16	方形か	N38°E	2.70	(1.83)	4.11		0.09	-	北東隅	石組	古代 14 期	
209	16	不明	N14°E	(3.40)	(1.21)	2.82		0.35	-	不明	-	古代 8 前～9 期	
210	16	不明	N47°E	(4.48)	(1.78)	6.26		0.20	-	北東隅	石組	古代 8 期か	
211	欠番												
212	16	不明	不明	不明	不明			不明	-	北東隅	石組	古代 8・9 期	
213	16	長方形	N125°W	(6.18)	5.83		33.78	0.41	-	北東隅	不明	古代 13 期	
214	16	方形	N71°E	5.08	4.41		18.00	0.50	-	東壁北寄り	石組	古代 11・15 期	
215	16	方形か	N10°E	(2.82)	(2.25)	2.82		0.31	-	不明	-	古代 10 期か	
216	16	楕円形	N6°E	5.75	4.44	18.63		0.27	-	なし	-	奈良中期後半	
217	16	楕円形か	N 13°E	(2.54)	(0.54)	40.12		0.22	-	なし	-	奈良中期後半	
218	16	楕円形	N0°W	6.19	4.27	19.85		0.23	-	なし	-	奈良中期後半	
219	16	不明	不明	不明	不明			不明	-	不明	-	奈良中期後半	
220	16	楕円形か	N10°E	(6.84)	(4.22)	22.10		0.33	-	不明	-	奈良中期後半	
221	17	隅丸方形？	N10°W	3.2	(0.6)	(3.835)		0.25	599.25	不明	-	平安	
222	17	円形？	N 8°W	(3.7)	(1.6)	(6.647)		0.1	599.2	東壁	-	平安	
223	17	方？長？	N9°W	3.3	(1.1)	(3.014)		0.1	599.2	東壁	石組	平安	溝跡に切られる
224	17	方？長？	N6°W	(3.2)	(1.7)	(4.125)		0.3	599	東壁？	-	平安	カマド、焼土範囲のみ
225	17	方？長？	不明	6.1	(4.9)	(22.351)		0.2	598.8	西壁	-	平安	南西部破壊
226	17	方？長？	N 7°W	4.3	(2.9)	(10.118)		0.2	599.2	北壁	-	古代？期	
227	17	方？長？	N4°W	5.5	(3.3)	(9.94)		0.2	599.2	東壁南寄り	-	平安	焼土のみ、礫多量
228	17	方？長？	N4°W	(3.0)	(2.8)	(10.595)		0.4	599.4	東壁南寄り	-	古代 6 期	
229	17	不明	不明							西壁	-	平安	東機側壁やカマド以外破壊
230	17	隅丸方形	N0°E	3.6	3	(8.819)		0.15	599.3	東壁	-	平安	
231	17	隅丸方形	N0°E	3.9	4	(15.323)		0.25	599.2	東壁	-	平安	
232	17	方？長？	N10°W	5.4	(2.4)	(10.552)		0.3	599.2	東壁	-	平安	
233	17	方？長？	N10°W	(2.8)	(2.0)	(2.183)		0.3	599.2	東壁	-	平安	
234	17	方？長？	N5°W	3.5	(1.1)	(3.382)		0.4	600.8	不明	-	平安	
235	17	方？長？	N 9°W	3.8	(1.15)	(3.772)		0.6	600.7	不明	-	平安	焼床一部残存・竈上中に大礫多量
236	17	方？長？	N 8°W	4.2	(1.05)	(3.558)		0.5	601.2	不明	-	平安	
237	17	不明	不明							東壁？	-	平安	カマドのみ検出
238	17	方？長？	N75°E	4.5	(1.4)	6.053		0.3	600.85	東壁？	-	平安	
239	17	円形？方？	N75°E	4.25	(1.4)	5.425		0.25	600.25		-	古墳中期	
240	17	方？長？	N87°E	5.65	(1.35)	5.859		0.45	600.4		-	古墳中期	北壁際のみ調査
241	17	方？長？	N88°E	3.6	(0.75)	1.216		0.25	600.6		-	不明	
242	17	方？長？	N84°E	(7.95)	(1.4)	8.659		0.45	601	東壁	石組	古代 6 期	
243	17	方？長？	不明	(4.5)	(1.45)	4.55		0.3	601.2		-	古墳中期	
244	17	方？長？	N82°E	(4.8)	(1.4)	5.803		0.35	601.15		-	古代 6 期	
245	17	円～方	N 9°E	5.8	(3.0)	(13.896)		0.3	601.3	不明	-	奈良中期	
246	17	方？長？	N0°E	(4.0)	(2.5)	8.784		0.25	601.2	南東 ①土	石組	平安	
247	17	方？長？	N14°E	4.2	(2.2)	(10.226)		0.45	601.2	北壁南寄	石組	平安	床面上で炭化材出土
248	17	方	N22°E	4.4	4.0	(7.364)		0.1	600.3	不明	-	平安	
249	17	方？長？	N5°E	4.4	(1.2)	(3.908)		0.3	601.1	不明	-	古代 6 ～ 8 期	
250	17	方？長？	不明	(3.4)	(0.6)	(0.808)		0.3	601.25	不明	-	平安	
251	17	方？長？	不明	(3.3)	(0.8)	(2.321)		0.65	601.1	不明	-	古代 6 ～ 8 期	
252	17	不明						0.15	601.05		-	奈良	
253	17	方	N 1°E	5.1	4.7	(19.049)		0.3	601.05	東壁地山側寄り	粘土敷	古墳	
254	17	方？長？	N7°W	(4.2)	(1.5)	(7.048)		0.2	601.2	不明	-	古代 6 ～ 8 期	
255	17	方？長？	N 5°W	(3.5)	(0.8)	(2.453)		0.5	601.2	東壁	石組	平安	
256	17	方？長？	不明	(2.0)	(0.4)	(1.19)		0.45	601.15	不明	-	平安	
257	17	不明						0.55	601.25	壁面	-	平安	カマドのみ検出
258	17	方？長？	N4°W	(3.2)	(1.9)	(3.981)		0.15	601.3	不明	-	奈良	
259	17	不明	不明	(1.1)	(0.5)	(0.587)		0.3	601.2	北壁	-	平安	
260	17	方？長？	N0°E	(2.0)	(1.9)	(3.705)		0.25	601.15	不明	-	古代 6 ～ 8 期	
261	17	不明	N3°W	(2.2)	(0.5)	(1.586)		0.25	601.5	不明	-	平安	
262	20			(1.2)				0.25	601.6		-	古代	
263	20	（方形）？	N4°W	4.0	(2.0)	(7.16)		0.55	601.4	東壁	-	古代 8 期前後	
264	20	（方形）？	N4°W	(2.7)	(2.0)	(4.77)		0.4	601.6		-	古代 6 ～ 10 期	
265	20	（楕円形）？	不明	(6.0)	(3.4)	(5.88)		0.15	599.65		-	奈良中期後半	埋蔵炉と掘形土
266	20	（隅丸方形）？	N2°E	4.0	(1.6)	(5.75)		0.4	601		-	奈良	
267	20	隅丸方形	不明	(6.8)	(1.3)	(5.22)		0.4	600.7		-	古墳中期	
268	20	隅丸方形	不明	(4.2)	(1.5)	(4.33)		0.3	600.85		-	古墳中期	
269	20			3.65				0.2	601.1		-	古代	
270	20			5.4				0.2	601.1		-	古代	
271・272	欠番												
273	20	（方形）	N 5°W	6.1	(0.3)	(2.48)		0.25	599.09		–	古墳中期	
274	20	（楕円形）？	不明	(2.6)	(1.4)	(1.86)		0.25	598.9	–	–	古墳中期	
275	20	（楕円形）？	不明	(2.1)	(0.8)	(1.16)		0.2	598.9		–	古墳中期	
276	20	方形	N 8°W	9.8	(1.0)	(15.3)		0.2	598.99		–	古墳中期	
277	20	（方形）？	不明	(1.7)	(0.45)	(3.3)		0.2	599.04		–	古墳中期	
278～301	欠番												
302	21	楕円形	N74°W	(4.4)	(2.56)	8.785		0.32	596.7		-	奈良中期後半	
303	21	（方形）	N3°E	(4.32)	(4.16)	15.302		0.35	597.2	北壁中央	カマド	古代 11 ～ 12 期	
304	21	（方形）	N1°W	(3.4)	(1.2)	1.676		(0.2)	597.6		–	古代 7 ～ 9 期	
305	21	（方形）	N93°E	3.22	(1.48)	4.312		0.35	597.6		–	古代	古代住居と重複する可能性有
306	21	（楕円形）	N39°W	4.48	(2.4)	8.934		0.26	596.8		-	奈良中期後半	
307													欠番
308	21	（隅丸方形）	N88°W	(3.44)	(2.72)	8.167		0.19	597.1	中央西寄り	縁石敷成形	古墳前期	
309	21	（方形）	N1°W	(3.6)	(1.68)	6.433		0.45	596.9		-	古墳中期	
310	22	隅丸方形？	N 89°W	(4.5)	(1.5)	(4.617)		0.16	596.9		-	古代 6 期	土師集中
311	22	隅丸長方形	N0°W	5.3	4.6	23.338		0.2	596.48		-	古代？期か～前	
312	22	隅丸方形？	N 86°W	4.8	(1.3)	(5.76)		0.32	596.44		-	古代？期か	調査区に切られる
313	22	方形	N 92°W	(4.5)	3.8	(13.236)		0.25	596.5		-	古代 6 ～ 7 期か	土師集中
314	22									石組か	カマドか	古代？期か～8 期か	カマドのみ
315	22	隅丸方形？	N 75°W	3.6	(1.8)	(4.568)		0.15	596.86		-	古代？期か～8 期か	土師集中
316	22	隅丸方形？	N 88°W	(3.0)	(2.4)	(6.97)		0.4	596.82		-	不明（古墳か）	行灯石敷内？
317	22	隅丸方形？	N 3°E	(4.8)	(0.6)	(2.19)		0.1	596.58		-	不明（古墳か古代？期か～8 期か）	
318	22	隅丸方形？	N 0°W	(4.2)	(3.4)	(11.394)		0.16	596.5		-	古代？期か	
319	22	隅丸方形？	N 6°E	3.2	(2.4)	(6.893)		0.1	596.86		-	古代？期か	
320	22	隅丸方形？	N 90°E	4.2	(1.4)	(4.918)		0.56	596.5		-	奈良中期後半	
321	22	楕円形？	不明	(4.4)	(3.8)	(11.978)		0.32	596.26		-	不明（弥生～平安）	
322	22	隅丸方形	N0°E	4.9	4.3	18.897		0.05	596.1		-	奈良中期後半	

（ ）内数値は現存値、〈 〉内数値は推定値を表す

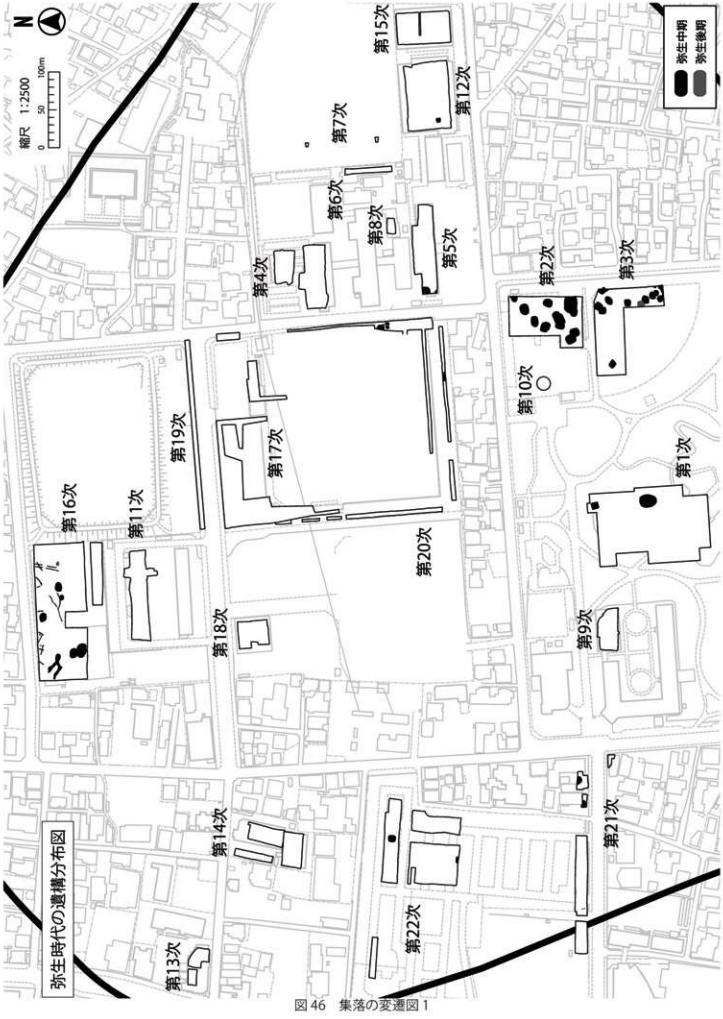

弥生時代の遺構分布図
縮尺 1:2500
0 50 100m
N
弥生中期
弥生後期
第1次
第2次
第3次
第4次
第5次
第6次
第7次
第8次
第9次
第10次
第11次
第12次
第13次
第14次
第15次
第16次
第17次
第18次
第19次
第20次
第21次
第22次

図46　集落の変遷図1

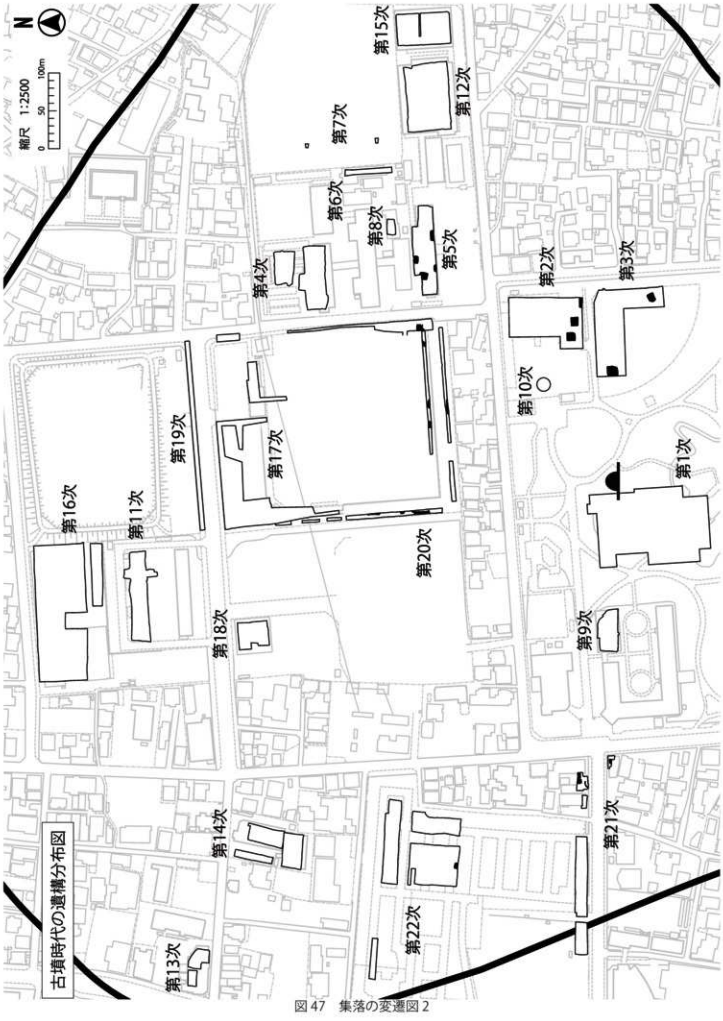

古墳時代の遺構分布図
縮尺 1:2500
0 50 100m
N
第1次
第2次
第3次
第4次
第5次
第6次
第7次
第8次
第9次
第10次
第11次
第12次
第13次
第14次
第15次
第16次
第17次
第18次
第19次
第20次
第21次
第22次

図 47　集落の変遷図 2

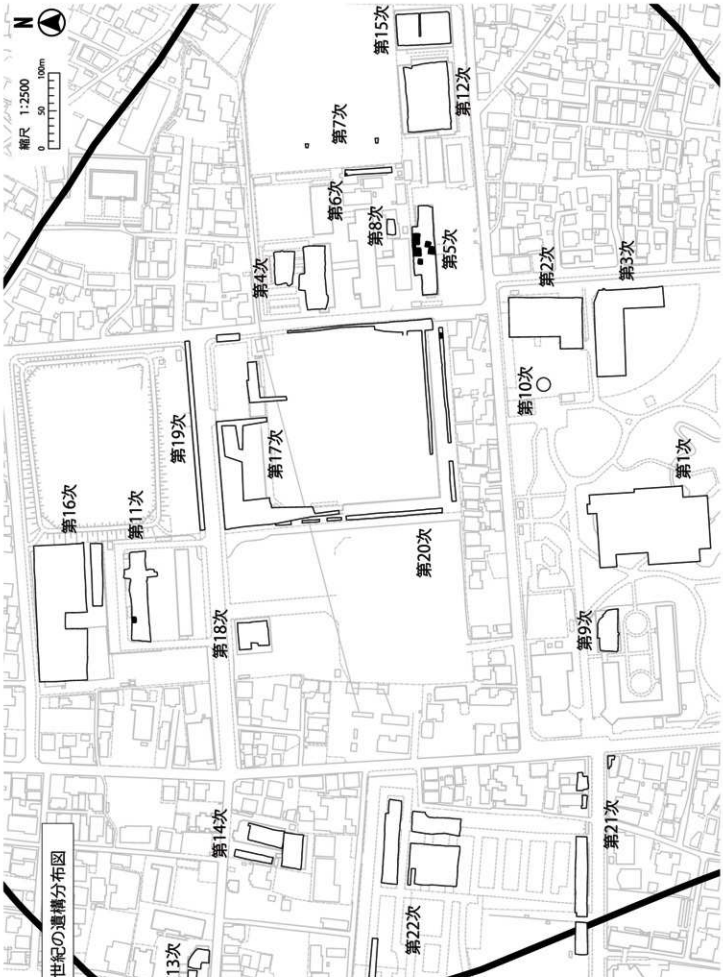

8世紀の遺構分布図
縮尺 1:2500
0 50 100m
N
第1次
第2次
第3次
第4次
第5次
第6次
第7次
第8次
第9次
第10次
第11次
第12次
第13次
第14次
第15次
第16次
第17次
第18次
第19次
第20次
第21次
第22次

図48　集落の変遷図3

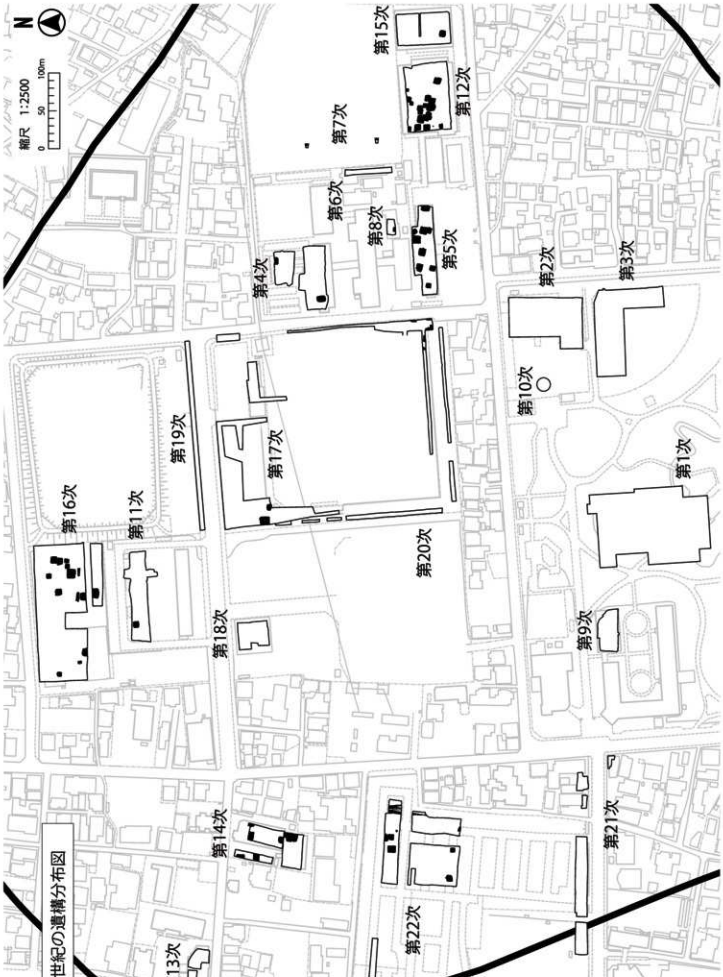

9世紀の遺構分布図
縮尺 1:2500
0 50 100m
N
第1次
第2次
第3次
第4次
第5次
第6次
第7次
第8次
第9次
第10次
第11次
第12次
第13次
第14次
第15次
第16次
第17次
第18次
第19次
第20次
第21次
第22次

図49 集落の変遷図4

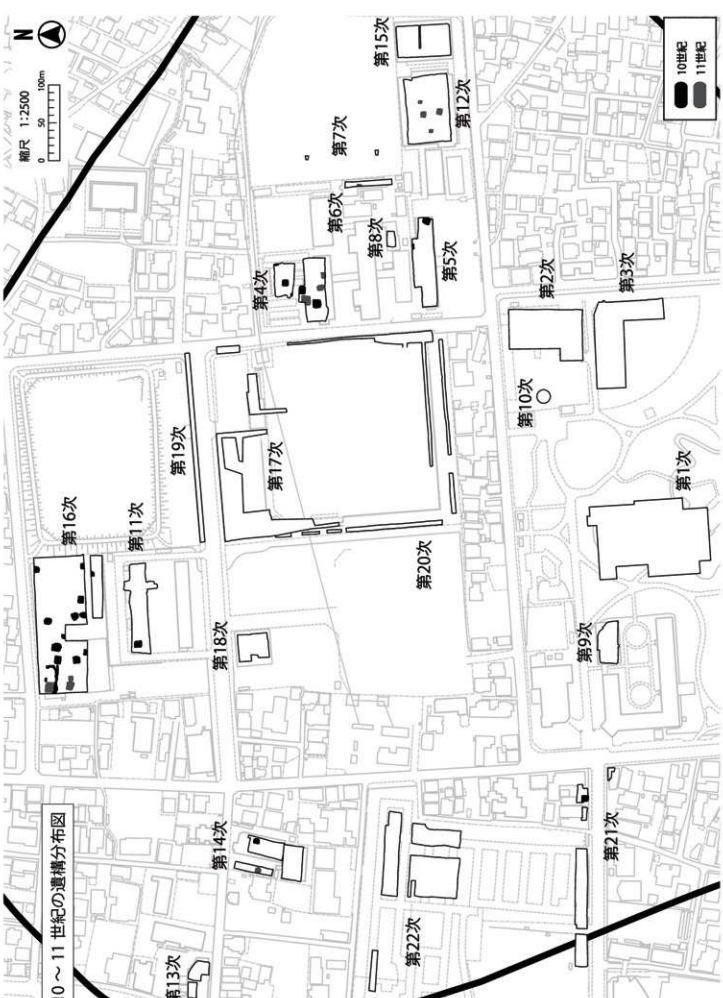

10～11 世紀の遺構分布図
縮尺 1:2500
0 50 100m
N
10世紀
11世紀
第1次
第2次
第3次
第4次
第5次
第6次
第7次
第8次
第9次
第10次
第11次
第12次
第13次
第14次
第15次
第16次
第17次
第18次
第19次
第20次
第21次
第22次

図 50　集落の変遷図 5

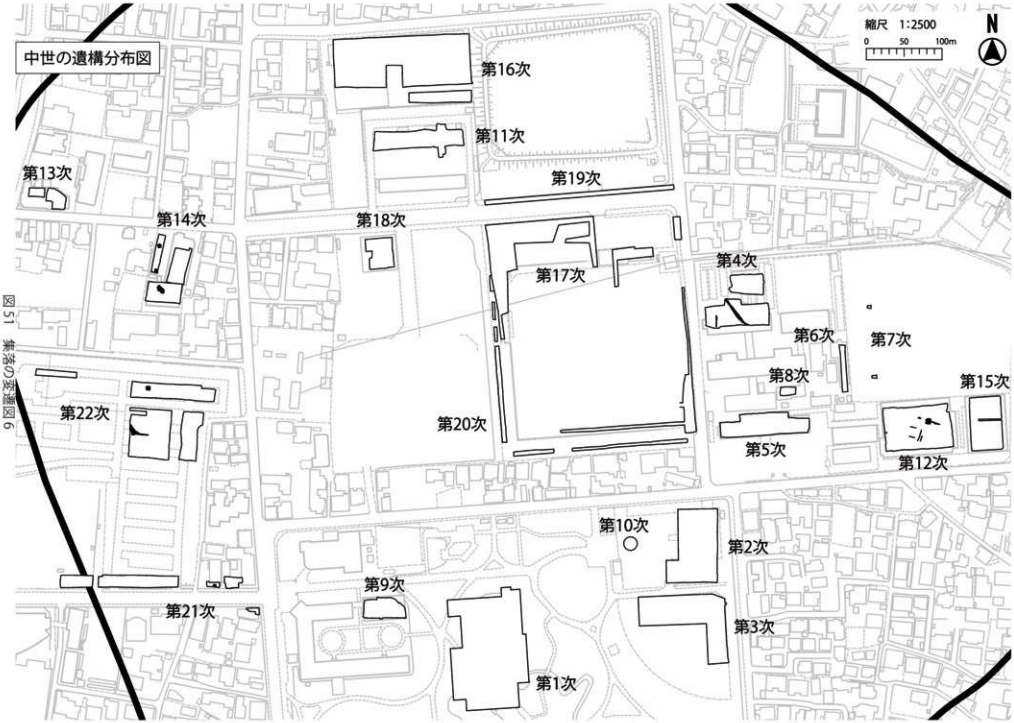

中世の遺構分布図
縮尺 1:2500
0 50 100m
N
第16次
第11次
第19次
第13次
第14次
第18次
第17次
第4次
第6次
第7次
第8次
第15次
第22次
第20次
第5次
第12次
第10次
第2次
第9次
第21次
第3次
第1次

図51 集落の変遷図6

弥生時代～中世の遺構分布図
縮尺 1:10000
0 50 100m
N
第16次
第11次
第19次
第13次
第14次
第18次
第17次
第4次
第6次
第7次
第8次
第15次
第22次
第20次
第5次
第12次
第10次
第2次
第9次
第21次
第3次
第1次
弥生
古墳
奈良
平安
中世
時期不明
自然流路

図 52 集落の変遷図 7

調査地全景（西から）

調査地全景（上が北）

A 区 I 検　全景（上が北）

調査前（北東から）

310 住完掘（南から）

310 住遺物出土状況（南から）

311 住完掘（南から）

311 住カマド内遺物出土状況（南から）

312 住完掘（南から）

313 住完掘（南から）

314 住完掘（南から）

A 区 I 検　竪 1（北から）

A 区 I 検　竪 1 卸皿出土状況（北から）

A 区 I 検　土 11（北から）

A 区 I 検　土 21（南から）

写真図版 4

A 区Ⅰ検　溝 1 ～ 4（南から）

A 区Ⅰ検　溝 5（南から）

A 区Ⅰ検　土器集中 4（西から）

A 区Ⅰ検　検出面　丸鞆出土状況（東から）

A 区Ⅱ検中央部　全景（西から）

A 区Ⅱ検東側　全景（西から）

B 区Ⅰ検　全景（上が北）

写真図版 6

315 住完掘（北から）

315 住遺物出土状況（北から）

B 区 I 検　溝 1・2（北から）

B 区 I 検　溝 3（南から）

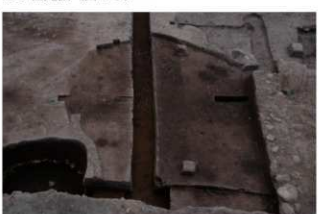
C 区 I 検　全景（上が北）

316 住完掘（北から）

318 住遺物出土状況（南から）

319 住完掘（西から）

319 住緑釉陶器出土状況（東から）



321 住完掘（西から）

C 区 I 検土 31（南から）

C 区 I 検　土 32（東から）

C 区 I 検　土 55（西から）

C 区 I 検　富寿神宝出土状況（東から）

C 区 I 検　隆平永宝出土状況（東から）

C 区 I 検　土師器甕（439）出土状況（北東から）

C 区 I 検　溝 2 完掘（西から）

C 区 I 検　溝 2 土層断面（東から）

C 区 I 検　溝 3・4 完掘（西から）

C 区 I 検　溝 3 礫出土状況（西から）

C 区 I 検　溝 4 礫出土状況（西から）

C 区Ⅱ検　全景（南東から）

C 区Ⅱ検　土 9 土層断面（東から）

C 区Ⅱ検　縄文土器出土状況（南東から）

D 区　全景（西から）

D 区　土層断面（南から）

写真図版 10

緑釉陶器・白磁 （青数字は緑釉表記載の番号）

縮尺約 1/2

中世土器・陶磁器

A I 検 - 竪 1

C I 検 - 溝 2

縮尺約 2/5

特殊品

18
線刻

19
線刻

400
方形皿

43
刷毛塗り痕

196
線刻

425
線刻

399
線刻

216
墨書

458
転用硯

79
内面赤色付着物

493
底部に方形孔

縮尺約 1/4

土器・陶器 (平安)

3
(310 住)

8
(311 住)

38
(311 住)

13
(311 住)

39
(311 住)

15
(311 住)

42
(311 住)

32
(311 住)

43
(311 住)

54
(311 住)

62
(311 住)

66
(312 住)

68
(312 住)

57
(311 住)

78
(313 住)

85
(313 住)

79
(313 住)

86
(313 住)

84
(313 住)

100
(313 住)

縮尺約 1/4

128
(314 住)

412
(A Ⅰ検)

117
(314 住)

150
(318 住)

418
(A Ⅰ検)

451
(C Ⅰ検)

476
(C Ⅰ検)

452
(C Ⅰ検)

465
(C Ⅰ検)

土師器 (古墳)

201
(A Ⅰ検 - 上 21)

215
(C Ⅰ検 - 上 12)

208
(A Ⅰ検 - 上 36)

224
(C Ⅰ検 - 上 36)

228
(C Ⅰ検 - 上 55)

縮尺約 1/4

弥生土器

180
(322 住)

181
(322 住)

182
(322 住)

440
(C I 検)

183
(322 住)

184
(322 住)

371
(A I 検 - 土集 4)

248
(A I 検 - 溝 2)

439
(C I 検)

縄文土器

496
(C II 検)

土製品

土 1

土 2

土 5

土 3

土 4

248・371・439・440・496 は縮尺約 1/4
その他は縮尺約 2/5

1～10・12は原寸大、11・13～15はS=2/3

12 ～ 15 は原寸大、それ以外は S=2/3

報告書抄録

ふりがな	ながのけんまつもとし　あがたまちいせき　だい22じはっくつちょうさほうこくしょ
書名	長野県松本市　県町遺跡　第22次発掘調査報告書
副書名	
巻次	
シリーズ名	松本市文化財調査報告
シリーズ番号	№247
編著者名	栗津原準也、伊藤蔵之介、澤柳秀利、白鳥文彦、原田健司
編集機関	松本市教育委員会
所在地	〒390-8620　松本市丸の内3番7号　TEL 0263-34-3000（代） （記録・資料保管：松本市立考古博物館　松本市中山3738番地1　TEL 0263-86-4710）
発行年月日	令和5年（2023）3月31日（令和4年度）

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード 市町村	遺跡番号	北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
あがたまちいせき 県町遺跡	ながのけんまつもとし 長野県松本市 あがたまちちょうめ 県一丁目	20202	161	36度13分 56秒	137度58分 51秒	2020.6.1 ～ 2021.6.18	のべ 3277.85㎡ （Ⅰ～Ⅱ検の合計）	民間企業による土地利用の変更

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
県町遺跡	集落跡	弥生時代 ～ 中世	竪穴住居址　13軒 竪穴状遺構　1基 溝状遺構　14条 土坑　212基 土器集中部　2カ所	〈土器・陶磁器〉 弥生土器、土師器、黒色土器、須恵器、軟質須恵器、灰釉陶器、緑釉陶器、青・白磁、古瀬戸 〈土製品〉 土錘、円面硯、平瓦 〈石器・石製品〉 石鏃、勾玉、管玉、丸鞆、紡錘車　砥石、凹石 〈金属製品〉 釘、刀子、銭貨	緑釉陶器が出土 陶硯が出土 黒曜石製丸鞆が出土 皇朝銭が出土

要約

県町遺跡の第22次調査で、民間企業による土地利用の変更に伴う緊急発掘調査として実施。A～D区の4地区で2枚の遺構検出面を確認した。また、調査箇所が遺跡範囲西端部であり、集落範囲が概ね遺跡範囲どおりであることを確認した。Ⅰ検は古墳前～中世、Ⅱ検は弥生中期後半の集落跡を調査した。遺構は各時代とも竪穴住居を主体とし、平安時代には集落を区切るような溝が伴う。遺物は各時代の土器が多量に出土し、弥生時代では石器類、平安時代では多数の緑釉陶器や陶硯、皇朝銭（富寿神宝と隆平永宝）、黒曜石製の丸鞆がみられた。

松本市文化財調査報告　№247
長野県松本市
県町遺跡
―第22次発掘調査報告書―

発行日　令和5年3月31日
発行者　松本市教育委員会
〒390-8620
長野県松本市丸の内3番7号
印　刷　電算印刷株式会社